

厚生労働科学研究費補助金  
エイズ対策政策研究事業

MSM に対する有効な HIV 検査提供と  
ハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

－平成 30 年度 総括・分担研究報告書－

研究代表者

金子 典代

名古屋市立大学

平成 31 (2019) 年 3 月

## 目 次

### I. 総括研究報告

- MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究……………1  
研究代表者 金子典代 (名古屋市立大学看護学部)

### II. 分担研究報告

1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施……………13  
研究分担者 岩橋恒太 (特定非営利活動法人 akta)、他
2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善…39  
研究分担者 健山正男 (琉球大学大学院医学研究科)、他
3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大……………45  
研究分担者 和田秀穂 (川崎医科大学血液内科学)、他
4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査……………59  
研究代表者 金子典代 (名古屋市立大学看護学部)、他
5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討 ……………73  
研究分担者 塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物……………95

## MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

### 研究要旨

#### 研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

aktaにて平成30年度末までに990キットを配布、ACCにて790件のスクリーニング検査を実施した。検査結果と行動調査のリンクも97%の対象者から同意を得た。全配布機会であれいす東京の相談員が常駐し、全受け取り者の20%が利用した。aktaでのキット受け取り者の24%が本検査が生涯初検査機会と回答した。ハッテン場でも2回プログラムを実施し49件配布した。2019年2月には那覇市コミュニティセンターmabuiでも実施し22名のキット受け取りがあった。

#### 研究 2. 地方における新たな検査機会の開発-医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県内の25救急告示病院中20施設が参加する研修会を実施した。本研究班で開発したHIV感染症早期診断の手引きを医師会の協力も得て2000部配布した。NGOからも急性感染期に関する知識普及をSNSツールを用いて実施した。初年度試行したコミュニティセンターmabuiでのMSM限定のHIV梅毒検査会を、那覇市により実施し20名の利用があった。

#### 研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

「岡山県もんげ～性病検査」は第1弾は受検者31人、HIV陽性が1件、梅毒陽性が6件であった。第2弾は受検者34人、HIV陽性が2件、梅毒陽性が7件であった。新たにクリニックを愛媛県、広島県(福山市)において開拓し検査を2期に分けて実施し、第1弾は、受検者12人、HIV陽性が0件、梅毒陽性が1件であった。第2弾は受検者18人、HIV陽性が0件、梅毒陽性1件であった。

#### 研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

中四国、九州ブロックでのHIV治療拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019年3月時点で30件を回収した。ゲイバイセクシュアル男性22名分のデータの中途解析を実施した。

#### 研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

インターネット利用に関する項目、Treatment as PreventionやPrEPの知識項目を追加し、中四国地域および横浜、仙台、名古屋地域で実施した行動データの解析、大阪、沖縄地域ではインターネット調査を実施した。本年度は地域ごとに単純集計で分析した。

研究分担者

岩橋 恒太

(特定非営利活動法人 akta 理事長)

健山 正男

(琉球大学大学院医学研究科・准教授)

和田 秀穂

(川崎医科大学血液内科学教授)

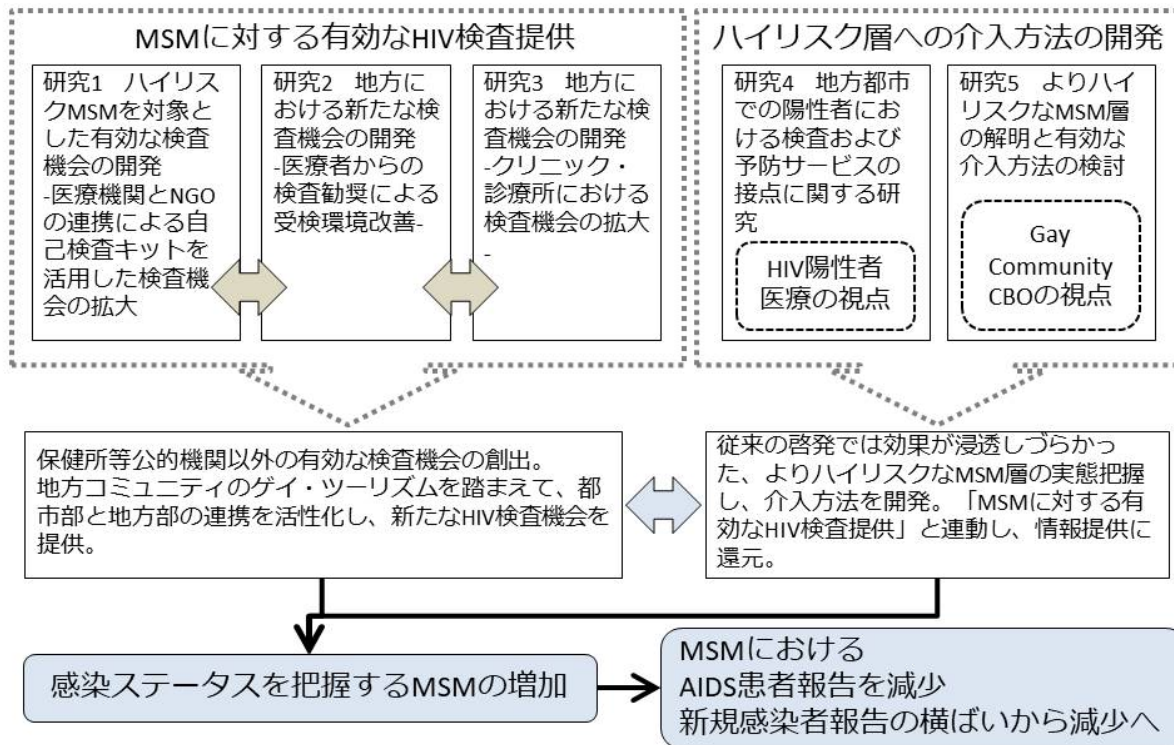
塩野 徳史

(大阪青山大学健康科学部看護学科・講師)

**背景**

- ・感染者の90%が感染ステータスを把握する状況ではない
- ・未受検者や定期的な受検習慣がないMSMに対する介入が必要
- ・よりハイリスクなMSM層を把握し、介入方法を検討することが必要

**全体概要**



**A. 研究目的**

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関とNPO akta が連携して開発した自己検体採取キットの配布と検査、結果通知がパッケージ化されたシステムを活用し、ハイリスクMSMの検査推進を図る。また受検者のHIV感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。
2. 地方都市で、公的機関以外の医療機関等を活用した新たなHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避けるMSMへの検査促進を行う。
3. 当事者NGOが協働し、従来の介入が届きにくかったハイリスクなMSMのインターネットサービスの利用状況を含む実態把握と有効な介入を試行する。

**B. 研究方法**

**研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施**

研究分担者 岩橋恒太

医療機関（国立国際医療センター：ACC）とNPOが連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。

本検査は、原則下記の流れで実施する。①NGOスタッフが対面で自己穿刺の方法、結果告知から診療機関受診の流れを説明し、キットを配布し自記式質問紙調査への回答協力を依頼。②受検者は後日自己穿刺血をACCに郵送。③ACCでのスクリーニング検査結果は、受検者固有のIDとパスワードを専用WEBサイトに入力することで検査結果ページにアクセスが可能とする。④スクリーニングで要確認となった場合は、医療機関の予約と受診につなぎ、確定検査で陽性の場合にはHIV専門医療機関を紹介。⑤配布日には相談スタッフを常駐させWEBサイトには検査・相談・医療に

関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知を行う。

H30 年は、首都圏のコミュニティセンター akta とゲイ向け商業施設、沖縄県でキットの配布と質問紙調査を実施する。1,000 件/年の検査を提供し、有病割合を算出し、行動疫学調査を実施する。H30 年はコミュニティセンター akta と都内のゲイ向け商業施設ハッテン場での配布を 2 回行う。また受検者の検査結果と質問紙調査データをリンクして分析を行う。H31 年 2 月に沖縄コミュニティセンター mabui で検査キットの配布・初回評価を行う。

## 研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受 検環境改善 -

研究分担者 健山正男

地方在住の自発的な検査行動に至りにくい MSM の背景をコミュニティベースの質問紙調査で把握する。医療者を対象に HIV 早期診断の啓蒙、急性感染症状を呈する MSM への検査推奨を医療関係者とコミュニティ両方に対して実施する。

調査地域：沖縄県

H30 年度は救急告知病院での HIV 早期診断の啓蒙のための研修と啓発資料の配布、MSM 向け商業施設での急性感染期の知識の浸透度評価の調査、コミュニティへのバナーを活用した啓発を実施する。コミュニティセンターでの MSM 限定検査を保健所が主体になり実施する。

## 研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡 大

研究分担者 和田秀穂

岡山県での医療機関を活用した MSM 向け検査モデルを中四国ブロックにて普及させ、受検者動向調査、コミュニティベース調査により評価を行う。

調査地域：岡山県、愛媛県、広島県、その他中四国ブロック

H30 年度は新たに愛媛県、広島県での民間医療機関を開拓し、MSM にむけて二期に分けて検査提供を実施する。また香川県での新規機関開拓、インターネットを活用した CBO の広域広報により本プログラムの中四国全体への浸透・定着を図る。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行うものとする。

## 研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー ビスの接点に関する調査

研究分担者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。H30 年度は中四国、九州ブロックそれぞれの拠点病院において質問紙の配布回収、中間解析を実施する。

## 研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有 効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

H30 年度は初年度に中四国、仙台、横浜のゲイコミュニティにて回収した 896 件のデータの解析、大阪、沖縄、東海地域でデータを収集する。全国の 7 つの NGO と連携し、検査未受検の理由や MSM 向けインターネットサービス利用状況把握に焦点を当てた横断型自記式質問紙調査を実施する。

調査地域：東北、首都圏、横浜、東海、大阪、中四国、沖縄

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受

けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

## C. 研究結果

### 研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

検査結果通知と受診へのつながりの WEB システムの構築と ACC での基礎検討を終え、H29 年度末(2月26日)よりコミュニティセンター akta での検査キットの配布を開始し年度末まで配布を実施した(2019 年も継続して配布する)。H30 年度は、新たに東京都内のハッテン場において検査キットの配布を 2 回行った。2 回配布プログラムを実施し 49 件配布した。H30 年 2 月から H30 年度末までに 990 キットを配布、ACC では 790 件のスクリーニング検査を実施、陽性は H30 年度末までで総計 20 件であった。検査結果と行動調査のリンクも 97%の対象者から同意を得た。全配布機会ですべていす東京の専門相談員が常駐し、20%が利用した。利用者の 24%が本検査が生涯初検査機会であった。2019 年 2 月には那覇市コミュニティセンター mabui でも実施し 22 名の利用があった。

### 研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

急性感染期を疑う症状をまとめた医療者向けパンフレットを作製した。沖縄県内の医療機関にパンフレット 2000 部を配布した。コミュニティセンター mabui からも急性感染期の症状をまとめた情報配信を実施し、検査行動促進につなげる活動を展開した。また 2018

年 12 月にコミュニティセンター mabui において、MSM 向けの検査提供を那覇市の検査事業として行い 20 件の利用者があった。

沖縄県の MSM における HIV 陽性患者の特性の分析の結果、MSM 以外のコントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した。そこで受検の阻害要因を分析したところ、下記が明らかとなった。

1. STI 有病率は AIDS が有意に高かった。
2. 無症候性キャリアーの受検動機は自主的が最も高かった。
3. 対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

### 研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大

H30 年度からの中四国地域での検査の拡大展開のため、香川県や愛媛県と協議が進行した。特に愛媛県では、2 施設の参加クリニックが選定され、せとうちクリニック検査として広報展開と検査実施を 2 回に分けて実施した。「岡山県もんげ〜性病検査」は第 1 弾は受検者 31 人、HIV 陽性が 1 件、梅毒陽性が 6 件であった。第 2 弾は受検者 34 人、HIV 陽性が 2 件、梅毒陽性が 7 件であった。新たにクリニックを愛媛県、広島県(福山市)において開拓し検査を 2 期に分けて実施し、第 1 弾は、受検者 12 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性が 1 件であった。第 2 弾は受検者 18 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性 1 件であった。

### 研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

中四国、九州ブロックでの HIV 治療拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019 年 3 月時点で 30 件を回収した。ゲイバイセクシュアル男性 22 名分のデータの中途解析を実施した。地方都市では急性感染症状を発症

した際に病院を受診しても HIV 検査を勧められていない可能性があることが示唆された。陽性判明前に検査を受けたことがあるものは 23%であった。HIV の感染経路や予防方法についての知識はあるものの、HIV 治療薬の進歩による延命効果や、医療費の助成制度の認知は低いことが示唆された。

#### 研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、よりハイリスクな層を明確化するために、インターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、新たな質問紙を作成し調査を実施した。初年度の横浜、東北地域での質問紙調査データ (N=896) の年齢別解析を進めた。地方都市居住 MSM においても HIV 治療・予防の新しい知識 (TasP や U=U 等) の保有は検査行動に正に関連することを示した。H30 年度は沖縄、大阪でもインターネット調査を実施した (N=400)。東海地域でもデータを収集した。

#### D. 考察

研究 1 は、最終年度も、目標配布数達成に向け、広報と配布を強化する。H31 年度はハッテン場での配布を終え、地方都市での実施予定である。首都圏で展開してきた「HIVcheck.jp」が他地域でも実施可能かの検証を進めていく必要がある。スクリーニング陽性者の確認検査のための医療へのつなぎを向上できるよう、検討を重ねていく。またハイリスクな MSM へ本検査を届けるための広報、配布場所のあり方も引き続き検証していく。研究 2 については、HIV 早期診断のために、医療者への適切なタイミングでの検査勧奨の促進、MSM コミュニティへの急性感染期症状の知識普及の取り組みを実施できた。最終年度はこの介入の効果を評価していく。また沖縄県の HIV 陽性者の MSM と非 MSM の比較分析

から、MSM においては、HIV 受検率が有意に低いことを示した。無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。研究 3 は新たにクリニックを開拓することができた。中四国は当事者 NGO の活動基盤も脆弱であるため広域連携など工夫をしながら、本検査の定着を図っていく必要がある。研究 5 では、全国 NGO と協働し、質問紙調査結果に基づき、検査未受検層、ハイリスク層を明確化していく。抗 HIV 薬の服薬治療により、ウイルス量が検出限界未満を維持することで、他者に感染させる可能性がほぼなくなるといった新しい知識の保有と検査行動の正の関連も示された。これらの新しい知識の普及とともにハイリスク MSM 層へ届く介入方法も検討していく。

#### 1) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達のためにも、self-testing の手法の一つである「HIVcheck.jp」が MSM コミュニティにて浸透しうるかを検証する試みは社会的にも意義が高い。地方都市では、急性感染期の医療機関の早期受診の促進、医療者からの適切な時期に検査勧奨を行うことはきわめて重要である。医療とコミュニティが協働し、医療者、MSM コミュニティ双方に働きかける社会的意義は大きい。NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用した MSM への HIV 検査の事業化に成功したモデル事例を周辺県にも拡大させることは、他の地方都市にもモデルになりうる。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。

今後の展望について、本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化や MSM 向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整

備、介入の展開につないでいくことが期待される。

## E. 結論

研究は総じて計画通りに進行した。最終年度に向けて首都圏での「HIVcheck.jp」がコミュニティセンター以外でも実施できるか、地方都市のMSMコミュニティにて浸透しうるか、より検査が必要なMSMの検査機会の拡大につながりうるかの検証を行う。また行政や医療機関にも幅広く成果を公表し、今後の検討へつないでいく。沖縄県、中四国での医療機関等を活用した検査促進も、NGOと行政と医療との協働による取り組みとなっており他の地方都市のモデルとなるよう検証を進める。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスクMSMの実態把握調査により、よりハイリスクな層へのアウトリーチ、新たな感染を抑制する試みへとつなげていく。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

研究代表者

金子典代

### 1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性. 厚生学の指標, 2018, 65(5) 35-42.

### 2. 学会発表 (国内)

- 1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代,

岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) 椎野禎一郎, 蜂谷敦子, 今橋真弓, 松田昌和, 岩谷靖雅, 横幕能行, 金子典代, 羽柴知恵子, 吉村和久: 国内伝播クラスタの検索プログラムの開発2: 東海地方で若年層に急速に伝播を広げるクラスタの検出. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的, HIV 検査行動, 性行動, 陽性者の身近さ. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 今橋真弓, 金子典代, 椎野禎一郎, 松田昌和, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行, 羽柴知恵子: 名古屋医療センターにおける2009~2016年未治療初診患者の後方視的生存率検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高いMSM層の実態把握とHIV抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村頭史: MSMを対象とする、郵送検査手法を用いた新たなHIV検査機会としての



「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

8) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018

#### 研究分担者

岩橋恒太

##### 1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○Takano M, Iwahashi K, Satoh I, Araki J, Kinami T, Ikushima Y, Fukuhara T, Obinata H, Nakayama Y, Kikuchi Y, Oka S; HIV Check Study Group: Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots delivered through the postal service. BMC Infect Dis., 2018, 18(1), 627.

##### 2. 学会発表 (国内)

- 1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代, 岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝

大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 4) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 今村顕史: コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 貞升健志, 長島真美, 生島 嗣, 堅多敦子, 市川誠一, 今村顕史 3 HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅 2017」の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 今村顕史, 堅多敦子, 岩橋恒太, 生島嗣: A 型肝炎の流行におけるハイリスク層への効果的な啓発方法の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

#### 塩野徳史

##### 1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性. 厚生指針, 2018, 65(5) 35-42.

## 2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018
- 3) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子: HIV 陽性者のかかりつけ医への通院状況. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 塩野徳史ら: HIV 陽性者での Treatment as Prevention (TasP) の認知状況と性生活・メンタルヘルスとの関連. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 6) 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 米倉佑貴, 大島岳, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子: HIV 陽性者における依存性薬物使用の変化とストレス関連成長・ストレス対処力との関連 3 年間の縦断データ分析より. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 7) 大島岳, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介,

米倉佑貴, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子, 渡邊淳子, 梅沢寛子: 板垣貴志: 差別偏見を感じている HIV 陽性者当事者の対処戦略に関する自由記載のテキストマイニング分析. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

- 8) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子: HIV 陽性者の子どもを持つことの現状. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 9) 阿部桜子, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 細川陸也, 塩野徳史, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子, 米倉佑貴, 河合薫, 渡邊淳子, 梅沢寛子: HIV に関連したスティグマと感染後年数との関連の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 10) 塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発. 日本エイズ学会シンポジウムシンポジウム 9. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

## 健山正男

### 1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

## 2. 学会発表（国内）

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 健山正男ら: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

和田秀穂

### 1. 論文発表

- 1) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果の検討. 日本エイズ学会誌 2018,

20(3):216-221.

## 2. 学会発表（国内）

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) 野村直幸, 松井綾香, 飯塚暁子, 藤原千尋, 門田悦子, 木梨貴博, 村上由佳, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 9 薬剤師介入による当院通院中の HIV 感染者における梅毒・B 型肝炎・C 型肝炎の罹患動向の把握と薬剤の適正使用に関する取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 3) 松井綾香, 野村直幸, 村上由佳, 藤原千尋, 飯塚暁子, 木梨貴博, 門田悦子, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 当院における TAF 変更例の腎機能、血中脂質への影響について, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 竹内麻子, 橋本誠也, 徳永博敏, 林 成樹, 内田圭一, 松本誠司, 安井晴之進, 横井桃子, 廣瀬匡, 清水里紗, 佐野史典, 近藤敏範, 松橋佳子, 中桐逸博, 近藤英生, 和田秀穂: Kaposi 肉腫に合併した難治性温式自己免疫性溶血性貧血の治療に苦慮した AIDS 症例, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 三笠かおる, 大島瑞穂, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: HIV 感染者においてかかりつけ医を持つことに対して障壁となっている心理・社会的要因の調査と検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

## 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

研究分担者:岩橋恒太(特定非営利活動法人 akta 理事長)

研究協力者:金子典代、高久道子(名古屋市立大学看護学部)

高野操、岡慎一、林田庸総(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

本間隆之(山梨県立大学看護学部)

健山正男、宮城京子(琉球大学医学部)

荒木順子、木南拓也、藤原孝大、Diego Tavares Vasques、小山輝道、鈴木敦大(特定非営利活動法人 akta/community center akta)

浅沼智也(カラフル@はーと/community center akta)

生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥(特定非営利活動法人ふれいす東京)

玉城祐貴、赤嶺友紀、兼城将(nankr 沖縄 / コミュニティセンターmabui)

中山保世、小日向弘雄(東新宿こころのクリニック)

今村顕史(がん・感染症センター 都立駒込病院)

市川誠一(人間環境大学大学院看護学研究科)

### 研究要旨

我が国の HIV 新規感染報告者数の 7 割は男性同性間の性的接触による感染であり、ゲイ・バイセクシュアル男性は HIV 感染の早期発見のための検査受検勧奨の重要なターゲット層となっている。UNAIDS(国連エイズ合同計画)は以下の 3 つを達成できれば、2030 年にはエイズは公衆衛生上の脅威ではなくなることを示し、90-90-90 戦略として打ち出している。その 3 つとはすなわち、①HIV 感染者のうち 90%が診断されていること、②診断された感染者のうち 90%が治療を受けていること、③治療を受けているもののうちウイルス量が抑制されている患者数が 90%であることである。日本では、②、③はほぼ到達できていることが先行研究等により示されているが、我が国の男性と性行為を行う男性(Men who have sex with men:MSM)では感染者の 90%が感染ステータスを把握する状況には未到達である。今後のわが国での新規 HIV 感染者とエイズ患者の報告を減少させるためには、従来の公的機関や医療機関にて提供される検査以外の手法も検討し、MSM の検査機会を拡大させる必要がある。

本研究では、コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用したハイリスク MSM 層の受検推進とこのコミュニティベースの DBS 法を用いた HIV 検査の事業化に向けた検討を図る。また本検査手法を用いて、受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。

なお、本研究の前身となる取り組みが平成 26 年度から平成 28 年度にかけて国際医療研究開発費疾病研究分野「UNAIDS が掲げる臨床評価指標 90-90-90 達成のための男性同性愛者に対する

新しい HIV 検査システムの構築に関する研究(研究代表者:岡慎一)」として実施された。平成 27 年 8 月から平成 28 年 12 月までに 1,702 件の検査キットを配布し、1,403 件(陽性 34 件)の回収実績を得ている。本研究はこの先行研究をもとに、HIV 検査の hard to reach 層を指定し、更に検査キットの配布場所と配布対象者を拡大する。新宿地域での配布に加え、沖縄など他地域の地方のコミュニティセンターでの配布の試行、さらにハッテン場(性行為を目的とした MSM の出会いの場)等での出張配布、英語であれば説明文章の理解とコミュニケーションをとることが可能な外国籍 MSM を対象者に加え、拡大する。また、研究参加者の検査結果と自記式質問紙調査データを研究 ID により連結させた血清行動疫学調査を実施する。

## A. 研究目的

コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用した HIV 検査を MSM に提供し、MSM の有病割合を明らかにする。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、本研究が MSM の HIV 検査促進に寄与したかどうかを評価するとともに、陽性者の検査行動、リスク行動の特性を明らかにする。

## B. 研究方法

指先の血液を絞り出し、ろ紙に垂らす。乾燥させたろ紙血を国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター(ACC)へ郵便で送付する。ACC ラボで HIV 一次スクリーニング検査を実施する。一次スクリーニング検査で陽性または判定保留となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次スクリーニング検査を実施し、両者の結果をもとに総合判定を行う。研究参加者は本研究のホームページにて検査結果照会画面にアクセスし、検査キットに付された研究 ID およびパスワードを用いてログイン後、自身の検査結果を確認する。スクリーニング検査で判定保留または陽性となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」と結果を表示し、本研究の協力医療機関へ受診するよう促す(結果画面から協力医療機関の受診予約が可能)。研究参加の同意取得は無記名で行い、

DBS によるスクリーニング検査の結果参照まで無料・匿名で実施する。確認検査のために医療機関を受診した時点から一般診療(非匿名、有料)として扱う。

### 研究の主要評価項目

(1) HIV 検査キットを利用した MSM の HIV 感染症 有病割合

### 研究の副次的評価項目

- (1) 検査キット配布地域、配布場所別の HIV 感染症有病割合
- (2) 検査キット利用者のうち、過去 1 年以上 HIV 検査を受けていない MSM の割合
- (3) 検査キット利用者のうち、生涯に HIV 検査を受けたことがない MSM の割合
- (4) 検査キット配布地域、配布場所別受検者の検査行動、リスク行動
- (5) HIV 感染が判明した MSM の検査行動、リスク行動の特性

### 対象

以下の条件を全て満たすものを本研究の対象者とする。

- (1) 20 歳以上で、男性と性行為経験のある男性(MSM)
- (2) 日本語または英語を理解できる者
- (3) 研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

## 研究期間

倫理委員会承認後(2018年2月)～2020年3月

東京都内の保健所および公的 HIV 検査所で実施されている HIV 検査件数は年間約 20,000 件であり、そのうち MSM の受検者の割合は「エイズ予防のための戦略研究」の結果から 6.6%～12.4%と考えられる。仮に MSM 受検者の割合を 10%と推定した場合、都内の保健所等で HIV 検査を受ける MSM は年間約 2,000 件である。

本研究では、保健所および公的 HIV 検査所における年間 MSM 受検者数の約半数に相当する MSM(年間 1,500 件)に対して、本研究の検査を提供することを目標として実施する。

## 研究ホームページ「[HIVcheck.jp](http://HIVcheck.jp)」の構築

本研究は不特定多数の MSM を対象とするため、本研究に係るホームページを開設し、研究内容の周知を図る。本研究の概要、検査の流れ、検査キット受け取り方法、結果の受け取り方、検査に関する Q&A、その他支援情報等を掲載する。ホームページはスマートフォン、パソコン対応とする。サイトには下記情報を含むものとする。

- ①研究の概要(対象、研究期間、研究組織、問い合わせ先)
- ②本研究での検査キットを活用した検査の流れ
- ③検体採取の方法(動画を含む)
- ④HIV 検査に関する Q&A(ウィンドウピリオド、結果の解釈など)
- ⑤HIV 感染症に関する Q&A(早期検査の意義、陽性判明後の治療や生活など)
- ⑥支援情報(利用可能な電話相談、HIV 検査情報、HIV の基礎情報や陽性後判明後の治療や生活について情報提供している Web サイトの紹介)

## ⑦具体的な研究参加の手順と検査キット受け取りの流れ

- 参加基準に合致するかの確認
- 研究参加への同意
- 質問紙調査への協力をお願い
- 質問紙調査の結果と血液検査の結果を連結することについての同意
- 検査キットの配布
- 相談員による対面相談の提供
- 本研究に関する問い合わせ先

## ⑧スクリーニング検査結果照会画面

各検査キットに封入された検査カードには、検査キット固有の研究 ID と検査結果閲覧に必要なパスワードが記載されている。検査結果照会画面にこの研究 ID とパスワードを入力し、検査結果を参照できる。検査結果の表示には以下の内容が含まれる。

- 結果の解釈に関する情報
- 結果に関する問い合わせ先
- 相談窓口

## ⑨確認検査受診申し込み

スクリーニング検査の結果が陽性判定または判定保留となった場合は、確認検査が必要なため、結果画面に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受検者は同 Web サイトより、受診を希望する医療機関(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター、東新宿こころのクリニック、都立駒込病院)と日時を選択する。予約確定後、当該医療機関宛の情報提供書が発行される。

## ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

MSMを対象にHIVの予防啓発を行っているNGOと連携し、検査キット配布地域のゲイコミュニティに対して、本研究で実施するHIV検査の内容や研究ホームページ、検査キットの配布場所を広報する。

具体的には、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした出会い系ソーシャルネットワークサイトにおいてバナー広告を設置し、研究ホームページにリンクする。また、ゲイバーやクラブイベントにおけるチラシの配布、ゲイショップにおける折り込みチラシ、ハッテン場におけるチラシの設置など、本研究の広報を段階的に拡大する。

### 検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

研究参加希望者は、新宿やその他の地域に設置されたコミュニティセンターakta(厚生労働省の事業費で設置されているMSMのHIV予防啓発拠点)、またはゲイ向け商業施設内に設置する出張ブースに来場する。訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、研究参加者の適格基準を確認する。本検査は研究として実施している検査である事、血液の採取方法、結果の受け取り方、陽性となった場合の医療機関への受診の流れ、問い合わせ先等、説明文書に沿って説明し、研究参加について同意を得る。同意を得た研究参加者に対してHIV検査キットを配布する。また同時に、自記式質問紙調査への回答協力を依頼する。自記式質問紙調査は無記名で行うが、検査結果との連結に同意した参加者の質問紙には、検査キットに付された研究IDラベルを貼付する。

### 血液の採取と検査申込み

研究参加者は検査キットを自宅などに持ち帰り、検査キットに同封された検体採取の説明書を参考にして、ランセットを用いて自身

の指先を穿刺し、ろ紙に血液をしみこませる。検体(血液をしみこませたろ紙)、使用済ランセットを返送用封筒に入れて、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付する。なお、ランセットは、1回のみ使用できる器具で試し打ちは出来ないようになっている。針は、穿刺後自動的に格納される。受検者は検査キットに同封された検査キット固有の研究IDと仮パスワード(研究参加者自身が何度でも変更が可能である)が記載されたカードを保管する。

検査キットを持ち帰ったものの、研究参加を取りやめ、検査キットが不要になった場合は、各自が居住する自治体のルールに従って廃棄する。廃棄の方法が不明である場合は、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付しても構わない。

### 検査の受付と HIV スクリーニング検査の実施

ACC ラボにて検体を受領後、検査担当者は、検査受付(ID登録)を行い、スクリーニング検査を実施する。スクリーニング検査で陽性となった検体は、国立国際医療研究センター 中央検査部にて二次検査を実施し、HIV感染の有無を判定する。結果を検査システムに入力する。

### 検査結果の通知

研究参加者は、研究ホームページの検査結果照会画面より、検査カードに記載されたキット固有の研究ID、パスワードを入力してログインし、検査結果を閲覧する。

検体がラボに到着していない場合は「未到着」、結果が出ていない場合は、検査中と表示する。スクリーニング検査陰性の場合「陰性」、判定保留または陽性の場合「確認検査が必要です」と表示する。検体量が不



足するなど検査ができなかった場合は、「判定不能」と表示する。

検査結果照会画面には陰性または要確認検査の意味、結果の解釈を表示する。また、HIV検査に関する疑問や不安が生じた際の相談窓口を明示する。

### 確認検査の実施(研究結果の取り扱いと医療の提供)

HIVスクリーニング検査陽性または判定保留となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」という結果表示に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を同研究ウェブサイト上で明示する。受診希望の医療機関を選択後、受診希望日、時間を選択する。また、同サイトから当該医療機関宛の情報提供書を発行する。

確認検査が必要となった者は、選択した日時に予約医療機関を受診する。他の医療機関または保健所での確認検査を希望する者に対しても、関係機関宛の情報提供書を発行し、受診の際には、情報提供書を持参するよう促す。

スクリーニング検査陽性または判定保留者に対する診療は一般診療であり、通常の医療機関受診と同じく、有料、実名診療となる。確認検査にて陽性が確定した場合には、各医療機関で告知を行い、必要に応じて専門医療機関を紹介する。感染症法に基づく発生届の作成と提出は、確認検査実施施設にて行う。

### 支援情報の提供

研究ホームページには、検査・相談・医療に関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知に留意する。本研究の実施に関する相談窓口、検査や検査結果受領後の不安に関する相談窓口を明記する。

### 本研究で用いる検査

HIVスクリーニング検査キットの内容：  
検査説明書、検査カード(ID/パスワード控え、支援情報等)、返信用封筒、穿刺血採取キット(ランセット、消毒綿、絆創膏、ろ紙)

### HIV検査の流れと判定基準

HIV検査手順は、米国CDCが推奨するHIV検査手順(2014年6月27日改訂)4)に準じ、第四世代のHIV-1/2スクリーニングを行い、その後、別の検査試薬を用いてHIV感染の有無を判定する。

①ろ紙にしみこんだ乾燥血液をパンチで打ち抜き、リン酸バッファー液(PBS) 600 $\mu$ Lにて溶出。

②この溶出液 200 $\mu$ Lを検体として富士レビオ社のルミパルスOR HIV Ag/Abキット(第4世代キット)を用いてHIV-1およびHIV-2のスクリーニング検査を行う。

③陰性の場合には、この段階で陰性の判定。

④陽性の場合には、国立国際医療研究センター中央検査部にてシスメック社のヒスクルHIVAg/Ab(第4世代検査キット)を用いて二次検査を行い、最終判定する。判定保留例と陽性例は、研究ホームページ上で「確認検査が必要です」と表示する。

⑤検体量が不十分、もしくは何らかの理由で検査が出来なかった場合には、もう一度自己穿刺血の再送を促す。

### HIVスクリーニング検査の結果表示に対する説明

①陰性:今回の検査ではHIV感染は認められませんでした。HIV陰性と判定いたします。なお、今後も年2回の検査をお勧めいたします。

②確認検査が必要です:より精密な検査(確認検査)が必要です。下記提携医療機関では、精密検査(確認検査)を実施しています。い

れかの医療機関を選択し、確認検査予約画面に進んで下さい。医療機関を受診する際には、予約確定後に表示される情報提供書を印刷して持参して下さい。当日は保険証をご持参ください。他の医療機関または保健所での検査をご希望の場合も、情報提供書を印刷して持参することをお勧めします。

③判定不能:今回送っていただいた血液では、量が不十分、もしくは何らかの理由で検査ができませんでした。再度検査キットを受け取り、検査していただきますようお願いいたします。

### 倫理面への配慮

本研究については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会により実施の承認を得ている(2017年12月12日承認、ID番号17017-3)。あわせて、国立研究開発法人国立国際医療研究センター倫理委員会により実施の承認を得ている(2018年2月9日承認、承認番号NCGM-G-002463-00)。

また本研究計画は対象者リクルート前にUMINに登録し、公開を行っている(UMIN 試験ID:UMIN000031460、受付番号:R000035885、試験名:MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究「自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」)。

①検査キットを受け取りに来場した者(研究参加希望者)に対して、十分な訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、説明同意文書の内容に沿って本研究の説明を行う。検査結果と自記式質問紙の回答内容との連結については、研究参加者の任意とし、拒否する場合も本研究の検査の参加を妨げない。研究参加希望者は、自由意思に基づき研究参加の意思を決定する。説明同意文書末尾に設けられた同意欄にチェックが入った場合、研究参

加の同意が得られたものとする。本研究は匿名で実施することから、署名は不要とする。説明同意文書の原本は名古屋市立大学が保管し、控えを研究参加者に手渡す。

日本語は読めないが、英語で理解が可能な外国籍のMSMに対しては、英語の説明同意文書を用いて、研究参加者の求めに応じて英語で口頭にて説明し、研究参加の意思を確認する。そのため、検査キット配布会場に英語が話せるスタッフを配置する。検査キットの使い方説明書は日本語と英語で準備し、結果参照画面は日本語と英語の併記でホームページを作成する。

### ②プライバシーの保護と研究参加者の識別

研究参加の同意から検査キットの配布、検査結果の通知まですべて匿名で実施する。そのため、対応表は存在しない。検査結果は検査キットに付された研究IDで管理され、受検者は研究IDとパスワードで結果の閲覧を行う。

研究参加者に対する自記式質問紙調査では、性的指向や年齢、居住地域を収集するが、名前や住所、連絡先など個人を特定できる情報は収集しない。研究で収集したデータはすべて研究IDで管理する。研究で収集したデータを取扱うのは本研究に参加する研究者のみとし、本研究以外の目的には使用しない。研究者は、データの取扱いに十分注意し、研究代表者および研究協力者は適切な取扱いがなされるよう必要な対応を行う。

なお、本研究のホームページにアクセスした人のIPアドレスは研究終了後適切に削除する。

### ③収集データおよび試料の保管と廃棄

本研究の参加同意書および自記式質問紙の原本、本研究で収集したデータは、研究終了の報告後少なくとも5年間は名古屋市立大学看護学部で保管する。廃棄する場合は、印刷資料、電子媒体データなど、いずれの資料も

物理的に内容の読み取りが不可能な状態にした後で廃棄する。書き換え不可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に破壊した上で適切に廃棄する。書き換え可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に電子媒体を破壊して廃棄するか、ダミーデータを複数回上書きして、元のデータを復元不可能な状態にする。

研究参加者から受領したろ紙の残血液は、研究終了の報告後少なくとも5年間は国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボにて保管する。保管期限を過ぎたろ紙を廃棄する場合は、通常の血液検体と同様の方法で廃棄する。溶出液は検査後感染性廃棄物として廃棄する。検体を本研究以外の目的に使用することはない。

#### ④研究参加者からの相談等への対応

本研究に係る問い合わせ先および研究代表者の情報を研究ホームページ、説明同意文書、検査キットに明記し、研究参加者などからの相談に対応する。

## C. 研究結果

### 1. 検査キットの配布および相談支援

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19-22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行った。配布時に、ふれいす東京の専門相談員が同時間、コミュニティセンターaktaに控えている。相談を希望する研究参加者には相談員を紹介し、相談支援を行っている。

コミュニティセンターaktaでの通常の配布は、平成30年2月26日から平成31年3月25日までに、53回実施した。検査キットの配布数は990個で、相談は220件だった。なお今年度実施した、ハッテン場での配布2回、スペシャルデー1回、コミュニティセンターmabuiでの配布1回の合計は、検査キットの配布数が100個、相談が21件だった。そのた

め、今年度の総計は検査キットの配布数が1,090個、相談が241件だった。

### 2. スクリーニング検査の検体受付と検査の実施

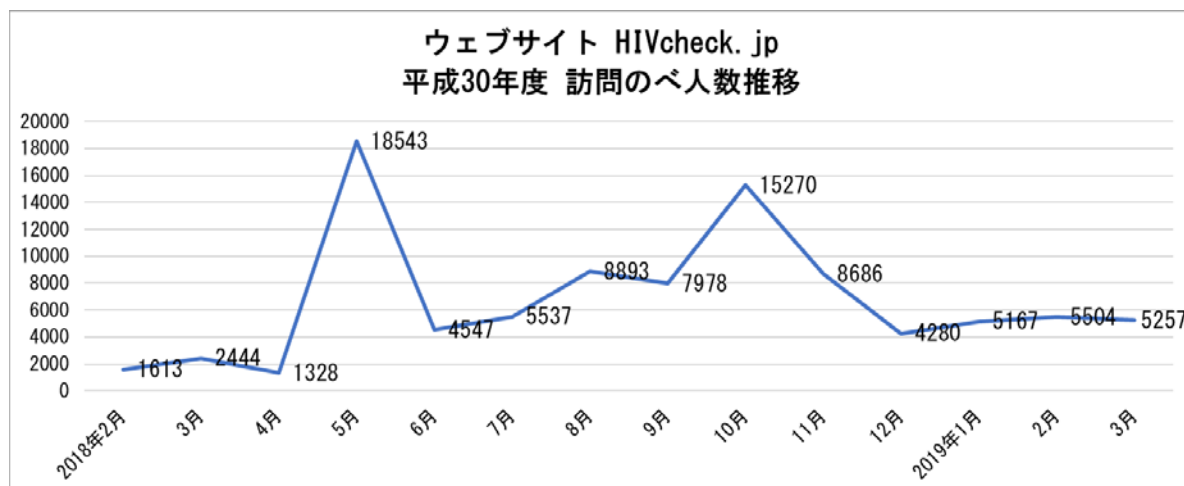
HIVcheck.jpでは、研究参加者が自宅等で採血をし、検査キットの中にある返送用封筒を使用して、国立国際医療研究センターACCのラボに郵送を行う。ラボに届いた検体は順次検査を実施し、平均で到着後2~3日の間には、研究参加者に検査結果を戻している。

平成30年2月から平成31年3月末までの総数での検体の回収数は847個であり、今年度の検査キットの回収割合は77.7%となった。なお、コミュニティセンターakta以外での配布基点について紙幅の関係上、今年度は分けての報告は行わないが、ろ紙にマークを付すなどして区別が可能となるようにしている。

今年度のスクリーニング陽性の件数は20件であり、暫定陽性割合は2.36%だった(ただし、すでにこの研究期間にHIVcheck.jp自体を定期的に利用している研究参加者が含まれるため、陽性割合の検討には更なるデータ分析が必要とされる)。今年度回収した検体のうち、検査を実施できなかったものは2件だった。ろ紙に着けられた血液量が極度に足りないもの、また返送時に消毒綿とろ紙を一緒に回収用の袋に入れてしまい、血液がろ紙に拡散してしまったものがあった。

### 3. 研究ホームページ「HIVcheck.jp」の運営とゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報・啓発

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出



会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは、今年度、平成30年5月と10月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「新宿二丁目ですター！」と「定期的に受けられる！」とした。特に10月に実施したキャンペーンテーマでは、国際的なエイズ対策の文脈では、MSMに対して年1～4回の定期的なHIV検査の受検勧奨が推奨されていることを踏まえ、「定期的」というメッセージを込めた。5月のキャンペーンではゲイ雑誌と連携してHIVcheck.jpの特集記事を掲載し、10月のキャンペーンでは特集ウェブページを作成、公開をした。

平成30年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のアクセス数について、のべ95,047人となった。なお分析には、google analyticsを用いた。キャンペーンを実施した5月と10月には、顕著にアクセス数が伸びている。また、使用しているデバイスは、スマートフォンが91.0%、タブレットが4.6%、PCが4.4%と、スマートフォンに注力した啓発、ウェブ施策が必要ながわかる。ユーザーがアクセスする際の地域で見ると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で60%を超えていた。一方で、大阪府(15.2%)、愛知県(5.3%)からのアクセスもみられた。

HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「特集ウェブページ(2018年10月公開)」、「サポート情報」がそれに続いた。今年度はウェブ上での支援情報の追加を図った。1つは、2018年10月よりスクリーニング陽性となった研究参加者のみ見られるページに、ふれいす東京が運営するHIV陽性者と確認検査待ちの人を対象とするウェブチャット形式の相談窓口「ポジティブチャット」の情報提供を開始した。もう一つは、スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの企画、撮影を実施した(平成31年度公開予定)。

#### 4. 自記式質問紙調査の実施 (資料2)

HIVcheck.jpでは、検査キット配布時に研究参加同意書とともに5分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼している。また、同意書にて同意した参加者にのみ、検査のIDが掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施している。本報告での分析対象者は、2019年1月上旬までにコミュニティセンターaktaで検査キットを受け取った者(他ベニュー受け取り者を含まず)に限定した。分析対象となった回答者数は、715件であった。20歳代が318件

(44.5%)、30歳代が239件(33.4%)、40歳以上が158件(22.1%)だった。以下では年齢階級別にみていく。

検査キットを受け取ってから検査ラボに検体を送付する割合について、全体で79.8%がラボに検体を送付していた。国籍については、全体で67件(9.4%)が日本国籍以外の者だった。居住地は、全体で東京都が505件(70.6%)、神奈川県が77件(10.8%)、埼玉県が60件(8.4%)、千葉県が32件(4.5%)だった。

コミュニティセンターaktaの認知については、全体で「来たことがある」が284件(39.7%)、「知っていたが、来たことがなかった」が245件(34.3%)、「今まで知らなかった」が186件(26.0%)だった。「今まで知らなかった」について年齢階級別にみると、20歳代が33.0%、30歳代が20.5%、40歳代以上が20.3%だった。

HIVcheckを受けるきっかけ(複数回答)は、全体で「定期検査として」が68.5%と最も多く、「リスク行為があった」25.2%、「友人知人の勧め」15.8%、「新しいパートナーができた」12.9%と続いた。年齢別にみると、「リスク行為があった」は、20歳代が30.2%、30歳代が20.1%、40歳代以上が22.8%であり、

「友人知人の勧め」は、20歳代が22.3%、30歳代が10.0%、40歳代以上が11.4%だった。

保健所や検査所、クリニックなど既存の検査施設ではなく、HIVcheckを選んだ理由(複数回答)は、「自分の都合の良い時に受けられる」が75.8%と最も多く、「検査場所に行かなくてよい」が49.0%、「信用できそう」が16.5%、「友だちや友人の勧め」が15.9%、

「ゲイに理解のある相談員がいる」が15.9%、「コミュニティセンターaktaでやっている検査だから」が15.1%、「人と会う回数が少ない」が13.0%と続いた。生涯のHIV検査受検経験は、全体で74.6%があった。年齢別にみると、20歳代が62.7%、30歳代が

84.9%、40歳代以上が82.9%だった。一番最近HIV検査を受けた場所では、「保健所・保健センター」が45.7%と最も多く、「病院・診療所・クリニック」が15.1%、

「HIVcheck.jp」が13.6%、「南新宿検査・相談室」が13.4%と続いた。なお、市販の郵送検査については4.2%だった。

## 5. 沖縄地域での HIVcheck の試行

コミュニティセンターakta 以外のコミュニティセンターにて、HIVcheck.jp を実施できるかのフィージビリティを測る試行を、平成31年2月16日(土曜)に沖縄県那覇市にあるコミュニティセンターmabui で実施した。

実施にあたり、琉球大学医学部およびnankr沖縄/コミュニティセンターmabui と検討を重ね、沖縄地域に合った形式での実施計画を練った。なお沖縄地域でスクリーニング陽性という結果を受け取った場合は、琉球大学医学部附属病院が確認検査の受け入れ機関となった。

2018年10月にはコミュニティセンターmabui のスタッフを対象に、コミュニティセンターakta で HIVcheck.jp に関する研修会を実施した。また、2月15日にはコミュニティセンターmabui にて、沖縄県における保健所等HIV検査従事者を対象とした研修会を共催し、その場で HIVcheck.jp について報告を行っている。コミュニティセンターmabui での検査キット配布は、2019年2月16日(土)の13時~16時に実施した。検査キットの受け取りは22名、相談利用は9名だった。平均年齢は32歳で、20歳~40歳の幅広い層が受け取った。

## 6. ハッテン場での HIVcheck の試行

コミュニティセンターakta には HIV 検査を受け取りに来られない人、また、たまたまそのベニューにいた人で HIV 検査受検を希望する人を対象に、都内ハッテン場にて HIVcheck.jp の施行を行った。

日頃より、コミュニティセンターakta の啓発活動に協力関係のあるハッテン場オーナーと意見交換を行い、まずは今年度、都内のハッテン場1施設で試行することとなった。コミュニティセンターではない場所で検査キットを配布するリスクや、セックスを楽しむ場所での検査キットの配布によるベニューのムードを壊さない方法などについて、検討を行った。広報は当該のハッテン場のもつホームページや店舗でのポスター掲示、ハッテン場情報サイト等に限定して行った。

検査キットの配布は2018年6/9(土)、11/10(土)のお店の利用者が集中する17時～22時に行った。検査キットの受け取りは6月が24名、11月が25名で、相談は6月が0件、11月が5件だった。

#### D. 考察

我が国のMSMにおいて、エイズ施策の指標であるケア・カスケードの第一段階である、HIVに感染している者の90%が感染ステータスを知る状況には達していない。また、MSMに対してHIV検査の定期的な受検勧奨が、現場レベルで地道な実践がなされているものの、他国のように政策的に根拠をもったかたちで行われていない。更なる検査の促進が必要とされる。

本研究では、保健所等公的機関など、既存の施設でのHIV検査以外の検査手法、すなわちコミュニティベースのDried Blood Spots(DBS)法を用いたHIV検査を提供する。さらに、コミュニティセンターを基点とした検査キットの配布が、地域に居住するMSMの受検促進に有効な手法になり得るかを明らかにすることができる。また、検査キットを用いた検査であることから持つ、HIVcheckのモビリティの高さを活かし、akta以外の地域、特に地方のコミュニティセンターや、セックスの現場に近いハッテン場等のMSMの利用するベニューでの検査機会の提供を試行することができる。

そして、本研究では検査キットを配布した地域・ベニューにより、MSMのHIV有病割合が異なるのかを評価することができる。さらに、検査キット配布時に行う、自記式質問紙調査の回答内容と、感染ステータスをリンクさせた、血清疫学調査を実施することにより、配布地域、ベニューによるMSMの検査行動やリスク行動の違いがあるのかだけではなく、HIVスクリーニング陽性MSMの検査行動、リスク行動の特性を検討し、明らかにすることができる。

#### E. 結論

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19～22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行い、平成30年2月26日から平成31年3月25日までに、53回実施した。検査キットの配布数は990個で、相談は220件だった。

検査ラボにおける、平成30年2月から平成31年3月末までの総数での検体の回収数は847個であり、今年度の検査キットの回収割合は77.7%となった。また同期間のスクリーニング陽性の件数は20件であり、暫定陽性割合は2.36%だった。

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは平成30年5月と10月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「新宿二丁目スタート!」と「定期的に受けられる!」とした。

平成30年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のアクセス数について、のべ95,047人となった。キャンペーンを実施した5月と10月には、顕著にアクセス数が伸びていた。ユーザーがア

クセスする際の地域でみると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で 60%を超えていた。HIVcheck.jp のコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「特集ウェブページ(2018 年 10 月公開)」、「サポート情報」がそれに続いた。

今年度はまた、ウェブ上での支援情報の追加を図った。1 つは、スクリーニング陽性となった研究参加者のみ見られるページに HIV 陽性者と確認検査待ちの人を対象とするウェブチャット形式の相談窓口の情報提供を開始し、さらに、スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV 感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの企画、撮影を実施した。

検査キット配布時に研究参加同意書とともに 5 分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼しており、同意書にて同意した参加者にのみ、検査の ID が掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施した。本報告での分析対象者は、715 件であった。20 歳代が 318 件(44.5%)、30 歳代が 239 件(33.4%)、40 歳以上が 158 件(22.1%)だった。国籍は、全体で 67 件(9.4%)が日本国籍以外の者だった。今後更なる分析を進めていく。

今年度は、沖縄県にあるコミュニティセンターmabuiにて、地域の医療機関、行政、そして NGO やコミュニティと連携して配布会を実施した。またハッテン場での HIVcheck の試行を 2 回実施した。

## F. 研究発表

### 論文発表

1) ○Misao Takano, Kohta Iwahashi, Ikuo Satoh, Junko Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Toshiya Fukuhara, Hiroo Obinata, Yasuyo Nakayama, Yoshimi Kikuchi, Shinichi Oka: Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots

delivered through the postal service, BMC Infectious Diseases (2018) 18:627

2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.

3) 岩橋恒太: 文献紹介「Recommendations for HIV Screening of Gay, Bisexual, and Other Men Who Have Sex with Men - United States, 2017」, 日本エイズ学会誌 vol.21 no.1, 2019.

### 学会発表

1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 湯永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代, 岡慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

3) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

4) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイ

- ズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 今村顕史 :  
コミュニティセンター akta を基点とする  
アウトリーチ活動の効果評価. 第 32 回日本エ  
イズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 貞升健志, 長島真美,  
生島 嗣, 堅多敦子, 市川誠一, 今村顕史 3  
HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅  
2017」の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術  
集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 今村顕史, 堅多敦子, 岩橋恒太, 生島嗣 : A  
型肝炎の流行におけるハイリスク層への効  
果的な啓発方法の検討. 第 32 回日本エイズ  
学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 8) 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 鈴木敦大,

生島嗣, 堅多敦子, 今村顕史 : ゲイ・バイ  
セクシュアル男性に向けた A 型肝炎の注意  
喚起から見えること ~ コミュニティセン  
ターakta を 基点とした経験から. 第 32 回  
日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪,  
H30. 12. 2-4

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし



## 資料 1

### 平成 30 年度 HIVcheck. jp 研究行程表

※毎週月曜日 19～22 時、community center akta での検査キットの配布を継続

#### 4 月

ハッテン場での HIVcheck. jp の実施について、オーナーとの意見交換・調整開始

#### 5 月

5/7 Dr. Stephane Ku ら、台湾研究者チームとの MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

5/13 研究班班会議

5/15 - 21 HIVcheck 認知向上キャンペーン①実施

#### 6 月

6/9 HIVcheck at 都内ハッテン場(新宿)①実施

6/18 HIVcheck スタッフ研修会

#### 8 月

沖縄での HIVcheck. jp の実施について、琉球大学医学部および nankr 沖縄との意見交換・調整開始

#### 9 月

9/2 HIVcheck. jp スペシャルデー(19-23 時)実施

9/9 Dai Aoki ら、オーストラリアのエイズ NGO との MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

#### 10 月

10/5 - 11 HIVcheck 認知向上キャンペーン②実施

10/12～10/15 HIVcheck. jp in 沖縄実施のためのコミュニティセンターmabui スタッフ研修会共催

#### 11 月

11/10 HIVcheck at 都内ハッテン場(新宿)②実施

#### 12 月

12/2-4 日本エイズ学会・学術集会(大阪)発表

12/22-23 研究班班会議

#### 1 月

HIVcheck in 沖縄 実施準備

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの企画・検討開始

#### 2 月

2/11 Nigel Sheriff ら、イギリス研究者チームとの MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

東京都南新宿検査相談室と HIVcheck に関する意見交換

2/15 平成 30 年度 沖縄県における保健所の HIV 検査従事者等関係者のためのエイズ専門研修会共催(コミュニティセンターmabui)

2/16 HIVcheck. jp in 沖縄(コミュニティセンターmabui)

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの撮影開始

#### 3 月

平成 31 年度 HIVcheck. jp の研究計画の検討

3/22 HIVcheck 研究グループ 中間検討会

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの編集

資料2 受検者アンケート集計（1）

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
ろ紙のラボへの到達					
ろ紙未達	53 17.4%	48 20.6%	39 25.0%	140 20.2%	0.158
ACC到着	251 82.6%	185 79.4%	117 75.0%	553 79.8%	
性指向					
1ゲイ	251 79.2%	209 87.8%	129 81.6%	589 82.6%	0.014
2バイセクシュアル	57 18.0%	27 11.3%	29 18.4%	113 15.8%	
3その他	9 2.8%	2 .8%	0 0.0%	11 1.5%	
Q3_あなたの国籍は?					
1日本	276 86.8%	216 90.4%	156 98.7%	648 90.6%	0.000
2その他	42 13.2%	23 9.6%	2 1.3%	67 9.4%	
Q4_あなたのお住まいは?					
1東京都	217 68.2%	179 74.9%	109 69.0%	505 70.6%	0.465
2神奈川県	35 11.0%	22 9.2%	20 12.7%	77 10.8%	
3埼玉県	32 10.1%	19 7.9%	9 5.7%	60 8.4%	
4千葉県	17 5.3%	7 2.9%	8 5.1%	32 4.5%	
5その他	17 5.3%	12 5.0%	12 7.6%	41 5.7%	
Q5_あなたの現在の職業でもっとも近いのは?					
1正規雇用	171 53.8%	183 76.6%	117 74.1%	471 65.9%	0.000
2非正規雇用（パート・アルバイト・	48 15.1%	23 9.6%	12 7.6%	83 11.6%	
3自由業・自営業・経営	20 6.3%	28 11.7%	23 14.6%	71 9.9%	
4学生	71 22.3%	2 .8%	1 .6%	74 10.3%	
5働いていない	3 .9%	2 .8%	5 3.2%	10 1.4%	
6その他	5 1.6%	1 .4%	0 0.0%	6 .8%	
Q6_過去6か月間に、次のゲイタウンを利用しました					
1チェックあり	56 17.6%	35 14.6%	38 24.1%	129 18.0%	0.056
新宿二丁目	246 77.4%	194 81.2%	109 69.0%	549 76.8%	0.018
上野浅草利用あり	46 14.5%	44 18.4%	34 21.5%	124 17.3%	0.139
渋谷	27 8.5%	16 6.7%	3 1.9%	46 6.4%	0.022
新橋	39 12.3%	43 18.0%	33 20.9%	115 16.1%	0.034
横浜	16 5.0%	6 2.5%	8 5.1%	30 4.2%	0.281
その他	14 4.4%	5 2.1%	10 6.3%	29 4.1%	0.102
Q7_過去6か月の間に、日本で利用した商業施設					
どれも利用無し	16 5.0%	13 5.4%	10 6.3%	39 5.5%	0.842
ゲイバー	220 69.2%	152 63.6%	93 58.9%	465 65.0%	0.072
クラブ	113 35.5%	76 31.8%	34 21.5%	223 31.2%	0.008
有料ハッテン場	144 45.3%	130 54.4%	69 43.7%	343 48.0%	0.049
野外ハッテン場	21 6.6%	10 4.2%	8 5.1%	39 5.5%	0.447
出会い系ウェブ	60 18.9%	38 15.9%	32 20.3%	130 18.2%	0.498
出会い系スマホアプリ	239 75.2%	146 61.1%	90 57.0%	475 66.4%	0.000

受検者アンケート集計 (2)

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
Q8_今回を除き、あなたはこれまで「コミュニティセンターakta」に来たことがありましたか?					
1来たことがある	92 28.9%	115 48.1%	77 48.7%	284 39.7%	0.000
2aktaを知っていたが、来たことがなかった	121 38.1%	75 31.4%	49 31.0%	245 34.3%	
3今まで知らなかった	105 33.0%	49 20.5%	32 20.3%	186 26.0%	
Q9_今回を除き、「HIVcheck.jp」を利用したことがありますか?					
1今回が初めて	298 93.7%	204 85.7%	142 89.9%	644 90.2%	0.007
2キットを受け取ったが、郵送せず	5 1.6%	4 1.7%	0 0.0%	9 1.3%	
3利用したことがある	15 4.7%	30 12.6%	16 10.1%	61 8.5%	
HIVCheckをどこで知ったか					
ゲイバー	36 11.3%	16 6.7%	22 13.9%	74 10.3%	0.051
有料ハッテン場	6 1.9%	6 2.5%	6 3.8%	18 2.5%	0.456
akta	45 14.2%	28 11.7%	18 11.4%	91 12.7%	0.590
出会い系スマホアプリ	131 41.2%	126 52.7%	77 48.7%	334 46.7%	0.022
知り合い	84 26.4%	52 21.8%	22 13.9%	158 22.1%	0.008
Facebook/twitter	69 21.7%	37 15.5%	26 16.5%	132 18.5%	0.132
その他	13 4.1%	19 7.9%	11 7.0%	43 6.0%	0.141
Q11_今回、HIVcheckを受けるきっかけは何ですか?					
定期検査として	196 61.6%	177 74.1%	117 74.1%	490 68.5%	0.002
新しいパートナーができた	40 12.6%	32 13.4%	20 12.7%	92 12.9%	0.957
リスク行為があった	96 30.2%	48 20.1%	36 22.8%	180 25.2%	0.018
STIに罹患した	3 0.9%	2 0.8%	2 1.3%	7 1.0%	0.910
体調不良があった	14 4.4%	9 3.8%	2 1.3%	25 3.5%	0.206
HIV陽性者と性交渉をした	2 0.6%	3 1.3%	4 2.5%	9 1.3%	0.215
友達知人の勧め	71 22.3%	24 10.0%	18 11.4%	113 15.8%	0.000
1チェックあり	8 2.5%	6 2.5%	6 3.8%	20 2.8%	0.689
Q12_今回、保健所や検査所、クリニックではなく「HIVcheck.jp」を選んだ理由					
自分の都合の良い時に受けれる	224 70.4%	190 79.5%	128 81.0%	542 75.8%	0.011
場所を選ばない	136 42.8%	127 53.1%	87 55.1%	350 49.0%	0.012
人と会う回数が少ない	41 12.9%	27 11.3%	25 15.8%	93 13.0%	0.421
検査やHIVについて相談できる	22 6.9%	5 2.1%	16 10.1%	43 6.0%	0.003
ゲイに理解のある相談員がいる	51 16.0%	32 13.4%	31 19.6%	114 15.9%	0.252
陽性の時相談できる場所が明確	11 3.5%	5 2.1%	16 10.1%	32 4.5%	0.000
信用できそう	54 17.0%	26 10.9%	38 24.1%	118 16.5%	0.002
aktaでやっている検査だから	47 14.8%	25 10.5%	36 22.8%	108 15.1%	0.003
陽性の時かかる医療機関が明確	15 4.7%	6 2.5%	11 7.0%	32 4.5%	0.106
友達や知人の勧め	68 21.4%	28 11.7%	18 11.4%	114 15.9%	0.002
Q13_自分のセクシュアリティについて、カミングアウトした人は何人くらいいますか?					
1 いない	58 18.3%	66 27.7%	54 34.2%	178 25.0%	0.001
2 1人	27 8.5%	19 8.0%	17 10.8%	63 8.8%	
3 2～5人	90 28.4%	69 29.0%	45 28.5%	204 28.6%	
4 6人以上	142 44.8%	84 35.3%	42 26.6%	268 37.6%	

受検者アンケート集計 (3)

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
これまで男性とセックスをしたことがありますか?					
1ない	3 .9%	3 1.3%	2 1.3%	8 1.1%	0.924
2ある	314 99.1%	235 98.7%	156 98.7%	705 98.9%	
過去6か月間に男性とアナルセックスをした人数					
1しなかった	37 12.1%	27 11.8%	34 22.7%	98 14.3%	0.004
2した	268 87.9%	202 88.2%	116 77.3%	586 85.7%	
過去6か月間に男性とのアナルセックス時コンドーム使用頻度					
1過去6か月アナルセックスはしなかった	8 2.8%	2 .9%	3 2.4%	13 2.1%	0.438
2コンドームを必ず使った	104 36.1%	79 37.3%	57 44.9%	240 38.3%	
3使うことが多かった	121 42.0%	84 39.6%	42 33.1%	247 39.4%	
4使わないことが多かった	39 13.5%	35 16.5%	15 11.8%	89 14.2%	
5使わなかった	16 5.6%	12 5.7%	10 7.9%	38 6.1%	
過去6か月間のセックスでの併用品					
いずれも使用無し	265 85.2%	185 78.1%	103 66.0%	553 78.6%	0.000
2ぼっき薬 (バイアグラなど)	31 10.0%	43 18.1%	44 28.2%	118 16.8%	0.000
ラッシュ	11 3.5%	4 1.7%	4 2.6%	19 2.7%	
スピード・エクスタシー (MDMA)	1 .3%	0 0.0%	0 0.0%	1 .1%	0.531
上記以外のセックスドラッグ (合ドラや 静脈注射のドラッグ)	0 0.0%	0 0.0%	1 .6%	1 .1%	0.172
マリファナ・コカイン	1 .3%	0 0.0%	0 0.0%	1 .1%	0.531
過去6か月間に、相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?					
1ない	288 92.0%	231 98.3%	155 99.4%	674 95.7%	
2ある	25 8.0%	4 1.7%	1 .6%	30 4.3%	0.000
これまでHIV検査を受けたいと思ったことがありますか?					
1ない	14 4.5%	7 3.0%	6 3.9%	27 3.9%	0.673
2ある	298 95.5%	226 97.0%	149 96.1%	673 96.1%	
これまでHIV検査を受けたことがありますか?					
1ない	118 37.3%	36 15.1%	27 17.1%	181 25.4%	0.000
2ある	198 62.7%	202 84.9%	131 82.9%	531 74.6%	
一番最近に受けたHIV検査の種類 (場所) はどれですか? (検査経験者のみ)					
1保健所・保健センター	105 51.0%	90 43.7%	53 40.5%	248 45.7%	0.005
2病院、診療所、クリニック	26 12.6%	28 13.6%	28 21.4%	82 15.1%	
3手術前・入院時の検査	5 2.4%	3 1.5%	2 1.5%	10 1.8%	
4南新宿検査・相談室	16 7.8%	35 17.0%	22 16.8%	73 13.4%	
5HIVcheck.jp	24 11.7%	33 16.0%	17 13.0%	74 13.6%	
6郵送検査	9 4.4%	9 4.4%	5 3.8%	23 4.2%	
7イベントHIV検査会	7 3.4%	1 .5%	4 3.1%	12 2.2%	
8その他	14 6.8%	7 3.4%	0 0.0%	21 3.9%	
一番最近に受けたHIV検査の結果は知っていますか?					
1結果を聞いた	200 98.5%	204 100.0%	127 97.7%	531 98.9%	0.122
2結果を聞かなかつた	3 1.5%	0 0.0%	3 2.3%	6 1.1%	
あなたはHIV検査を定期的に受けていますか?					
16か月またはそれより短いペースで受け	56 22.6%	36 16.6%	21 15.0%	113 18.7%	0.193
2おおよそ1年に一度のペースで受けてい	53 21.4%	53 24.4%	41 29.3%	147 24.3%	
3特にペースは決めていない	139 56.0%	128 59.0%	78 55.7%	345 57.0%	

受検者アンケート集計 (4)

	20歳代		30歳代		40歳代		全体		有意差
これまでに次の性感染症にかかったことがありますか?_1 どれもない									
どれもなし	259	82.0%	166	69.7%	91	57.6%	516	72.5%	0.000
梅毒	12	3.8%	24	10.1%	22	13.9%	58	8.1%	0.000
A型肝炎	0	0.0%	4	1.7%	3	1.9%	7	1.0%	0.058
B型肝炎	2	.6%	15	6.3%	18	11.4%	35	4.9%	0.000
C型肝炎	0	0.0%	1	.4%	2	1.3%	3	.4%	0.134
淋病	7	2.2%	22	9.2%	13	8.2%	42	5.9%	0.001
クラミジア	18	5.7%	29	12.2%	22	13.9%	69	9.7%	0.005
HIV感染症	1	.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	.1%	0.534
その他	14	4.4%	5	2.1%	7	4.4%	26	3.7%	0.295
過去1年間に次の性感染症にかかったことがありますか?_1 どれもない									
どれもなし	288	91.4%	217	91.2%	148	94.3%	653	92.0%	0.484
梅毒	5	1.6%	5	2.1%	2	1.3%	12	1.7%	0.808
A型肝炎	0	0.0%	3	1.3%	1	.6%	4	.6%	0.145
B型肝炎	0	0.0%	2	.8%	0	0.0%	2	.3%	0.137
C型肝炎	0	0.0%	2	.8%	0	0.0%	0	0.0%	—
淋病	5	1.6%	4	1.7%	0	0.0%	9	1.3%	0.273
クラミジア	6	1.9%	7	2.9%	5	3.2%	18	2.5%	0.627
自分が今HIV陽性である可能性はどの程度だと考えていますか?									
1高いと思う	5	1.6%	4	1.7%	2	1.3%	11	1.5%	0.154
2五分五分くらいだと思う	32	10.2%	13	5.5%	7	4.4%	52	7.3%	
3低いと思う	168	53.3%	145	60.9%	105	66.5%	418	58.8%	
4わからない	109	34.6%	75	31.5%	43	27.2%	227	31.9%	
5すでにHIV陽性の診断を受けている	1	.3%	1	.4%	1	.6%	3	.4%	

資料 3 ウェブサイト HIVcheck.jp スマートフォン版



ウェブサイト HIVcheck.jp PC版





確認検査が必要な場合

- 新規検査
- WEB検査
- ACC
- クリニック
- 検査センター
- 検査センター

**30おんしん**

希望する医療機関を紹介

それらの検査は、  
おしり検査が陽性だと検査結果が  
確定を待たずにはたしてまた  
このあたりから検査...

それは、  
嫌いなア...

OH!!

取付は日曜日の  
19:00後まで  
仕事場や、病院で  
互換性の検査機にも  
取りに行きませんか?

確かに検査して  
結果がわかりたい  
まながでわかる  
HIVcheck.jp

お仕事を  
殺戮機!

お仕事を  
殺戮機!

この間  
検査の仕事を  
キープおれ  
しなかった...

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

自分から  
積極的に  
しかりや!

相談がしたいときの  
お役立ちサポート窓口

無料 匿名 安心

ウェブで情報を集めたい

HIVの総合情報サイト  
HIVマップ  
www.hiv-map.net

電話でご相談したい

ダイヤルがのびる  
HIV/AIDS相談  
ふれいず東京 (日)18:00-21:00  
tel:03-5386-1575

HIV陽性者・増設検査受ける人と  
そのパートナー・家族のための  
電話相談  
ポジティブライン (日)11:00-19:00  
tel:0120-02-5341

人に会って相談したい

新宿二丁目にある、HIVをはじめ  
としたセクシュアルヘルスに関する  
情報センター「フリースペース」  
ス。誰でも無料で利用できます。  
HIVや検査の不安を話せる機  
会も用意しています。

コミュニティセンター-akta  
東京都港区麻布台2-15-13  
電話:03-3226-8989  
(休館日)水・木曜日・年末年始

やっぱり医療機関で検査したい  
ekialにキットを取りに来たらい

全国のHIV抗体検査の精度  
(検出率)・検出時間・検査の種類  
をウェブ上で提供しています。  
自分では検査できない場合にお  
近くの検査場所を探してみてください。

HIV検査・相談マップ  
www.hivkensa.com

これだけは抑えておこう!! HIV/AIDSの現状についての丸わかりガイド!!

UP 20 > HIV 30-40 > AIDS UP

1500人 増加

51% 67%

HIVは感染しても早期発見  
&適切な治療を受ければ、  
長生きができる。

日本では30000人がHIV  
に感染し、67%が男性同  
性間の性的接触。

毎年、日本では新たに1500  
人のHIV感染者、エイズ患  
者報告がある。

最近の動向は、20歳代の若年層にHIV感染者の拡大  
が見られる。また30-40歳代の動向はエイズ発症  
が増加傾向にある。





## じぶんでカンタン、あんしんHIVチェック。

手順はたったこれだけ!! 「月曜日」は akta に検査キットをゲットしに行こう!!



エレベータを降りたら、  
検査受付カードを取ります



検査受付カードを  
スタッフに渡します



簡単なアンケートと研究同意書に  
記入します(とく名です)



アンケートの中身をスタッフは見ません  
自分で回収ボックスに入れます



スタッフから検査キットの注意点に  
ついてガイダンスがあります



検査キットを受け取ります  
ここまで5分程度です



相談専門のスタッフがあります  
気軽に話してみてください(1人15分程度)



HIV 情報パンフレットなど各種あるので、  
必要なものは持ち帰ることができます



検査の結果をウェブサイト  
[HIVcheck.jp](http://HIVcheck.jp) で確認



### コミュニティセンター akta

東京都新宿区新宿2-15-13 第二中江ビル301  
(開館日) 16 ~ 22時  
(休館日) 火・水曜日、年末年始  
tel.03-3226-8998 [www.akta.jp](http://www.akta.jp)

aktaは新宿二丁目にあるHIV/エイズをはじめとしたセクシュアルヘルスの情報センターです。どなたでもご利用いただけるオープンスペースです。HIV/エイズの最新情報や検査のこと、またHIV陽性者やその周りの人たちの手記に触れることもできます。



HIVチェックは、ゲイ/バイセクシュアル男性を対象に、HIV検査を多くの方に受検してもらうため、HIV検査キットを用いた検査を複数の専門機関が協働して、企画・実施しています。NPO法人aktaは検査の広報と検査キットの配布、NPO法人ふれいす東京は受検者・陽性者への相談支援を、国立国際医療研究センターACCは検査の実施と検査結果の告知を担当しています。

またこの検査は厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」が研究として20歳以上のゲイ/バイセクシュアル男性を対象に無料、匿名で実施する検査です。この検査についての問い合わせは、メールアドレス([info\\_hivcheck@acc.nigms.go.jp](mailto:info_hivcheck@acc.nigms.go.jp))をお願いします。

キャンペーンモデル / SASUKE, DOUG (滝沢ダグラス), SIO 企画・制作 / akta  
写真 / EISUKE 漫画 / いんお イラスト / プリスケ 編集・協力 / Bad (テラ出版)

2018年10月 キャンペーン②「定期的に受けられる！」

キャンペーンサイトスマートフォン版



スペシャルデー 広報



aktaでゲット!  
自宅でチェック!

HIVcheck.jp

スペシャルデー

無料  
匿名 9/2日 19:00~23:00まで

ハッテン場 広報



ハッテン場で  
ゲット!  
自宅でチェック!

HIVcheck.jp

6月9日(土)  
19時~22時

無料  
匿名

# HIVcheck スペシャルデー

at community center mabui

2/16<sup>土</sup>  
13:00~16:00

先着  
50名  
まで

コミュニティセンターmabuiで  
検査キットを  
この日受け取れます!

ゲイ・バイセクシュアル男性に  
無料・匿名で郵送して使う  
HIV検査キットをお渡します。  
この時間、専門の相談員による  
相談もお受けします。

## コミュニティセンター mabui

沖縄県那覇市壺屋1-7-5 民衆ビル3F  
tel: 098-862-0114 (木~日18:00~21:00)  
mail: office@nankr.jp

ネット検査で  
ちゃーがんじゅ〜



## mabuiでゲット、自宅でチェック!

mabuiで  
キットを受け取る



自宅で  
採血する



検査機関に  
郵送する



HIVcheck.jpで  
検査結果を確認



要確認検査の場合は  
病院を予約できる

無料・  
匿名  
くわしくはコチラ



## 地方における新たな検査機会の開発

### -医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）  
研究協力者：宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、  
仲村秀太（琉球大学大学院医学研究科）

#### 研究要旨

研究者は、H28, 29 年度の本研究において MSM における HIV 陽性患者は、MSM のコントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した。そこで受検の阻害要因を分析するために当年は HIV 陽性患者の受検行動および患者背景を検討した。

1. STI 有病率は AIDS が有意に高かった。
2. 無症候性キャリアーの受検動機は自主的が最も高かった。
3. 対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

今後は、無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。

#### A. 研究の目的

HIV 新規発生患者は東京、大阪、名古屋などの大都市では横ばいもしくは減少傾向にあるが、地方においては以前、増加傾向にある。

急性 HIV 感染症および AIDS は有症状なので医療機関を受診する機会があるので受検機会があるが、無症候性キャリアーの患者では症状による受検動機は望めず、この層に対する有効な受検動機を知ることが重要である。

#### B. 研究方法(表 1)

1. 直近 6 年間の新規患者の受検行動  
2018 年 12 月 15 日までの当院受診患者 342 人中下記の除外基準を満たした患者を除く 102 人。

##### 除外基準

1. 2012 年 12 月 31 日以前に診断された受診者 233 人（女性 17 人）
2. 女性 4 人
3. 男性異性間 1 人
4. elite controller 1 人
5. 母子感染男児 1 人

#### C. 研究結果

1. STI 有病率  
AIDS が有意に高かった（図 1）。一方、無症候性キャリアー群が STI 罹患率が最も低かった。

#### 2. 罹患した STI の種類

HIV 陽性判明、5 年以上前から梅毒が最も多く、帯状疱疹、尖圭コンジローマが続いた（表 2）。

#### 3. 対象期間の病期別割合

AIDS が最も多く、続いて急性 HIV 感染症であり、無症候性キャリアーは最も少なかった（図 2, 3）。

#### 4. HIV キャリアーの受検動機

自主的受検の動機が最も多く半数を占めていた。一方、医師の勧めは 26%であり、非自主的検査動機（術前、献血）と同数であった（図 4）。

#### D. 考察

##### 1. STI 有病率

STI 有病率が高い群では、HIV 検査の受検動機または医師の勧めなど受検機会が最も多いと思われる。そのため病期の進行度も早期群（急性または無症候性群）に集中すると推定していたが実際は AIDS 群が最も有病率が高いことが判明した。AIDS 群では生涯受検率も有意に低くこのような背景群が AIDS 群を形成している可能性が推察される。

無症候性キャリアー群は有症状の有無は受検の動機にならないために、検査を受けるメリットを効果的に伝えることが最も必要性がある群である。この群に対して訴求性のある広報

の開発が必要と考えられた。

## 2. 罹患した STI の種類

梅毒は HIV 陽性判明前のどの時期でも普遍的に認められ、少なくとも STI 判明時には患者は HIV 検査を意識すること、また医療者側は実施を提案する啓発が引き続き必要である。幸い、2019 年 1 月 1 日より、梅毒の届出時に HIV 検査実施の有無を調査する欄が追加されたのは朗報である。

## 3. 対象期間の病期別割合

無症候性キャリアーが病期として最も低かった。その理由として受検率の低い沖縄では、無症状の無症候性キャリアーが自主的検査の機会を持ちがたいことが窺える。

## 4. HIV キャリアーの受検動機

自主的受検の動機が最も多く半数を占めていた。本研究班の過去の調査研究 (2010 年度) より 15%程度改善している。一方、医師の勧めは 26%であり一般医師の関心は低いことが窺え、H29 年度に本研究では医師向けの HIV 検査手引きを作成して配布した。今後、このリーフレット配布の効果を検証していきたい。

## E. 結論

対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

今後は、無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

### 2. 学会発表

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2 つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 林田庸総, 岡 慎一, 瀧永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 椎野禎一郎, 須藤弘二, 加藤真吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川 整, 加藤英明, 石ヶ坪良明, 中島秀明, 吉野友祐, 太田康男, 茂呂 寛, 渡邊珠代, 松田昌和, 重見 麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 小島洋子, 森 治代, 藤井輝久, 高田清式, 南 留美, 山本政弘, 松下修三, 健山正男, 藤田次郎, 杉浦 互, 吉村和久, 菊池正: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 笠島志穂, 山城朋子, 健山正男, 仲村秀太, 山入端一貴, 兼久 梢, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 藤田次郎: 上気道閉塞のリスクを有するカボジ肉腫の治療経験症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 上原 仁, 諸見牧子, 与那覇房子, 外間惟夫, 前田サオリ, 宮城京子, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺士名優美子, 上 薫, 仲村秀太, 中村克徳, 健山正男, 藤田次郎: 腸瘻からの cART 投与において血中濃度測定を行い用量調整した一例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 8) 西原一秀, 平野惣大, 健山正男, 前田サオリ,

宮城京子, 藤田次郎, 新崎 彰 : 沖縄県歯科医療従事者の HIV/AIDS 患者歯科診療に対するアンケート調査の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 9) 健山正男 : 沖縄県における HIV の現況. 九州医師連合会 HIV 医療講演会 2018
- 10) 兼久 梢, 健山正男, 鍋谷大二郎, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎 : 免疫再構築に伴う病変増大が疑われた HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 357 2018
- 11) 原永修作, 西山直哉, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 健山正男, 藤田次郎 : 男性同性愛者に発症し化膿性扁桃炎として診断・治療された扁桃梅毒の 1 例と case review. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 284 2018
- 12) 石原美紀, 健山正男, 渡嘉敷良乃, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 藤田次郎 : HIV 新規診断症例においてインテグラーゼ領域に P145S を検出した一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 375 2018

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
無し
2. 実用新案登録  
無し
3. その他  
無し



表 1. 対象患者

2018/12/15までの当院受診患者342人中、  
下記の除外基準を満たした患者を除く102人

除外基準

1. 2012/12/31以前に診断された受診者 233人 (女性17人)
2. 女性 4人
3. 男性異性間 1人
4. elite controller 1人
5. 母子感染男児 1人

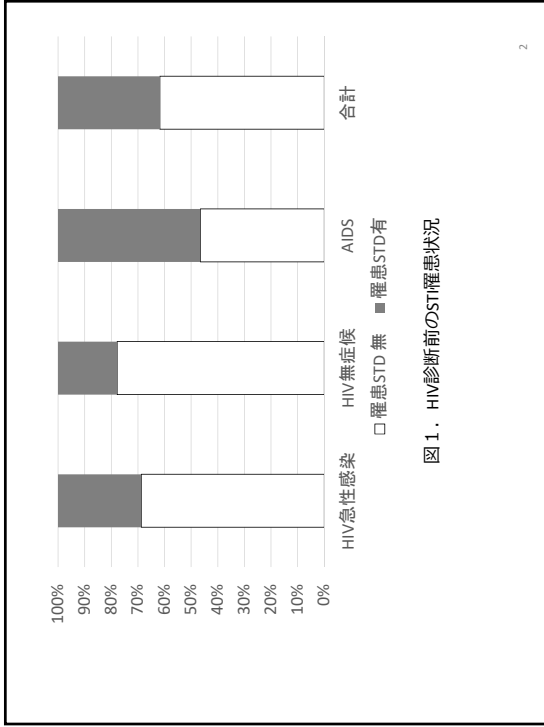
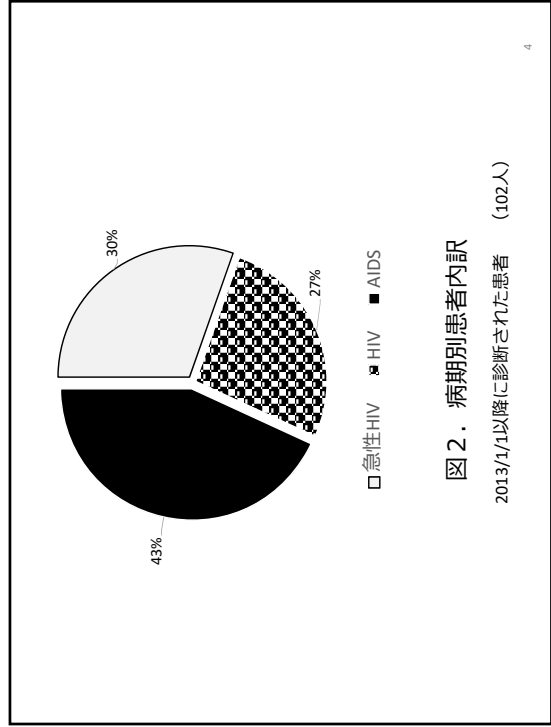


表 2. STI罹患の年次状況

	梅毒	B型肝炎	A型肝炎	帯状疱疹	尖圭コンジ ローム	アムニオ 赤痢	淋菌
陽性判明前 1年以内	1			1			
陽性判明前 1年	3			2		2	
陽性判明前 2年	2			3			
陽性判明前 3年	2			1	1		
陽性判明前 4年	1						
陽性判明前 5年以上	10	2	1	5	2		1
同時判明	4	2				2	



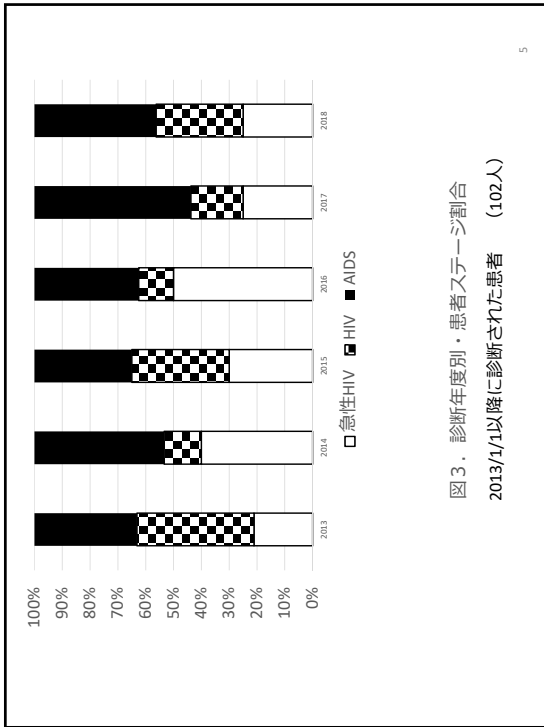


図3. 診断年度別・患者ステージ割合  
2013/1/1以降に診断された患者 (102人)

5

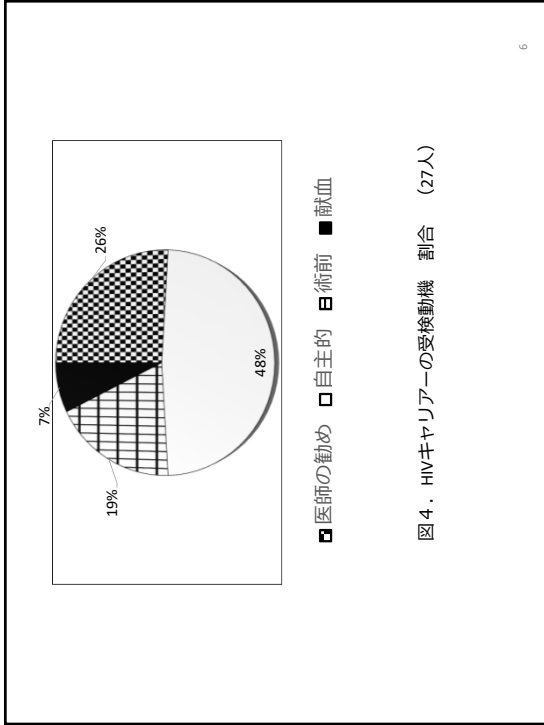


図4. HIVキャリアーの受検動機 割合 (27人)

6

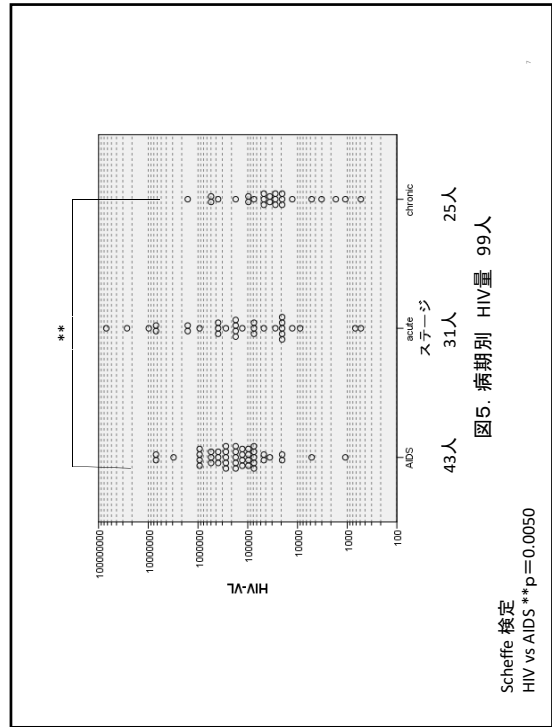


図5. 病期別 HIV量 99人

7

## 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

研究分担者：和田秀穂（川崎医科大学血液内科学 教授）

研究協力者：高田清式（愛媛大学医学部）、新山 賢（HaaT えひめ）、

塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）

### 研究要旨

地方都市において、感染リスクがあるが対面型の接触を避ける MSM に対し、クリニック・診療所を活用した新たな HIV 検査機会の拡大によって早期受療促進体制を整備した。今後の中四国での検査のさらなる整備を目指すべく 2017 年度に実施した商業施設クライアントの調査データの分析を行い啓発戦略策定に活用した。岡山県で実施した MSM への民間医療を活用した検査促進と受療促進をモデルケースとして確立したうえで、近隣の中国四国地方に応用し、検査機会の拡大につながるプログラムとして展開した。

#### 1. 岡山県における MSM を対象としたクリニック検査の継続

MSM 限定の「岡山県もんげ～性病検査」は第 1 弾は受検者 31 人、HIV 陽性が 1 件、梅毒陽性が 6 件であった。第 2 弾は受検者 34 人、HIV 陽性が 2 件、梅毒陽性が 7 件であった。

#### 2. 愛媛県、広島県(福山市)における MSM を対象としたクリニック検査の拡大実施

岡山県近隣の瀬戸内地域において、「せとうち性病検査」の事業化に向け、まず愛媛県内の行政、医療機関と協議し協力医療機関を開拓した。そのうえで検査を 2 期に分けて実施した。第 1 弾は、受検者 12 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性が 1 件であった。第 2 弾は受検者 18 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性が 1 件であった。

### A. 研究目的

エイズ発生動向によると、地方都市の中でも中国四国地域は、AIDS 患者の占める割合が高い都道府県が多く認められる。中国四国の地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。

地域における医療機関等を活用した新たな HIV 検査機会を拡大する。

医療機関・検査受検へのハードルを下げる取り組みとして、実績のある「岡山県もんげ～性病検査」に合わせて、広島県、愛媛県に拡大した「せとうち性病クリニック検査」を同時開催し、HIV 感染症および梅毒の早期発見を行った。

### B. 研究方法

CBO (Community Based Organization)、行政、医療機関の連携により公的機関以外での MSM への HIV 検査提供の事業化に成功した岡山県での先行事例を解析し、その結果を踏まえ、岡山県の近隣県でも連携した形で、中国四国

### C. 研究結果

2017-2018 年度に実施した中国四国地域の MSM 向け商業施設クライアントの調査データの分析を行い啓発戦略策定に活用した。ゲイバー顧客調査(2017-2018 実施)の結果から、地方都市では生涯に検査を受けたことのある

割合は都市部より 10%程度低く、啓発が肝要だが、ゲイ NGO の活動基盤も脆弱であり広域連携など工夫が必要であることを明らかにした。コミュニティセンターもなく、NGO の人材が著しく少ないこともあり、インターネットやゲイ向けアプリに掲示できるバナーを活用して広域で展開可能な予防啓発を行った。

CBO(HaaT えひめ)、行政(愛媛県保健福祉部 健康衛生局健康増進課 感染症対策係)、医療機関(愛媛大学医学部附属病院)、福山市の民間医療機関と連携し、平成 30 年度は、「せとうち性病検査」を企画、実施した。

検査は第 1 弾として、平成 30 年 8 月 17 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査」および「せとうち性病クリニック検査」を同時期に実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者が 1 人、梅毒陽性者が 6 人新規に診断された。後者の実施クリニックは、福山地区 2 施設、松山地区 2 施設であり、受検者総数は 12 人で、HIV 陽性者は 0 人、梅毒陽性が 1 人新規に診断され医療に繋げることができた。

この成果を受け、今年度第 2 弾として平成 31 年 1 月 7 日～2 月 28 日の期間においてクリニック検査を展開した。

岡山県では平成 27 年度から夏季、冬季の年 2 回、期間限定で MSM を対象としたクリニック検査を開始してきている。平成 30 年度末までで合計 8 回のクリニック検査が施行された。

#### D. 考察

MSM 限定のクリニック検査において、HIV 感染症と梅毒を同時に検査する方法は有効であった。全国的に梅毒の報告数が著しく増加してきているため、梅毒検査の受検希望を契機として、HIV 感染症の検査を受けることにつながった例も少なくないと思われる。

クリニック検査では、受検者の 64.3%がこれまでに 1 回以上 HIV 検査を受けたことがあると回答した。残りの 35.7%の受検者は、今回の MSM 限定のクリニック検査が初めての HIV 検査受検の機会になったことから、検査機会の拡大につながることがさらに期待される。

近隣県として愛媛県、広島県福山市において、クリニック検査を導入し、「せとうち性病検査」として広報、広域検査を展開した。このような新しい検査のコミュニティ内の定着には一定の時間を要することが考えられる。商業施設クライアントの調査からもまだ検査情報が届いていない層を明確にしたうえで広報を展開していく。最終年度は香川県でも医療機関の開拓を図り、HIV 検査機会の拡大を図っていく。

これまでの実績をまとめた報告書(巻末資料)も作成しており、最終年度の展開、行政やクリニック検査担当者にも配布し今後の展開に活用していく。

#### E. 結論

今後さらに効果的な MSM 限定のクリニック性病検査を広域に展開していくために、中四国 MSM の検査未受検層の特性の把握や、クリニック検査の効果評価のための MSM 向け商業施設利用者を対象とする質問紙調査を実施していく方略が必要と思われる。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果の検討. 日本エイズ学会誌 2018, 20(3):216-221.

##### 2. 学会発表

1) 和田秀穂: 医学検査フォーラム I. 臨床と検査でコラボする HIV 感染症～未来に向け

て今すべきこと～. 梅毒・B型肝炎感染者に注意しておきたいHIV感染症. 第51回日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会 香川, H30.11.24.

- 2) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高いMSM層の実態把握とHIV抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30.12.2-4.
- 3) 野村直幸, 松井綾香, 飯塚暁子, 藤原千尋, 門田悦子, 木梨貴博, 村上由佳, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 薬剤師介入による当院通院中のHIV感染者における梅毒・B型肝炎・C型肝炎の罹患動向の把握と薬剤の適正使用に関する取り組み. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30.12.2-4.
- 4) 松井綾香, 野村直幸, 村上由佳, 藤原千尋, 飯塚暁子, 木梨貴博, 門田悦子, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 当院におけるTAF変更例の腎機能、血中脂質への影響について. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30.12.2-4.

5) 竹内麻子, 橋本誠也, 徳永博俊, 林成樹, 内田圭一, 松本誠司, 安井晴之進, 横井桃子, 廣瀬匡, 清水里紗, 佐野史典, 近藤敏範, 松橋佳子, 中桐逸博, 近藤英生, 和田秀穂: Kaposi肉腫に合併した難治性温式自己免疫性溶血性貧血の治療に苦慮したAIDS症例. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30.12.2-4.

6) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 三笠かおる, 大島瑞穂, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: HIV感染者においてかかりつけ医を持つことに対して障壁となっている心理・社会的要因の調査と検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30.12.2-4.

#### **G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)**

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

MSMに対する有効なHIV検査提供と  
ハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

地方における新たな検査機会の開発  
—クリニック・診療所における検査機会の拡大—  
事業・研究概要





### HIV/AIDSへの取組み～地方におけるMSMへの対策の重要性

市川 誠一（名古屋市立大学 名誉教授）

厚生労働省エイズ動向調査によれば、2017年末までのHIV感染者は19,896人、エイズ患者は8,936人、合計28,832人が報告されています。このうち、日本国籍は24,250人（84%）を占めています。日本では、1990年代からHIV感染者、エイズ患者（以下、HIV/AIDS）ともに増加が続きました。その多くが男性同性間の性的接触による感染で、MSM（男性とセックスする男性）に向けた予防啓発、検査・医療・相談支援の提供が重要な対策となっています。

近年、HIV/AIDSの報告数はおよそ1,500人で推移しています。しかし、その大半が男性同性間の性的接触による感染である状況は変わっていません。東京、大阪、名古屋の都市部では減少あるいは横ばいとなったのに対して、中国・四国地域などの他の地域では増加傾向にあります。またこれらの地域ではエイズ患者として報告される割合が高いため、発症前にHIV検査を受けるように啓発することが必要となっています。

同性愛者等で構成するCBO（地域ボランティア団体）は、厚生労働省の研究班に参加してMSMへのHIV感染対策に取り組んでいます。CBOが研究班で行った調査によれば、地方在住のMSMは都市部のMSMに比べて、HIV抗体検査の受検経験割合が低いことが示されています。この理由として、東京・大阪・名古屋以外の地域は、公的なHIV検査機関が少ないこと、同性愛者やHIV陽性者に対するNGOによる相談支援が少ないことなどが考えられます。

こうした状況に対して、岡山県では、県・市の自治体とCBO・HaaTえひめが共同し、複数のクリニックとエイズ拠点病院である川崎医科大学・和田秀穂先生の協力を得て、MSM向けに「クリニック検査キャンペーン・もんげ～性病検査」を実施しました。これは、自治体とCBOがクリニックやHIV診療の専門医が、それぞれの専門性を連携して、MSM向けにHIV、性感染症の検査を提供する環境をつくっていく取り組みです。そして、2018年からは、岡山県での取り組みの経験をいかし、「せとうち性病クリニック検査」として、中国・四国の他の地域にも広げています。

この冊子では、自治体、CBO、クリニック、HIV診療専門医の連携を紹介しています。地方におけるMSMへのHIV感染対策の一つのモデルとして参考にいただければと思います。



### 地方における新たな検査機会の開発—クリニック・診療所における検査機会の拡大— 和田 秀穂（川崎医科大学血液内科学 主任教授）

中国・四国地域の地方都市である岡山県では、平成22年のエイズ発生動向調査において、22名のHIV陽性者のうち11名がエイズ患者として報告されました。人口10万人当たりのエイズ患者報告数は、実に全国第4位という結果でした。これを受け、平成24年から県内の保健所および拠点病院でのHIV検査受検者数を増加させることを目標に、行政・医療機関が一丸となって「検査広報カードの作成」などを行い検査体制の充実に取り組みました。しかし、平成26年までの3年間の成果として検査件数は3,430件に増加しましたが、HIV陽性率は0.26%程度にとどまりました。そこで、よりHIV検査を必要としている方に検査機会を提供するために、平成27年からMSM（男性とセックスする男性）を対象としたクリニック検査を県・市の自治体とCBO・HaaTえひめが共同して事業化をすることになりました。地方都市という地域性を配慮し、公的機関以外の医療機関等を活用したHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触

を避けるMSMへの検査促進を行うのが狙いであります。具合的には、岡山県もんげ～性病検査として、予約不要、本名は任意、HIVと梅毒検査をセットで一律1,000円の3つの特色を掲げ、期間限定のクリニック検査を始めました。平成27年からの4年間で、計8回の期間限定クリニック検査を行いました。198名の受検者から、HIV陽性5名(2.53%)、梅毒検査陽性30名(15.15%)を新規に診断し、全員を医療機関に繋げることができています。

この岡山県での先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中国・四国地域における医療機関等を活用した新たなHIV検査機会を拡大することを目的に、平成30年から岡山県もんげ～性病検査と同時期開催で、せとうち性病クリニック検査を始めています。これは、厚生労働省エイズ対策政策研究事業の研究課題「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」の分担研究であり、課題名は「地方における新たな検査機会の開発—クリニック・診療所における検査機会の拡大—」であります。平成30年は、愛媛県、広島県東部(福山地区)から4施設の参加、さらに平成31年からは香川県内にクリニック検査施設を拡充していく予定です。本冊子で紹介するこれらの取り組みが、地方都市におけるMSMのHIV感染対策の一つのモデル事業として参考になりましたら幸いです。



#### 高田 清式 (愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 教授)

愛媛県は、毎年8～10名の新規HIV感染者・エイズ患者の報告があります。その特徴の1つに他県に比しエイズ患者での報告の割合が多いことが注目されています。進行した状態で明らかな症状がでて初めて医療機関を受診するケースが多く、実際には残念ながら一部では治療を行ってもエイズに罹患した疾患の後遺症が残り社会復帰に支障をきたす場合も見受けられています。そのため、より早期に検査に受診され自ら健康管理をすることが望まれています。保健所での無料検診を積極的に利用されることが重要ですが、検査日が指定され仕事の都合で受診がなかなか困難な場合もあることと思います。平成30年度から厚生労働省エイズ対策研究班の取り組みとして、受診日の都合の解決方法の1つとして、クリニック・診療所における検査機会の拡大を目的に、愛媛県においても「せとうち性病クリニック検査」と名付けて、2か所の医療機関ですが、クリニックでのHIV検査を気軽に曜日の指定なく行える試みを実施しています。今後も医療機関・行政・HaaTえひめなどNGOと連携しながら受けやすい検査環境を整えていきます。



#### 金子 典代 (名古屋市立大学 看護学部 国際保健看護学 准教授)

H29～31年度の厚生労働省エイズ対策研究班では、中四国地域では川崎医大の和田先生が研究分担者となり、「HaaTえひめ」、民間クリニックと協力しゲイバイセクシュアル男性のHIV検査受検促進のための取り組みせとうち性病クリニック検査を行うことになりました。岡山県で、HaaTえひめ、岡山県、川崎医大、民間クリニックの協働によるもんげ～性病検査の事業化に成功しており、この取り組みを中四国に広げることとなります。多くの地方都市から注目されている取り組みです。

MSMの検査行動を進めるためには、NGOの力が不可欠です。「HaaTえひめ」は当事者ネットワークを培い、行政へ働きかけ医療とも連携しながら、エイズ予防活動を10年にわたり展開してきました。非常に限られた人的・社会的資源の中、ここまでの活動ができるNGOはなかなかなく、本当に貴重です。

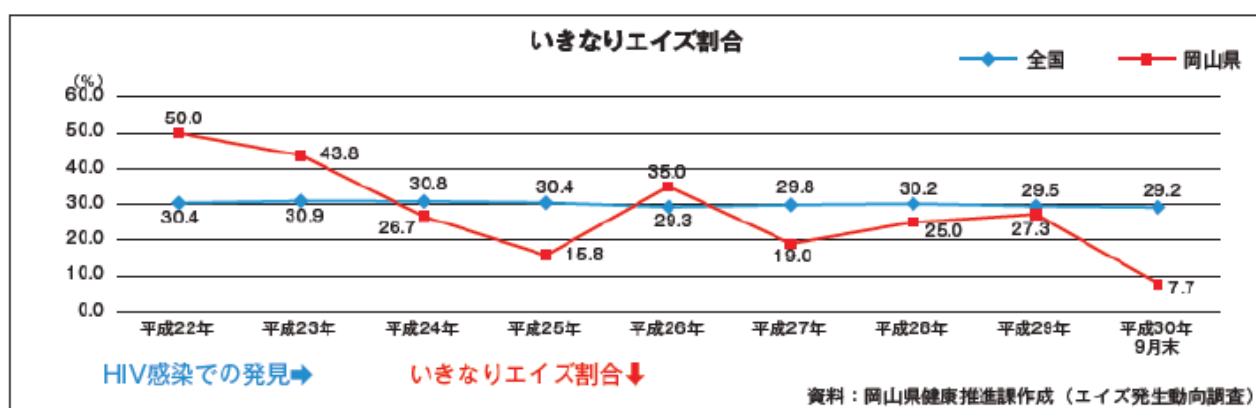
本報告書では、H30年度までのクリニック検査の取り組みをまとめております。ぜひ参考にしていただければと思います。また取り組みはH31年度も続きますので、引き続きご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



## 岡山県クリニック検査キャンペーン 「もんげ～性病検査」の背景～行政事業～

### ■おかやまエイズ感染防止作戦

岡山県内の新規HIV感染者・AIDS患者の発生年代は20～40代が中心で、平成22年にはAIDSを発症してから見つかる患者が5割を占めるなど「いきなりエイズ」が多い状況でした。岡山県では、(1)受けやすい検査、(2)戦略的な普及啓発、(3)関係者の連携強化、を3つの柱とし、全県を挙げて感染防止に取り組む機運を醸成・関係者一丸となって作戦を推進、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成25年度から実施しています。



### ■岡山もんげ～性病検査

この「おかやまエイズ感染防止作戦」の一環として、平成●●年から岡山県と中四国地方でMSMに対してHIV予防啓発活動をおこなっていたCBO HaaTえひめ、そして厚労省エイズ対策研究班（MSM研究班）などが連携し、MSM研究班で先行研究のあるMSMを対象としたクリニックでのHIV検査勧奨を岡山で実施しました。



### ■岡山県庁担当者より



永田さん

岡山県では、検査機会の拡大を図るとともに、HIV・梅毒感染者等の早期発見・早期治療、ひいてはエイズのまん延防止につなげるため、期間限定・MSM限定で、身近な診療所等で、検査の機会を提供する必要があると考え、平成27年度からクリニック検査をスタートさせました。

事業の実施にあたっては、行政だけでは難しく、ゲイ向け性感染症予防啓発団体のHaaTえひめ、MASH大阪、あうとぴーち等の御協力を得て、連携しながら進めております。おかげさまで、3クリニックでスタートしたクリニック検査事業も今年度は、6クリニックとなり、受検者数、HIV陽性率も増え、効果が顕著に現

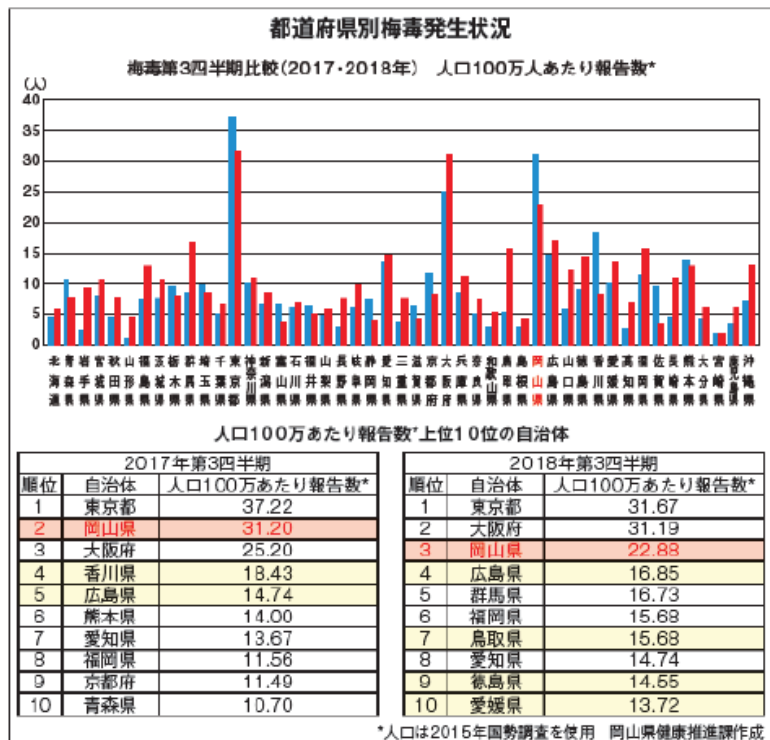
れ嬉しく思っております。また今年度からは、「せとうち性病クリニック検査」とタイアップして進めており、今後、ますますクリニック検査が拡大し、早期発見・早期治療につながっていくことを願っております。

## ■中四国地域のHIV・AIDS

HIV感染者・AIDS患者報告数の上位10位の自治体 (厚労省エイズ動向委員会)						中国・四国	
HIV感染者上位自治体			AIDS患者上位自治体				
平成28年							
HIV感染者上位自治体			AIDS患者上位自治体				
自治体	報告数	自治体	人口10万対	自治体	報告数	自治体	人口10万対
1 東京都	370	1 東京都	2.716	1 東京都	97	1 福岡県	0.901
2 大阪府	140	2 大阪府	1.585	2 大阪府	48	2 佐賀県	0.725
3 愛知県	70	3 沖縄県	1.101	3 福岡県	48	3 東京都	0.712
4 神奈川県	57	4 岐阜県	0.989	4 愛知県	32	4 高知県	0.555
5 福岡県	46	5 愛知県	0.932	5 神奈川県	28	5 大阪府	0.543
6 千葉県	31	6 福岡県	0.901	6 北海道	19	6 群馬県	0.458
7 埼玉県	25	7 山梨県	0.843	6 千葉県	19	7 愛知県	0.426
8 北海道	23	8 徳島県	0.800	8 埼玉県	15	8 愛媛県	0.364
9 岐阜県	20	9 熊本県	0.789	8 兵庫県	15	9 北海道	0.355
9 兵庫県	20	10 高知県	0.693	10 群馬県	9	10 沖縄県	0.347
<a href="http://www.aids-chushi.or.jp/center/block/houkoku/h29/vol2/h29vol2.pdf">http://www.aids-chushi.or.jp/center/block/houkoku/h29/vol2/h29vol2.pdf</a>							
平成29年							
HIV感染者上位自治体			AIDS患者上位自治体				
自治体	報告数	自治体	人口10万対	自治体	報告数	自治体	人口10万対
1 東京都	382	1 東京都	2.638	1 東京都	97	1 東京都	0.707
2 大阪府	124	2 沖縄県	1.594	2 大阪府	50	2 大阪府	0.567
3 神奈川県	57	3 大阪府	1.405	3 愛知県	28	3 沖縄県	0.554
4 福岡県	54	4 福岡県	1.057	4 神奈川県	25	4 富山県	0.473
5 愛知県	41	5 岡山県	0.839	5 福岡県	24	5 福岡県	0.470
6 千葉県	34	6 香川県	0.724	6 千葉県	17	6 鹿児島県	0.431
7 埼玉県	25	7 鹿児島県	0.677	7 北海道	15	7 高知県	0.420
7 兵庫県	25	8 宮崎県	0.643	8 兵庫県	11	8 香川県	0.414
9 沖縄県	23	9 神奈川県	0.622	8 京都府	10	9 徳島県	0.404
9 北海道	19	10 熊本県	0.567	10 埼玉県	9	10 京都府	0.385
<a href="http://api-net.ifap.or.jp/status/2017/17nenpo/h29gaiyo.pdf">http://api-net.ifap.or.jp/status/2017/17nenpo/h29gaiyo.pdf</a>							

中国・四国ブロックの 人口10万対の累積報告数			
	HIV感染者	AIDS患者	AIDS率
鳥取県	2.632	2.982	0.531
島根県	2.754	1.159	0.296
岡山県	7.620	3.969	0.345
広島県	7.896	3.983	0.335
山口県	4.591	1.578	0.256
徳島県	5.467	2.933	0.349
香川県	6.276	4.835	0.435
愛媛県	5.673	4.291	0.431
高知県	5.548	3.883	0.412
中国・四国 ブロック	6.112	3.493	0.364
全国	14.906	6.715	0.311

<http://www.aids-chushi.or.jp/center/block/houkoku/h29/vol2/h29vol2.pdf>



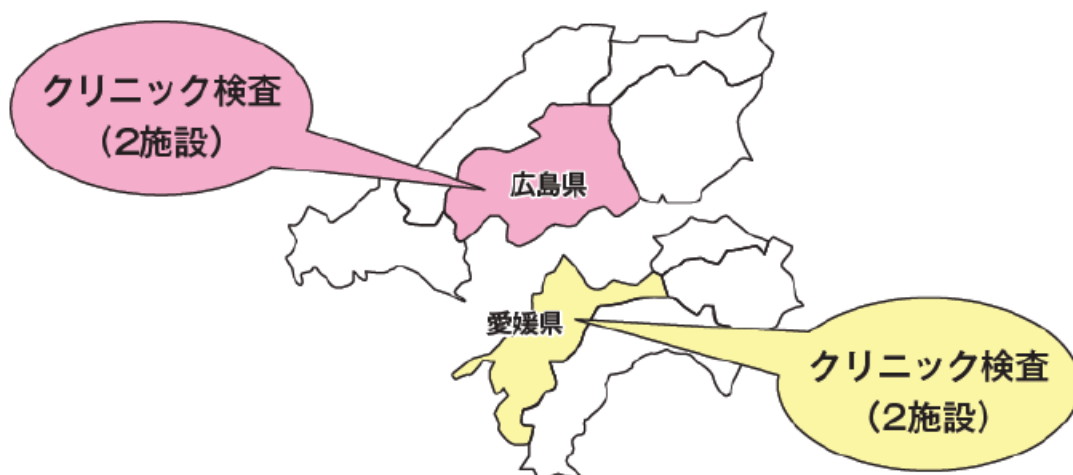
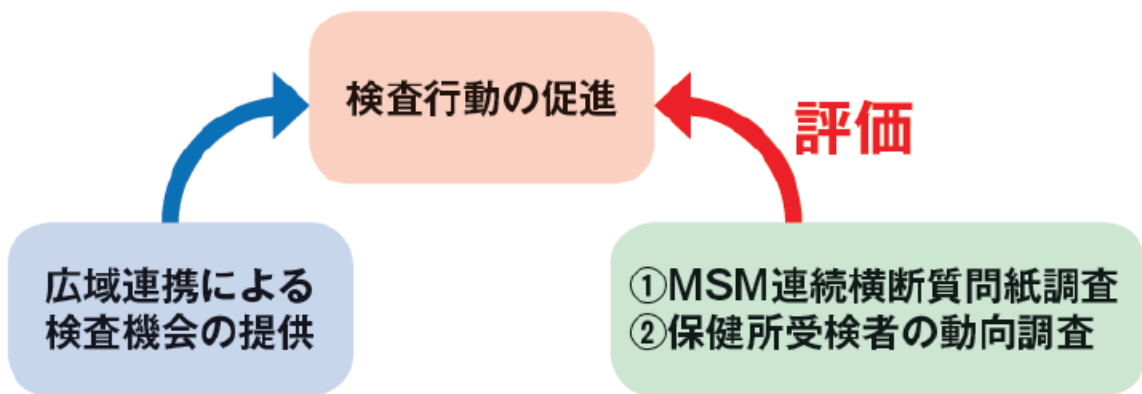
## せとうち性病クリニック検査～研究～

### ■研究目的

地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用したHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避けるMSMへの検査促進を行う。

### ■研究方法

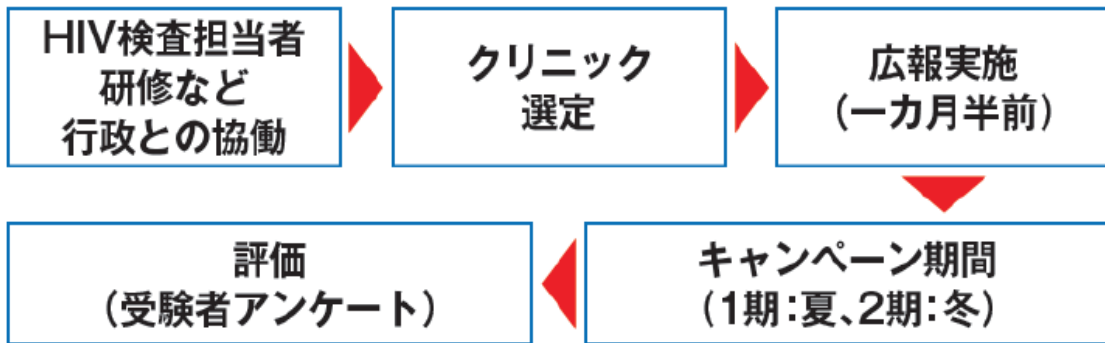
岡山県の先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中四国地域における医療機関等を活用した新たなHIV検査機会を拡大する。受検者へのアンケート調査、行政への検査機関別HIV/AIDS報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行う。



■体制図



■実施の流れ



■実施クリニック (せとうち+もんげ〜同時開催)

A grid of 10 clinic information cards. Each card includes the clinic name, address, phone number, a photo of the doctor, and details about the clinic's services and location. The clinics are:
 

- たなか内科診療所 (Tanaka Internal Medicine Clinic)
- よこやま腎泌尿器科クリニック (Yokoyama Kidney and Urology Clinic)
- 腎・泌尿器科のぞきクリニック (Kidney and Urology Clinic)
- 医療法人 イマイクリニック (Imai Clinic)
- ふちもとクリニック (Fuchimoto Clinic)
- じょう泌尿器科クリニック (Jyoh Urology Clinic)
- アインズ内科クリニック (Ainzu Internal Medicine Clinic)
- ふくやま北泌尿器科内科クリニック (Fukuyama North Kidney and Urology Internal Medicine Clinic)
- ほこいし医院 (Hokoi Hospital)
- 武智泌尿器科・内科 (Takechi Urology and Internal Medicine)

# 広報資材

## ■紙資材

中四国地方のゲイ商業施設など約60か所に配布



## ■WEBサイト

<https://www.dista.osaka/setouchi/>

## 成果

### ■岡山県もんげ～性病検査（クリニック検査）受検者数推移

H27年度（受検者31名）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：15人（HIV陽性者1人、梅毒陽性3人）
第2弾（1/12～2/29）	受検者：16人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）
H28年度（受検者46名：1.48倍）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：33人（HIV陽性者0人、梅毒陽性4人）
第2弾（1/10～2/28）	受検者：13人（HIV陽性者0人、梅毒陽性0人）
H29年度（受検者56名：1.81倍）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：31人（HIV陽性者1人、梅毒陽性4人）
第2弾（1/09～2/28）	受検者：25人（HIV陽性者0人、梅毒陽性5人）

HIV陽性率 **1.50%**    梅毒感染率 **12.8%**

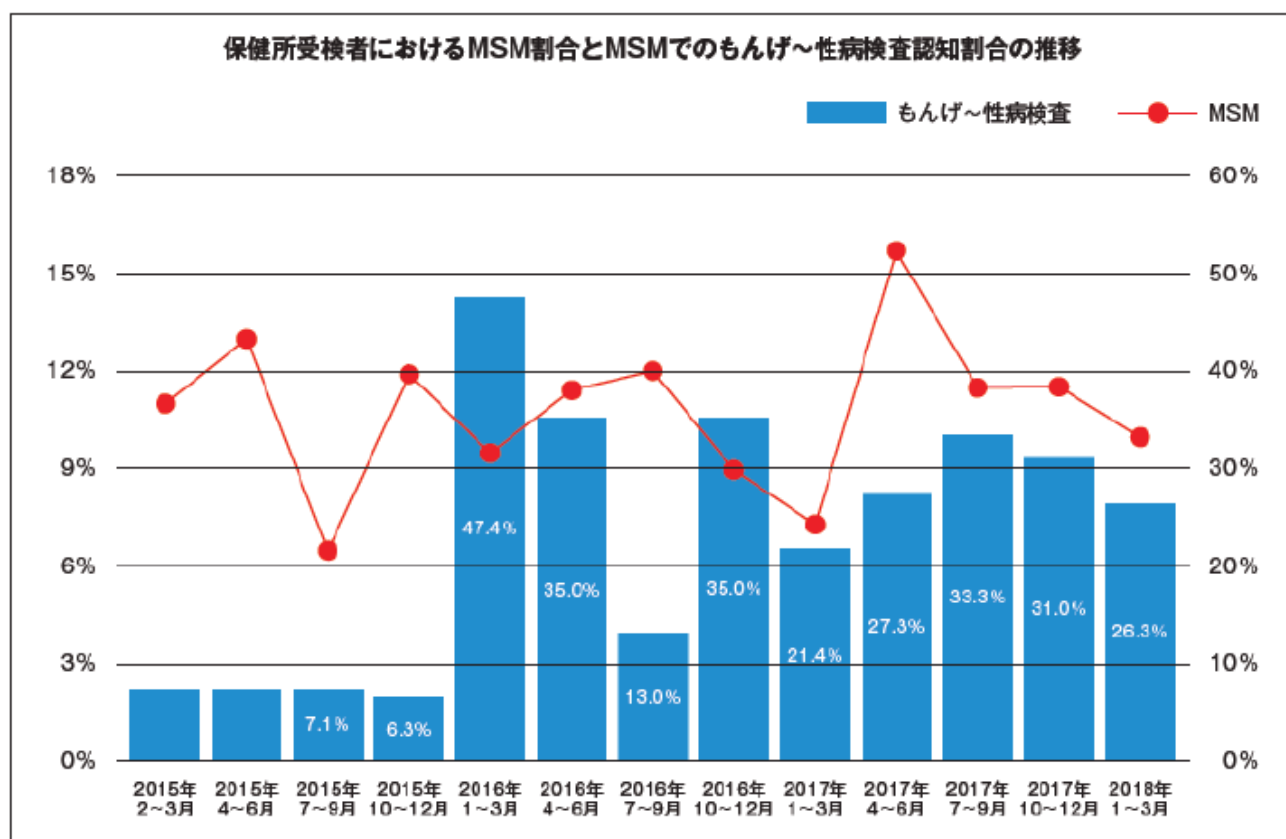
H30年度（受検者95名）		
岡山県もんげ～性病検査 （岡山市3施設、倉敷市3施設）	第1弾 （8/17～9/30）	受検者：31人（HIV陽性者1人、梅毒陽性6人）
	第2弾 （1/7～2/28）	受検者：34人（HIV陽性者2人、梅毒陽性7人）
せとうち性病クリニック検査 （福山地区2施設、松山地区2施設）	第1弾 （8/17～9/30）	受検者：12人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）
	第2弾 （1/7～2/28）	受検者：18人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）

もんげ～クリニック検査の4年間（計8回）の総計は、  
受検者198人（HIV陽性5人、梅毒陽性30人）

## 効果評価～受検者アンケートの結果から～

厚生労働省エイズ対策政策研究班ではHaaTえひめと協働して、岡山県、愛媛県を含む中国・四国地域を住むゲイ・バイセクシュアル男性を対象にアンケート調査を行い、MSM（男性とセックスする男性）の現状を把握して、この「せとうち性病検査」の実施に活用してきました。2017年に行われたアンケート調査では、「これまでにHIV抗体検査を受検したことがある」と回答したのは中国地域のMSMで53.7%（n=328）、四国地域のMSMで57.0%（n=179）と、都市部のMSMの約70%に比べてまだまだ低い割合でした。これは「地方での検査の行きにくさ」が反映されているものと思います。

「もんげ～性病検査」とそれに続く「せとうち性病検査」は、地方に住むゲイ・バイセクシュアル男性にとっての検査環境を、改善しようとする取り組みであり、地方のクリニック・診療所と協力して、検査機会を増やすことにつながってきました。さらに保健所でのHIV抗体検査受検者の促進にもつなげてきました。このことは「もんげ～性病検査」の効果評価の一環として実施している、保健所のHIV抗体検査受検者を対象にしたアンケートの結果からも推察されます。「もんげ～性病検査」を始めて、保健所のMSM受検者で「もんげ～性病検査」の認知割合は47.4%に増加しました。そして広報期間に合わせて30%台になっています。このことから、こういった取り組みは保健所の受検者にも少なからず影響を与えているものと考えられます。



## まとめ

---

- 地方都市では、検査行動は都市部より低く、啓発が肝要だが、ゲイNGOの活動基盤も脆弱であり広域連携など工夫が必要。
  - 地方都市ではエイズに伴うスティグマはいまだに強く検査に対しても心理的障壁がある。
  - 新しい知見（TasP U=U）を浸透させ、スティグマを低減させていく必要がある。
  - 地方都市での検査体制整備なしには、日本全体MSMの検査促進は困難。
  - 医療、NGO、行政の連携により、その地域に適した検査促進の方法を模索していく必要性。
- ➡MSM層を対象とした期間限定のクリニック検査の実施



## 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）  
研究協力者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、和田秀穂（川崎医科大学）、  
高久陽介（日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス）  
高田清式（愛媛大学医学部）、伊藤俊広（仙台医療センター）、  
山本政弘（九州医療センター）、  
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部看護学科）

### 研究要旨

地方都市に居住する HIV 陽性者の感染判明前の検査行動、医療機関の利用、予防介入との接触、ゲイ向け商業施設の利用状況、性行動については明らかになっていない点が多い。

本研究では、沖縄、中四国の地方都市に居住する過去 5 年に HIV 陽性が判明したものにおける陽性判明前の検査行動、性行動および予防サービスの接点を明らかにすることを目的とする。拠点病院に通院する陽性者の診断年はさまざまであるため、共同研究者が診療に従事する病院に通院する平成 25 年 1 月以降に HIV 感染が判明した男性に限定して実施した。質問紙は、拠点病院の医療者から説明、参加協力を依頼し、同意を得られた対象から郵送にて回収を行う方法を採用した。中四国、九州ブロックにおけるエイズ治療の拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019 年 3 月時点で 30 件を回収した。本報告では 2019 年 2 月末までに回収したゲイバイセクシュアル男性 22 名分の分析を実施した。中途解析の段階ではあるが、ゲイバイセクシュアル男性の回答者のデータの分析の結果、地方都市では急性感染症状を発症した際に病院を受診しても HIV 検査を勧められていない可能性があることが示唆された。陽性判明前に検査を受けたことがあるものは 23%であった。HIV の感染経路や予防方法についての知識はあるものの、HIV 治療薬の進歩による延命効果や、医療費の助成制度の認知は低いことが示唆された。

### A. 研究目的

我が国の HIV と AIDS の総報告数は、都市部の感染拡大抑制により横ばいに転じてきている。しかし地方都市では、都市部と比較して、AIDS を発症して感染が判明する患者が多く深刻な問題となっている。この事態の背景には、地方都市では検査を受けていない感染リスク層が多いことが示唆されている。より効果的な HIV 感染者の早期発見や感染リスク層への検査行動の促進を考えるにあたっては、HIV 陽性者の感染判明前の検査機会や検査行動をとりにくかった理由を聞くことはきわめて重要となる。しかし、地方都市に居住する

HIV 陽性者の感染判明前の検査行動、医療機関の利用、予防介入との接触、ゲイ向け商業施設の利用状況、性行動については明らかになっていない点が多い。

本研究では、沖縄、九州、中四国、東北地域の地方都市に居住する過去 5 年に HIV 陽性が判明したものにおける陽性判明前の検査行動、性行動および予防サービスの接点を明らかにすることを目的とする。

必要性・意義：AIDS 患者割合が多い地方都市において HIV 検査行動の促進と予防行動の推進は急務となっている。地方都市では、エイズ予防に充てる予算や人的資源が限られて

おり、今までにまして効果・効率の良いプログラム考案が求められている。HIV 感染者の早期発見に資する効果的な検査勧奨、予防行動プログラムの考案には、近年に感染が判明した陽性者から得られる情報はきわめて重要である。

## B. 研究方法

中四国、九州ブロックのエイズ診療拠点病院に通院する HIV 陽性者を対象に、横断型自記式質問紙調査を実施し、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握する。

本質問紙調査は、HIV 患者が通院する共同研究者が診療に従事する HIV 診療拠点病院において実施する。対象となる患者は、HIV 診療経験が豊富な医師・医療保健専門職が通院患者に質問紙を手渡しし、調査目的、参加条件を説明し、回答を依頼する。回答した質問紙は、封筒に本人に厳封してもらい、会場内に設置した鍵付き回収箱にて回収し、名古屋市立大学に郵送する。ただし、本人が質問紙を記載するスペースがない施設については、自宅で記入し、各自回答済み質問紙のポストへの投函を依頼する。

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会、川崎医科大学、琉球大学医学系研究科に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

拠点病院に通院する陽性者の診断年はさまざまであり、病歴が長い陽性者からの陽性判明前の状況の記憶はバイアスがある可能性が指摘された。そのため、共同研究者が診療に従事する病院に通院する平成 25 年 1 月以降に HIV 感染が判明した男性に限定することとした。調査項目は、陽性判明前の性行動、急性感染の症状の認知、検査行動、を含むものとした（資料 1）。

H30 年度は、中四国では川崎医大病院を拠点に、九州ブロックでは琉球大学に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019 年 3 月時点で

30 件を回収した。本報告では 2019 年 2 月末までに回収したゲイバイセクシュアル男性 22 名分の分析を実施した。

## C. 研究結果

中間解析として回答者の基本属性、感染判明のきっかけ、感染判明前の知識、感染可能性の認識、医療機関へのアクセスについて表 1 の通りまとめた。

年齢層は幅広く分布しており、セクシュアリティはゲイが 64%、バイセクシュアルが 32%であった。感染したと思われるパートナーはその場限りのパートナーが 77.3%と最も多かった。

最初に HIV 陽性の告知を受けた機関は、病院、クリニックが 72%と最も多かった。感染したと思われる時期に、急性期の症状があったものが 55%と過半数を占めた。また症状をきっかけに医療機関を受診したものが 12 名中、11 名いた。しかしその際、HIV 検査を勧められたものは 5 名と半数以下であった。

陽性判明前の、感染に関する基礎知識（HIV の感染ルート、アナルセックスの感染の高さ、コンドームの効果）の正答割合は 8 割を超え比較的高かった。感染可能性は「まさか感染するとは思っていなかった」が 55%、自分は大丈夫、が 36%であった。HIV 感染症に関する比較的新しい知識である HIV 治療薬の延命効果を知っていたものは 36%、医療費の補助制度があることを知っていたものは 18%であった。陽性判明前に検査を受けたことがあったものは 23%であった。陽性判明前の 1 年間ゲイバーを利用者は 50%、ゲイナイト利用は 19%、有料ハッテン場の利用は 68%であった。

自由記載では下記のような意見が抽出された。

### ゲイバイセクシュアル男性が置かれた立場

- ・ LGBT がもっと社会的に偏見なくうけいれられて（健全なる？）同性間の生活が出来る時代になれば自分は影にかくれたまま

生きてきて積極的な社会的行動を行わなかった。

#### **HIV 感染症の身近さ、イメージ新しい知識**

- ・もし、HIV に感染していても、死ぬ訳じゃない、人生終わりじゃないんだよという知識が、今よりもっと蔓延すれば、恐怖心を払拭でき、早期発見、隠れ HIV の減少に繋がるのかな？という気持ちはあります
- ・自分は大丈夫という根拠のない自信が一番の原因であった。
- ・HIV に感染していたらすぐ症状が出るので、陽性者はセックスは行われないうちに思っていた。従って、うつす可能性は 0 に等しいと考えていた。

#### **性行為時の予防行動、知識や危機意識が予防行動に直結するか**

- ・性交渉時はコンドームを行うことの重要性
- ・感染する危険性より快楽を求める人間性をいかに押し殺すか
- ・今程ではありませんが HIV 感染のリスクについての知識は元々あった上での、感染だったので情報・警告が十分だったとしてもリスクのある行為そのものが減る…という事にはあまり直結しなかったかな？というのが本音です
- ・本人の意識や考えに準ずる事が大きくなかなか難しい気がします。
- ・情報等、目にしてもなかなか他人事のような感覚の方が強いのが実際である

#### **TasP**

- ・断言は出来ませんが、自分が HIV に感染した行為の相手は未投薬だったと思うので、その相手が検査を受け、投薬治療を行ってれば…それが一番の予防だったかな、と思います。

#### **急性期の症状についての啓蒙**

- ・急性期の症状をもっと広めることが重要性

#### **D. 考察**

本研究では、地方都市での検査アクセス、陽性判明前の性行動、急性感染に関する症状の認知を明らかにすることで、どこに今後予防介入のアプローチをかけていくかの基礎資料となる。本研究から、地方都市では急性感染症状を発症した際に病院を受診しても HIV 検査を勧められていない可能性があることが示唆された。また検査受検経験は低く陽性判明前に検査を受けたことがあるものは 23% であった。HIV の感染経路や予防方法については知識はあるものの、HIV 治療薬の進歩による延命効果や、医療費の助成制度の認知は低いことが示唆された。2019 年 12 月末までの実施で総計 70 名からの回収を見込んでいる。

#### **E. 結論**

平成 30 年度は、調査票を配布し、回収、分析を実施した。現在は中間時点であるが、どのようにすればより早期に発見できたか、また予防啓発をより効果的にするための意見など質的データを含むデータを収集した。質問紙の回収期限は 2019 年 12 月末日としており、次年度は最終とりまとめを行い早期発見の促進、予防啓発活動への還元を目指す。

#### **F. 研究発表**

##### **1. 論文発表**

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生学の指標, 2018, 65 (5) 35-42.
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21 (1) 34-44.

##### **2. 学会発表**

- 1) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原

- 孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚兵, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 大阪, H30. 12. 2-4.
- 5) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代, 岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 椎野禎一郎, 蜂谷敦子, 今橋真弓, 松田昌和, 岩谷靖雅, 横幕能行, 金子典代, 羽柴知恵子, 吉村和久: 国内伝播クラスタの検索プログラムの開発 2: 東海地方で若年層に急速に伝播を広げるクラスタの検出. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 今橋真弓, 金子典代, 椎野禎一郎, 松田昌和, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行, 羽柴知恵子: 名古屋医療センターにおける 2009 ~2016 年未治療初診患者の後方視的生存率検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集

会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 8) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

表1. 対象者の属性（1）

	N	%
<b>年齢</b>		
20歳代	4	18.2
30歳代	8	36.4
40歳代	3	13.6
50歳代	3	13.6
60歳代以上	4	18.2
<b>セクシュアリティ</b>		
男性同性愛者（ゲイ）	14	63.6
両性愛者（バイセクシュアル）	7	31.8
その他	1	4.5
<b>職業</b>		
公務員、会社員（正規雇用）	9	40.9
パート・アルバイト・契約社員	6	27.3
自営業・自由業・経営	3	13.6
現在は働いていない	3	13.6
その他	1	4.5
<b>考えられる感染経路</b>		
同性間の性交渉	19	86.4
異性間の性交渉	1	4.5
薬物の使用・回し打ち	1	4.5
不明・その他	1	4.5
<b>感染したと考えられるパートナー</b>		
特定の相手（彼氏、恋人）	2	9.1
知り合いだが特定ではない相手（セックスフレンドなど）	2	9.1
その場限りのパートナー	17	77.3
わからない	1	4.5
<b>最初にHIV陽性の告知を受けた機関</b>		
病院	13	59.1
医院・クリニック	3	13.6
保健所・保健センター	5	22.7
郵送検査・自己検査	1	4.5
<b>HIV陽性が判明した際、医師から受けた診断は以下のどれですか？</b>		
HIVキャリアー（エイズは発症していない）	16	72.7
AIDS（エイズを発症している）	5	22.7
無回答	1	4.5

表 1. 対象者の属性 (2)

	N	%
<b>HIVに感染したとき、HIVの急性期の症状はありましたか？</b>		
あった	12	54.5
ない	4	18.2
覚えていない	6	27.3
<b>急性期症状があった方_その症状をきっかけに医療機関は受診しましたか？</b>		
受診した	11	50.0
受診していない	1	4.5
非該当	10	45.5
<b>受診した医療機関では、HIV検査を勧められましたか？</b>		
勧められ、受けた	5	22.7
勧められたが受けなかった	1	4.5
勧められなかった	5	22.7
非該当	11	50.0
<b>陽性判明前の知識の有無。_1HIVは精液・血液と粘膜・傷口の接触によって感染する</b>		
知識なし	3	13.6
あり	18	81.8
無回答	1	4.5
<b>陽性判明前の知識の有無。_2特にアナルセックスではHIVの感染リスクが高い</b>		
知識なし	2	9.1
あり	19	86.4
無回答	1	4.5
<b>陽性判明前の知識の有無_3HIVはコンドームで防げる</b>		
知識なし	3	13.6
あり	18	81.8
無回答	1	4.5
<b>陽性判明前に、あなたは自分がHIVに感染する可能性をどのように思っていましたか？</b>		
まさか感染すると思っていなかった	12	54.5
感染している可能性はあるが、自分は大丈夫	8	36.4
いずれ自分も感染するだろう	1	4.5
無回答	1	4.5
<b>陽性判明前に、「HIVに感染していても、治療によって一般の人と同じくらい長く生きることができる」ということをご存知でしたか？</b>		
知っていた	8	36.4
知らなかった	14	63.6
<b>HIVの治療費について、医療費補助制度があるということをご存知でしたか？</b>		
知っていた	4	18.2
知らなかった	18	81.8

表 1. 対象者の属性 (3)

	N	%
<b>陽性判明前にも、HIV検査を受けたことがありますか？</b>		
あった	5	22.7
なかった	17	77.3
<b>HIV陽性が判明する前にかかったことのある疾患 梅毒</b>		
チェックなし	15	68.2
チェックあり	6	27.3
無回答	1	4.5
<b>陽性が判明する前の1年間、ゲイバー利用頻度</b>		
まあ 利用した	4	18.2
あまり利用しなかった (半年に2回以下)	7	31.8
全く利用しなかった	9	40.9
無回答	2	9.1
<b>陽性が判明する前の1年間、ゲイナイト利用頻度</b>		
まあ 利用した	1	4.5
あまり利用しなかった (半年に2回以下)	3	13.6
全く利用しなかった	15	68.2
無回答	3	13.6
<b>陽性が判明する前の1年間、有料のハッテン場の利用頻度</b>		
まあ 利用した	9	40.9
あまり利用しなかった (半年に2回以下)	6	27.3
全く利用しなかった	6	27.3
無回答	1	4.5
<b>陽性が判明する前の1年間、野外のハッテン場の利用頻度</b>		
まあ 利用した	7	31.8
あまり利用しなかった (半年に2回以下)	3	13.6
全く利用しなかった	10	45.5
無回答	2	9.1

資料 1

問 1. あなたの年齢を教えてください。

1.  10 歳代以下            2.  20 歳代            3.  30 歳代  
4.  40 歳代            5.  50 歳代            6.  60 歳代以上

問 2. あなたの自認する性別をお答えください。(1 つだけ○)

1.  男                            2.  女                            3.  その他 (                            )

問 3. あなたの住んでいる居住地はどちらですか。(                            ) 都道府県

問 4. あなたのセクシュアリティをお答え下さい。(1 つだけ☑)

1.  男性同性愛者 (ゲイ)                            4.  性同一性障害 (トランスジェンダー)  
2.  両性愛者 (バイセクシュアル)                            5.  その他 (                            )  
3.  異性愛者 (ヘテロセクシュアル)

問 5. あなたの現在の職業で最も近いのはどれですか。(1 つだけ☑)

1.  公務員、会社員 (正規雇用)                            4.  学生  
2.  パート・アルバイト・契約社員                            5.  現在は働いていない  
3.  自営業・自由業・経営                            6.  その他 (                            )

問 6. あなたが HIV 陽性の診断を受けたのは何年ですか? (                            )年

問 7. あなたの HIV 感染が考えられる行為は以下のうちどれですか? (1 つだけ☑)

1.  同性間の性交渉                            3.  薬物の使用・回し打ち  
2.  異性間の性交渉                            4.  不明・その他 (                            )

問 8. 感染したと思われるパートナーは以下のうちどれに当てはまりますか? (1 つだけ☑)

1.  特定の相手 (彼氏、恋人)  
2.  知り合いだが特定ではない相手 (セックスフレンドなど)  
3.  その場限りのパートナー (一晚だけの相手など)  
4.  金銭を介した性交渉 (風俗サービスの利用や援助交際など)  
5.  その他 (                            )    6.  わからない

問 9. 最初に HIV 陽性の告知を受けた機関はどちらですか? (1 つだけ☑)

1.  病院                            4.  郵送検査・自己検査  
2.  医院・クリニック                            5.  その他 (                            )  
3.  保健所・保健センター

問 10. HIV 陽性が判明した検査は、どちらの都道府県で受けましたか?

1.  現在居住の都道府県  
2.  現在居住している以外の県 →→ 差し支えなければ県名をお教えてください



( )

問 11 HIV 陽性が判明したときの検査の受検のきっかけはどれでしたか？ (あてはまるものすべて☑)

1.  原因は分からないが、気になる症状や体調不良があった
2.  エイズ発症や関連疾患と思われる症状があった
3.  HIV 検査以外の病気の検査や手術前の血液検査をうけて
4.  他の性感染症にかかったから
5.  定期的に検査を受けていたから
6.  パートナーとの交際に向けての事前確認として
7.  献血をして
8.  友達・知人・家族などの勧めで
9.  セックスの相手が HIV 陽性だとわかった
10.  身近な友達での HIV 感染が判明したから
11.  その他 ( )

問 12. HIV 陽性が判明した際、医師から受けた診断は以下のどれですか？ (ひとつだけ☑)

1.  HIV キャリアー (エイズは発症していない)
2.  AIDS (エイズを発症している)
3.  上記、いずれもいわれなかった

問 13. HIV 陽性が判明した時の、あなたの CD4 陽性 T リンパ球数は次のうちどれに当てはまりますか？

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1. <input type="checkbox"/> 200 個未満       | 3. <input type="checkbox"/> 500 個以上 |
| 2. <input type="checkbox"/> 200 個-500 個未満 | 4. <input type="checkbox"/> 覚えていない  |

問 14. HIV に感染したとき、下記のような急性期の症状はありましたか？

HIV の急性期症状とは？

インフルエンザによく似た症状で、検査をしてもインフルエンザは陰性であり、感染の機会から 2-4 週間後に突然 38 度以上の発熱が 1-2 週間、リンパ節の腫れ、強いのどの痛み、口内炎、だるさ、下痢などが特徴です。伝染性単核球症や無菌性髄膜炎と診断されることもあります。通常は数日から数週間で症状は自然に消えてしまいます。

- |  |  |
|--|--|
| 1. <input type="checkbox"/> あった          | 3. <input type="checkbox"/> 覚えていない・・・★問 15 へ |
| 2. <input type="checkbox"/> ない・・・★問 15 へ |  |

問 14-1) 急性期症状があった方にお尋ねします。その症状をきっかけに医療機関は受診しましたか？

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1. <input type="checkbox"/> 受診した              | 3. <input type="checkbox"/> 覚えていない |
| 2. <input type="checkbox"/> 受診していない・・・★問 15 へ |                                    |

問 14-2) 前問で受診した医療機関では、HIV 検査を勧められましたか？ (1 つだけ☑)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1. <input type="checkbox"/> 勧められ、受けた | 2. <input type="checkbox"/> 勧められたが受けなかった |
|--------------------------------------|--|

3.  勧められなかった

**HIV 陽性が判明する前のご事情についてお伺いします**

★問 15 陽性判明前、あなたは HIV 感染症に対する下記の情報を知っていましたか。(知っているものすべて☑)

1.  HIV は精液・血液と粘膜・傷口の接触によって感染する  
2.  特にアナルセックスでは HIV の感染リスクが高い  
3.  HIV はコンドームで防げる

★ 問 16. 陽性判明前に、あなたは自分が HIV に感染する可能性をどのように思っていましたか？  
(1つだけ☑)

1.  まさか自分が感染すると思っていなかった  
2.  感染している可能性はあるが、自分は大丈夫だろうと思っていた  
3.  いずれ自分も感染するだろうと思っていた

問 17. 陽性判明前に、「HIV に感染していても、治療によって一般の人と同じくらい長く生きることができる」ということをご存知でしたか？ (1つだけ☑)

1.  知っていた 2.  知らなかった

問 18. HIV の治療費について、医療費補助制度があるということをご存知でしたか？ (1つだけ☑)

1.  知っていた 2.  知らなかった

問 19. 陽性判明前にも、HIV 検査を受けたことがありましたか？ (1つだけ☑)

1.  あった 2.  なかった・・・◆問 21 へ

問 20 検査を受けたことがあった方にお尋ねします。最後の検査機会は、陽性判明前のどれくらい前ですか？ (ひとつだけ☑)

1.  半年前-1年前 3.  2年以上前  
2.  1年以上前

◆問 21 陽性判明までに検査を受けたことがなかった方にお聞きします。検査を受けなかった理由は何ですか？ (あてはまるものすべて☑)

1.  面倒だった 5.  検査を受けるお金がなかった  
2.  時間がなかった 6.  結果を知るのが怖かった  
3.  休日に受検できる検査がなかった 7.  感染している可能性がないと思っていた  
4.  検査場所を知らなかった

問 22. あなたは HIV 陽性が判明する前、以下のサイトを知っていましたか？ (知っているサイトに☑)

1.  HIV 検査相談マップ



# HIVマップ

すぐに役立つHIVの総合情報サイト

## 2. HIV マップ

問 23 以下のうち、HIV 陽性が判明する前にかかったことのある疾患はありますか？（あてはまるものすべて)

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 1. <input type="checkbox"/> 梅毒       | 7. <input type="checkbox"/> 淋病                |
| 2. <input type="checkbox"/> 尖圭コンジローマ | 8. <input type="checkbox"/> 赤痢アメーバ            |
| 3. <input type="checkbox"/> A型肝炎     | 9. <input type="checkbox"/> 帯状疱疹              |
| 4. <input type="checkbox"/> B型肝炎     | 10. <input type="checkbox"/> 繰り返す口内炎          |
| 5. <input type="checkbox"/> C型肝炎     | 11. <input type="checkbox"/> いずれもない・・・★問 24 へ |
| 6. <input type="checkbox"/> クラミジア感染症 |   |

上記の疾患の診断を受けた病院での状況についてお聞きします。

問 23-1) 病院では HIV 検査を勧められましたか？

1.  勧められた
2.  勧められなかった・・・★問 24 へ

問 23-2) 勧められた検査を受けましたか？

1.  受けた
2.  受けなかった

今からプライバシーにかかわることをお聞きします。プライバシーは守られますので、どうかご協力をお願いいたします。男性（同性）との性行為で感染したと思われる方は以下の★問 24 から、異性のパートナーとの性行為で感染したと考えられる方は、◆ 問 32 から回答ください。

**陽性が判明する前1年間の性行動についてお伺いします。覚えている範囲でお答えください。**

★問 24 陽性が判明する前の1年間、特定の付き合っている相手（彼氏、恋人、パートナー）との性交渉でコンドームはどのくらい使用していましたか？

1.  特定の相手とセックスはしなかった
2.  コンドームを必ず使った
3.  使ったり使わなかったりした
4.  使わなかった
5.  特定相手はいなかった

問 25 陽性が判明する前の1年間、友達やセックスフレンド（セクフレ）など、恋人ではない特定の相手とのセックスのときコンドームはどのくらい使いましたか？

1.  友達やセクフレとセックスはしなかった、またはセクフレはいなかった
2.  コンドームを必ず使った
3.  使ったり使わなかったりした
4.  使わなかった

問 26 陽性が判明する前の1年間、その場限りの相手とのセックスのときコンドームはどのくらい使いましたか？

1.  その場限りの相手とセックスはしなかった
2.  コンドームを必ず使った
3.  使ったり使わなかったりした
4.  使わなかった

問 27 陽性が判明する前の1年間、その場限りの相手とどこで会いましたか？(あてはまるものすべて)

1.  9monsters、Jack' d など位置情報が必要な出会い系アプリ
2.  出会い系サイト
3.  Twitter・LINE などの SNS
4.  ゲイバー
5.  有料のサウナ・ハッテン場
6.  野外系のハッテン場 (公園、海岸、トイレなど)
7.  ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設
8.  その他 ( )
9.  その場限りの相手とは出会わなかった

問 28 陽性が判明する前の1年間、下記の施設をどのくらい利用していましたか？

	よく利用した (週1回以上)	まあ 利用した	あまり利用しなかつ た (半年に2回以下)	全く利用しな かった
1) ゲイバー	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) ゲイナイト	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) 有料のハッテン場	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4) 野外のハッテン場	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4

問 29 陽性が判明する前の1年間、あなたは下記のものをセックス時に使用したことがありますか？  
(あてはまるものすべてに☑)

**\*回答はすべて厳重に管理され、あなたが特定されたり不利益を受けたりすることは一切ありません。**

1.  ぼつき薬 (ハイゲラなど)
2.  5-MEO-DIPT (ゴマ・フォクシー)
3.  その他のセクストラッグ (合ドラや威哥王など)
4.  マリファナ・コカイン・大麻
5.  ラッシュ
6.  スピート・エクスター (MDMA など)
7.  静脈注射のドラッグ
8.  いずれもない



2) HIV 陽性が判明する前、HIV 検査を保健所で無料匿名で受けられることはご存知でしたか？

1.  知っていた

2.  知らなかった

問 33 HIV 陽性が判明する前、HIV 関連の情報は聞いたことがありましたか？

1.  知っていて注意していた

3.  知らなかった

2.  知っていたが気にはしなかった

以下は自由記載です。お手数をおかけしますが、有効な対策を考えるにあたり大変重要な情報となります。どうぞご協力をお願いいたします。

ご自身の経験を振り返って、陽性判明前にどのような情報・支援・環境があれば HIV 感染を防げたと思いますか？また、エイズ発症経験者については、どのような情報・支援・環境があれば発症する前に検査を受けることができたと思いますか？ぜひご意見をよろしく願いいたします。

本調査について、または HIV の予防・検査についてご意見がございましたら、下記にお書きください。

ご協力本当にありがとうございました。

アンケートは回収箱へ投函、または返信用郵送に入れポストに投函ください。

皆様からの回答は、地域での診療や検査体制の整備、予防啓発活動等に還元させていただきます。

## よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）  
研究協力者：太田貴（やろっこ）、星野慎二（NPO 法人 SHIP）、荒木順子（NPO 法人 akta）、  
石田敏彦（ANGEL LIFE NAGOYA）、後藤大輔、町登志雄（MASH 大阪）、  
宮田りりい（SWASH）、新山賢（HaaT えひめ）、玉城祐貴（nankr 沖縄）

### 研究要旨

本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度には 2 地域で質問紙調査を実施することとした。初年度には調査内容について男性同性愛者を中心とする当事者団体らと検討し、先行研究で用いられた質問項目に加えインターネット利用に関する項目、新たな知識となる Treatment as Prevention や PrEP の知識についての項目を追加し、2018 年 1 月 12 日から 2 月 12 日の 1 ヶ月間、中四国地域および横浜、仙台で調査を実施した。また 2 年目にあたる本年度は、名古屋地域で 2018 年 12 月 15 日から 1 月 15 日の 1 ヶ月間、同様の調査を実施した。また大阪、沖縄地域ではインターネットを利用した質問紙調査を実施した。本年度は地域ごとに単純集計で分析した。

### A. 研究目的

先行研究では MSM における生涯受検割合は 6 割～7 割程度、過去 1 年間の受検割合は 3 割程度にとどまっている。

未受検者や定期的な受検習慣がない MSM の中には、薬物使用者や経済的困窮者、セックスワーカー、ネットワークが希薄な地方地域在住の MSM 等、感染リスクの高い層が含まれると考えられる。また予防啓発が届いていない層では HIV/AIDS に関する意識や知識、およびスティグマは従来のものであると考えられ、効果的な予防介入の浸透が阻害されている可能性もある。これらの層は従来の予防介入では届かなかった層であり、MSM の中でもより HIV 感染リスクの高い層である。今後予防介入はよりハイリスクな MSM 層に焦点化して展開していく必要があり、本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。また、最終的には各地域の CBO で連携してよりハイリスクな層に有効な介入方法を検討し、試行と効果評価の方法を検討することも目的としている。

### B. 研究方法

当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を

行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度に 3 地域（東北、横浜、中四国）で質問紙調査を実施した。2 年目にあたる本年度はさらに 3 地域（名古屋、大阪、沖縄）で質問紙調査を実施した。

方法は先行研究と同様に、各地域の CBO がゲイ向け商業施設利用者を対象に HIV に関する知識の提供や検査行動の促進を目的にした活動を展開していることをふまえ、これらの CBO を介して、ゲイ向け商業施設に調査協力を依頼し、質問紙調査を商業施設スタッフから利用者に配布する仕組みとした。同意の得られた商業施設にアンケートセットを配布し、従業員から利用者に直接手渡され、利用者が記入後厳封し、商業施設にある回収袋に投函する方法とした。回答者には謝礼として商業施設で使用可能なチケット（1,000 円相当）と調査依頼書をアンケートセットに同封して、無記名自記式の質問紙と一緒に配布した。2 年目にあたる本年度は 2 地域（大阪、沖縄）の活動状況を踏まえ、インターネットを利用した質問紙調査で実施した。名古屋地域では前年度と同様の方法で実施した。

調査項目は先行研究と同様の項目を活用し、基本属性、過去 6 ヶ月間の商業施設など利用経

験、予防啓発活動の認知、ソーシャル・キャピタル、HIV 抗体検査受検経験、検査の未受検理由、性行動および予防行動とした。また以下の項目を追加した。本研究ではよりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としているため、CBO スタッフと検討し、これまで意識的に予防介入を行ってこなかった層を特定する項目として、以下のインターネット利用に関する項目を追加した。

- 過去 6 ヶ月間に、以下の SNS や掲示板を活用して、画像や文字を投稿しましたか？
- 前問でチェックした、SNS や掲示板、アプリに、自分の顔や身体画像を投稿したことがありますか
- 前問で、チェックした SNS や掲示板に、裏アカウントを持っていますか？
- 前問で、チェックした SNS や掲示板であった相手とセックスしたことがありますか？

先行研究では、商業施設利用者の中でもインターネットを利用した出会いを積極的に行う層における感染リスクの高さが報告されているが、MSM におけるインターネット利用の方法も多様性があることについて明らかにした研究はみあたらない。検討する中で、新たに追加した項目のような経験を有する人は感染リスクの高い層であると思われるが、よりハイリスクな層に焦点をあてて予防啓発を進めるためには、まず、彼らの動向を明らかにする必要があると考えた。

また新たな知識となる Treatment as Prevention や PrEP の知識について以下の項目も追加し、HIV/AIDS に関する知識や意識の状況を把握することにした。

- あなたは、抗 HIV 薬(ウイルスの増殖を抑える薬)の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIV を他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか？
- 「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP, ペップ)」に関する上記のような情報について、知っていましたか？
- あなたの友達や知り合い、セックスの相手で、HIV 陰性者 (HIV に感染していない人) の中に「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ)」をしている人はいると思いますか？

ますか？

- あなたは、「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」を服薬したいと思いますか？

新たな知識については、ゲイコミュニティにおける啓発普及の必要性が指摘されている。日本の現状として、これらの認知が低いことは先行研究で報告されているが、一方コミュニティでは PEP や PrEP についてはインターネットの情報を見て問い合わせがあったり、個人輸入等の動きも少ないが存在する。結果的にリスクな行為を望んでいる層が PrEP のことを知れば、余計にアンダーグラウンドに潜っていく可能性も考えられる。また TasP については HIV を持っている人に対するスティグマの払拭につながるが、コミュニティに情報を提供するときには、TasP について気軽に伝えられる環境が整っていることも重要である。本調査では、上記のような意見交換をふまえ、まず初めに、新たな知識や意識がどの程度浸透しているかを把握することを目的とした。

さらに男性同性愛者を中心とする当事者団体(東北：やろっこ、首都圏：NPO 法人 akta・NPO 法人 SHIP、東海：ANGEL LIFE NAGOYA、近畿：MASH 大阪、中四国：HaaT えひめ/BRIGE プロジェクト、沖縄県：nankr 沖縄)と共同し、当事者参加型で検討を進め、男性同性愛者の社会的文脈に沿った調査項目となるよう検討し作成した。

なお、本研究は大阪青山大学倫理審査委員会の承認を得て実施している。

## C. 研究結果

### 実施状況

中四国地域では 7 県のゲイバー 40 店舗から協力を得られ、総計 780 部の質問紙を配布し、568 部回収した (回収率 72.8%)。また横浜では 20 店舗のゲイバーおよびハッテン場から協力を得られ、総計 340 部の質問紙を配布し、279 部回収した (回収率 82.1%)。仙台では、10 店舗のゲイバーおよび売り専から協力を得られ、総計 170 部の質問紙を配布し、137 部回収した (回収率 80.6%)。名古屋地域ではゲイバー 24 店舗から協力を得られ、総計 580 部の質問紙を配布し、369 部回収した (回収率 63.6%)。

中四国地域、および横浜、仙台、名古屋地域をあわせ総数では、ゲイ向け商業施設 94 店舗の協力を得て、総計 1,870 部の質問紙を配布し、1,353 部回収した (回収率 72.4%)。

インターネットを利用した質問紙調査で実施した大阪地域では有効回答数は 142 件であ



り、沖縄地域では100件であった。

実施状況を以下の表に示した。また各地域別に分析した結果を表2～表17に示した。なお、名古屋地域の調査結果については現在集計中である。

表1 実施状況

地域		協力店舗	配布数	回収数 (回収率)
中国地域	岡山県	9	170	90
	広島県	17	330	278
	島根県	1	20	0
四国地域	愛媛県	4	10	94
	香川県	4	70	61
	徳島県	1	80	10
	高知県	4	100	35
小計		40	780	568(72.8%)
横浜		20	340	279(82.1%)
仙台		10	170	137(80.6%)
小計		30	510	416(81.6%)
名古屋		24	580	369(63.6%)
大阪		-	-	142
沖縄		-	-	100

#### D. 考察

商業施設を介した質問紙調査の実施状況における回収率はおおむね8割と高く、これまでCBOが活動を展開し、商業施設との関係を構築してきたことが影響していると考えられる。一方で大阪、沖縄で実施したインターネットを利用した質問紙調査は小規模なものとなり、先行研究との比較は難しいと判断し、地域別の分析にとどまった。しかし、本調査の結果を詳細に分析することによって、エイズ予防指針のもとに実施されてきた従来型の予防介入では、介入が届きづらかった「よりハイリスクなMSM層」の実態が明らかとなり、彼らへの予防介入を検討するうえで重要な資料を得ることが可能となると考える。また「よりハイリスクなMSM層」への予防介入は、今後の新規HIV感染者数の減少に向けた有効な介入方法の開発と展開につながることが期待できる。

#### E. 結論

今年度は、本研究の目的となる「よりハイリスクなMSM層」についてCBOと協働して整理し、その実態を把握するための調査内容と方法を検討した。複数の新たな質問項目を作成し、調査を実施した。次年度以降分析を進めていく。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性. 厚生学の指標, 2018, 65(5) 35-42.
- 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) 34-44.

##### 2. 学会発表

- 塩野徳史: U=Uをめぐるメッセージと予防啓発 シンポジウム9 U=U 誰が何をどう伝えるか: 陽性者の人権とスティグマゼロへの取り組みを視野に入れて 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題 日本エイズ学会シンポジウム エイズ予防指針改定の背景と課題 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高いMSM層の実態把握とHIV抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018
- 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子: HIV陽性者のかかりつけ医への通院状況. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 塩野徳史ら: HIV陽性者でのTreatment as Prevention (TasP)の認知状況と性生活・メンタルヘルスとの関連. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 米倉佑貴, 大島岳, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子: HIV陽性者における依存性薬物使用の変

化とストレス関連成長・ストレス対処力との  
関連3年間の縦断データ分析より.第32回日  
本エイズ学会学術集会・総会,大阪,  
H30.12.2-4

8) 大島岳,井上洋士,戸ヶ里泰典,高久陽介,米  
倉佑貴,阿部桜子,塩野徳史,細川陸也,山内  
麻江,片倉直子,河合 薫,若林チヒロ,大木  
幸子,渡邊淳子,梅沢寛子:板垣貴志:差別偏  
見を感じている HIV 陽性者当事者の対処戦  
略に関する自由記載のテキストマイニング  
分析.第32回日本エイズ学会学術集会・総  
会,大阪,H30.12.2-4

9) 細川陸也,井上洋士,戸ヶ里泰典,高久陽介,  
若林チヒロ,阿部桜子,塩野徳史,米倉佑貴,  
片倉直子,山内麻江,大島 岳,大木幸子:HIV  
陽性者の子どもを持つことの現状.第32回  
日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,  
H30.12.2-4

10) 阿部桜子,井上洋士,戸ヶ里泰典,高久陽介,  
若林チヒロ,細川陸也,塩野徳史,片倉直子,  
山内麻江,大島 岳,大木幸子,米倉佑貴,河  
合薫,渡邊淳子,梅沢寛子:HIVに関連したス  
ティグマと感染後年数との関連の検討.第32  
回日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,  
H30.12.2-4

#### G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

表2 コミュニティアンケート 配布地域別 基本属性

Community2017		配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗
		中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121			
年齢階級											
29歳以下	62	18.9%	53	29.6%	46	17.2%	39	32.2%	200	22.3%	<0.01
30-39歳	84	25.6%	61	34.1%	71	26.5%	28	23.1%	244	27.2%	
40-49歳	84	25.6%	43	24.0%	77	28.7%	33	27.3%	237	26.5%	
50歳以上	98	29.9%	22	12.3%	74	27.6%	21	17.4%	215	24.0%	
出生年代層											
1959年以前生まれ	55	16.8%	7	3.9%	34	12.7%	11	9.1%	107	11.9%	<0.01
1960年代生まれ	53	16.2%	18	10.1%	48	17.9%	12	9.9%	131	14.6%	
1970年代生まれ	83	25.3%	42	23.5%	74	27.6%	32	26.4%	231	25.8%	
1980年代生まれ	92	28.0%	64	35.8%	71	26.5%	31	25.6%	258	28.8%	
1990年以降生まれ	45	13.7%	48	26.8%	41	15.3%	35	28.9%	169	18.9%	
居住地域											
青森県							1	0.8%	1	0.1%	
岩手県							2	1.7%	2	0.2%	
宮城県							104	86.0%	104	11.6%	
秋田県							3	2.5%	3	0.3%	
山形県							2	1.7%	2	0.2%	
福島県							9	7.4%	9	1.0%	
埼玉県					2	0.7%			2	0.2%	
千葉県					3	1.1%			3	0.3%	
東京都					37	13.8%			37	4.1%	
神奈川県					226	84.3%			226	25.2%	
鳥取県	4	1.2%	0	0.0%					4	0.4%	
島根県	1	0.3%	0	0.0%					1	0.1%	
岡山県	79	24.1%	3	1.7%					82	9.2%	
広島県	230	70.1%	4	2.2%					234	26.1%	
山口県	10	3.0%	0	0.0%					10	1.1%	
徳島県	0	0.0%	10	5.6%					10	1.1%	
香川県	4	1.2%	58	32.4%					62	6.9%	
愛媛県	0	0.0%	73	40.8%					73	8.1%	
高知県	0	0.0%	31	17.3%					31	3.5%	
居住期間											
5年未満	49	14.9%	30	16.8%	26	9.7%	30	24.8%	135	15.1%	<0.01
5年以上10年未満	34	10.4%	18	10.1%	29	10.8%	19	15.7%	100	11.2%	
10年以上	245	74.7%	131	73.2%	213	79.5%	72	59.5%	661	73.8%	
あなたは現在だれかと一緒に暮らしていますか？											
一人暮らし	174	53.0%	83	46.4%	152	56.7%	69	57.0%	478	53.3%	0.24
家族と同居	118	36.0%	77	43.0%	80	29.9%	38	31.4%	313	34.9%	
家族以外と同居	36	11.0%	19	10.6%	35	13.1%	14	11.6%	104	11.6%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.1%	
あなたの出身国はどこですか？											
日本	328	100.0%	179	100.0%	264	98.5%	118	97.5%	889	99.2%	0.03
海外	0	0.0%	0	0.0%	4	1.5%	2	1.7%	6	0.7%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.1%	
あなたの性別を教えてください											
男性	325	99.1%	177	98.9%	264	98.5%	121	100.0%	887	99.0%	0.59
その他	3	0.9%	2	1.1%	4	1.5%	0	0.0%	9	1.0%	
あなたは次のどれにあてはまりますか？											
ゲイ(男性同性愛者)	259	79.0%	149	83.2%	236	88.1%	97	80.2%	741	82.7%	0.20
バイセクシュアル(両性愛者)	61	18.6%	25	14.0%	30	11.2%	21	17.4%	137	15.3%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	3	0.3%	
トランスジェンダー	0	0.0%	1	0.6%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	
その他	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	2	0.2%	
わからない	5	1.5%	4	2.2%	1	0.4%	1	0.8%	11	1.2%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？											
常勤(正規雇用)	225	68.6%	120	67.0%	175	65.3%	75	62.0%	595	66.4%	<0.01
常勤(非正規雇用)	23	7.0%	12	6.7%	13	4.9%	5	4.1%	53	5.9%	
パートタイム/アルバイト	16	4.9%	15	8.4%	27	10.1%	15	12.4%	73	8.1%	
経営者	32	9.8%	19	10.6%	24	9.0%	10	8.3%	85	9.5%	
学生	8	2.4%	8	4.5%	7	2.6%	12	9.9%	35	3.9%	
その他	24	7.3%	4	2.2%	22	8.2%	4	3.3%	54	6.0%	
無回答	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	

表3 コミュニティアンケート 配布地域別 商業施設利用

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
	中国地域 n=328	四国地域 n=179	横浜 n=268	仙台 n=121							
過去6ヶ月間にあなたが利用したことがあるのはどれですか？											
ゲイバー	317	96.6%	178	99.4%	242	90.3%	119	98.3%	856	95.5%	<0.01
ゲイナイト	62	18.9%	70	39.1%	39	14.6%	12	9.9%	183	20.4%	<0.01
ゲイショップ	73	22.3%	37	20.7%	78	29.1%	36	29.8%	224	25.0%	0.07
ゲイ向けサークル・合コン	35	10.7%	11	6.1%	43	16.0%	18	14.9%	107	11.9%	0.01
ゲイ向けサークル(スポーツ・文化系)	29	8.8%	9	5.0%	35	13.1%	13	10.7%	86	9.6%	0.04
ゲイ向けスポーツサークル	24	7.3%	6	3.4%	22	8.2%	9	7.4%	61	6.8%	0.22
ゲイ向け文化系サークル	9	2.7%	5	2.8%	16	6.0%	5	4.1%	35	3.9%	0.18
ゲイの飲み会	44	13.4%	33	18.4%	49	18.3%	16	13.2%	142	15.8%	0.24
PC出合い系	60	18.3%	29	16.2%	47	17.5%	18	14.9%	154	17.2%	0.83
携帯出合い系	67	20.4%	32	17.9%	54	20.1%	13	10.7%	166	18.5%	0.10
mixiなどのSNS	83	25.3%	66	36.9%	70	26.1%	40	33.1%	259	28.9%	0.02
エロ系SNS	21	6.4%	8	4.5%	20	7.5%	9	7.4%	58	6.5%	0.61
スマートフォンのアプリ	163	49.7%	110	61.5%	117	43.7%	58	47.9%	448	50.0%	<0.01
ゲイ向け合コン	7	2.1%	5	2.8%	11	4.1%	7	5.8%	30	3.3%	0.23
ゲイの乱パ	6	1.8%	2	1.1%	10	3.7%	4	3.3%	22	2.5%	0.25
有料ハッテン場	90	27.4%	48	26.8%	120	44.8%	31	25.6%	289	32.3%	<0.01
野外ハッテン場	20	6.1%	13	7.3%	28	10.4%	5	4.1%	66	7.4%	0.10
ハッテン場で有名な公共施設	64	19.5%	35	19.6%	64	23.9%	16	13.2%	179	20.0%	0.11
LGBTボランティア	1	0.3%	5	2.8%	4	1.5%	2	1.7%	12	1.3%	0.13
いずれもなし	6	1.8%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.8%	8	0.9%	0.13
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイバー											
よく利用した(週1回以上)	110	33.5%	79	44.1%	125	46.6%	51	42.1%	365	40.7%	<0.01
まあまあ利用した	164	50.0%	84	46.9%	95	35.4%	58	47.9%	401	44.8%	
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	40	12.2%	15	8.4%	25	9.3%	8	6.6%	88	9.8%	
全く利用しない	11	3.4%	1	0.6%	23	8.6%	4	3.3%	39	4.4%	
無回答	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイナイト											
よく利用した(週1回以上)	2	0.6%	3	1.7%	2	0.7%	0	0.0%	7	0.8%	<0.01
まあまあ利用した	18	5.5%	19	10.6%	9	3.4%	2	1.7%	48	5.4%	
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	56	17.1%	44	24.6%	32	11.9%	13	10.7%	145	16.2%	
全く利用しない	161	49.1%	71	39.7%	152	56.7%	72	59.5%	456	50.9%	
無回答	91	27.7%	42	23.5%	73	27.2%	34	28.1%	240	26.8%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイショップ											
よく利用した(週1回以上)	3	0.9%	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%	6	0.7%	<0.01
まあまあ利用した	12	3.7%	5	2.8%	15	5.6%	14	11.6%	46	5.1%	
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	67	20.4%	21	11.7%	59	22.0%	20	16.5%	167	18.6%	
全く利用しない	159	48.5%	107	59.8%	118	44.0%	59	48.8%	443	49.4%	
無回答	87	26.5%	46	25.7%	73	27.2%	28	23.1%	234	26.1%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_有料のハッテン場											
よく利用した(週1回以上)	7	2.1%	1	0.6%	14	5.2%	1	0.8%	23	2.6%	<0.01
まあまあ利用した	44	13.4%	13	7.3%	58	21.6%	15	12.4%	130	14.5%	
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	61	18.6%	33	18.4%	44	16.4%	14	11.6%	152	17.0%	
全く利用しない	141	43.0%	91	50.8%	93	34.7%	61	50.4%	386	43.1%	
無回答	75	22.9%	41	22.9%	59	22.0%	30	24.8%	205	22.9%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_野外のハッテン場											
よく利用した(週1回以上)	4	1.2%	1	0.6%	3	1.1%	0	0.0%	8	0.9%	0.05
まあまあ利用した	8	2.4%	2	1.1%	13	4.9%	0	0.0%	23	2.6%	
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	13	4.0%	9	5.0%	23	8.6%	6	5.0%	51	5.7%	
全く利用しない	209	63.7%	122	68.2%	155	57.8%	83	68.6%	569	63.5%	
無回答	94	28.7%	45	25.1%	74	27.6%	32	26.4%	245	27.3%	
過去6ヶ月間に、あなたの住んでいる地域のノンケ(LGBT以外)の団体やグループの活動に参加したことがありますか？											
政治団体	7	2.1%	2	1.1%	4	1.5%	2	1.7%	15	1.7%	0.97
飲み会・交流会	81	24.7%	51	28.5%	51	19.0%	30	24.8%	213	23.8%	0.39
地域のボランティア活動	22	6.7%	4	2.2%	6	2.2%	6	5.0%	38	4.2%	0.12
宗教団体	4	1.2%	1	0.6%	3	1.1%	0	0.0%	8	0.9%	0.88
スポーツのサークル・クラブ活動	24	7.3%	11	6.1%	11	4.1%	19	15.7%	65	7.3%	0.01
町内会・自治会	27	8.2%	6	3.4%	13	4.9%	4	3.3%	50	5.6%	0.23
地域の趣味の会・サークル	13	4.0%	6	3.4%	11	4.1%	7	5.8%	37	4.1%	0.95
いずれもなし	197	60.1%	114	63.7%	189	70.5%	74	61.2%	574	64.4%	0.22

表4 コミュニティアンケート 配布地域別 インターネット利用及びコミュニティセンター認知

Community2017		配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
		中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121				
過去6ヶ月間に、以下のSNSや掲示板を活用して、画像や文字を投稿しましたか？												
	mixi	36	11.0%	6	3.4%	22	8.2%	9	7.4%	73	8.1%	0.15
	Facebook	70	21.3%	27	15.1%	48	17.9%	18	14.9%	163	18.2%	0.59
	twitter	121	36.9%	101	56.4%	105	39.2%	70	57.9%	397	44.3%	<0.01
	tumblr	13	4.0%	4	2.2%	13	4.9%	7	5.8%	37	4.1%	0.76
	9monsters	173	52.7%	130	72.6%	118	44.0%	64	52.9%	485	54.1%	0.00
	Grindr	9	2.7%	2	1.1%	12	4.5%	5	4.1%	28	3.1%	0.53
	Jack'd	59	18.0%	24	13.4%	46	17.2%	15	12.4%	144	16.1%	0.72
	Hornet	3	0.9%	1	0.6%	9	3.4%	1	0.8%	14	1.6%	0.20
	X105	13	4.0%	7	3.9%	4	1.5%	7	5.8%	31	3.5%	0.43
	HuGs	4	1.2%	0	0.0%	7	2.6%	2	1.7%	13	1.5%	0.44
	沖縄ゲイ情報裏掲示板	1	0.3%	0	0.0%	6	2.2%	1	0.8%	8	0.9%	0.18
	KO-MENSTV	17	5.2%	15	8.4%	3	1.1%	9	7.4%	44	4.9%	0.02
	Men's Net Japan	18	5.5%	4	2.2%	26	9.7%	8	6.6%	56	6.3%	0.08
	SHIKOKU GAY WALKER	0	0.0%	9	5.0%	1	0.4%	0	0.0%	10	1.1%	<0.01
	その他	10	3.0%	2	1.1%	15	5.6%	4	3.3%	31	3.5%	0.29
	いずれもなし	82	25.0%	24	13.4%	85	31.7%	29	24.0%	220	24.6%	<0.01
SNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体を画像を投稿したことがありますか？												
	過去6ヶ月間に投稿したことがある	138	42.1%	111	62.0%	120	44.8%	62	51.2%	431	48.1%	<0.01
	過去6ヶ月間にはないが、これまでに投稿したことがある	51	15.5%	21	11.7%	24	9.0%	10	8.3%	106	11.8%	
	全くない	51	15.5%	20	11.2%	33	12.3%	16	13.2%	120	13.4%	
	非該当	87	26.5%	27	15.1%	90	33.6%	32	26.4%	236	26.3%	
	無回答	1	0.3%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.8%	3	0.3%	
SNSや掲示板に、裏アカウント持っていますか？												
	持っている	44	13.4%	39	21.8%	51	19.0%	28	23.1%	162	18.1%	<0.01
	持っていない	145	44.2%	99	55.3%	112	41.8%	54	44.6%	410	45.8%	
	裏アカウントがわからない	50	15.2%	13	7.3%	13	4.9%	5	4.1%	81	9.0%	
	非該当	87	26.5%	27	15.1%	90	33.6%	32	26.4%	236	26.3%	
	無回答	2	0.6%	1	0.6%	2	0.7%	2	1.7%	7	0.8%	
SNSや掲示板でであった相手とセックスしたことがありますか？												
	過去6ヶ月間にセックスしたことがある	94	28.7%	77	43.0%	87	32.5%	37	30.6%	295	32.9%	<0.01
	過去6ヶ月間にはないが、これまでにセックスしたことがある	74	22.6%	40	22.3%	34	12.7%	29	24.0%	177	19.8%	
	全くない	71	21.6%	34	19.0%	55	20.5%	21	17.4%	181	20.2%	
	非該当	87	26.5%	27	15.1%	90	33.6%	32	26.4%	236	26.3%	
	無回答	2	0.6%	1	0.6%	2	0.7%	2	1.7%	7	0.8%	
CBOが配布するコンドームやローションを持ち帰ったことがありますか？												
	持ち帰った	136	41.5%	77	43.0%	101	37.7%	34	28.1%	348	38.8%	0.04
	知っている	38	11.6%	31	17.3%	36	13.4%	14	11.6%	119	13.3%	
	知らない	147	44.8%	67	37.4%	124	46.3%	66	54.5%	404	45.1%	
	無回答	7	2.1%	4	2.2%	7	2.6%	7	5.8%	25	2.8%	
コミュニティセンターZELを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	1	0.3%	1	0.6%	2	0.7%	24	19.8%	28	3.1%	<0.01
	知っているが行ったことはない	5	1.5%	2	1.1%	9	3.4%	46	38.0%	62	6.9%	
	知らない	305	93.0%	170	95.0%	239	89.2%	48	39.7%	762	85.0%	
	無回答	17	5.2%	6	3.4%	18	6.7%	3	2.5%	44	4.9%	
コミュニティセンターaktaを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	14	4.3%	7	3.9%	16	6.0%	5	4.1%	42	4.7%	<0.01
	知っているが行ったことはない	29	8.8%	13	7.3%	67	25.0%	23	19.0%	132	14.7%	
	知らない	270	82.3%	151	84.4%	166	61.9%	80	66.1%	667	74.4%	
	無回答	15	4.6%	8	4.5%	19	7.1%	13	10.7%	55	6.1%	
コミュニティセンターSHIPを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	3	0.9%	1	0.6%	27	10.1%	1	0.8%	32	3.6%	<0.01
	知っているが行ったことはない	13	4.0%	12	6.7%	96	35.8%	11	9.1%	132	14.7%	
	知らない	293	89.3%	158	88.3%	138	51.5%	96	79.3%	685	76.5%	
	無回答	19	5.8%	8	4.5%	7	2.6%	13	10.7%	47	5.2%	
コミュニティセンターriseを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	2	0.6%	1	0.6%	4	1.5%	0	0.0%	7	0.8%	0.02
	知っているが行ったことはない	9	2.7%	3	1.7%	4	1.5%	9	7.4%	25	2.8%	
	知らない	297	90.5%	167	93.3%	240	89.6%	99	81.8%	803	89.6%	
	無回答	20	6.1%	8	4.5%	20	7.5%	13	10.7%	61	6.8%	
コミュニティセンターdistaを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	14	4.3%	11	6.1%	4	1.5%	0	0.0%	29	3.2%	<0.01
	知っているが行ったことはない	32	9.8%	19	10.6%	9	3.4%	8	6.6%	68	7.6%	
	知らない	262	79.9%	141	78.8%	234	87.3%	99	81.8%	736	82.1%	
	無回答	20	6.1%	8	4.5%	21	7.8%	14	11.6%	63	7.0%	
コミュニティセンターmabuiを知っていますか？また行ったことはありますか？												
	行ったことがある	0	0.0%	1	0.6%	3	1.1%	1	0.8%	5	0.6%	0.21
	知っているが行ったことはない	9	2.7%	6	3.4%	12	4.5%	7	5.8%	34	3.8%	
	知らない	300	91.5%	164	91.6%	233	86.9%	100	82.6%	797	89.0%	
	無回答	19	5.8%	8	4.5%	20	7.5%	13	10.7%	60	6.7%	

表5 コミュニティアンケート 配布地域別 予防啓発の活動認知

Community2017		配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
		中国地域 n=328	四国地域 n=179	横浜 n=268	仙台 n=121							
コミュニティペーパーZELを知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	4	1.2%	1	0.6%	5	1.9%	49	40.5%	59	6.6%	<0.01
	知っているが読んだことはない	7	2.1%	1	0.6%	2	0.7%	13	10.7%	23	2.6%	
	知らない	304	92.7%	170	95.0%	245	91.4%	56	46.3%	775	86.5%	
	無回答	13	4.0%	7	3.9%	16	6.0%	3	2.5%	39	4.4%	
フリーペーパーakta monthly paperを知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	10	3.0%	6	3.4%	31	11.6%	10	8.3%	57	6.4%	<0.01
	知っているが読んだことはない	20	6.1%	5	2.8%	28	10.4%	10	8.3%	63	7.0%	
	知らない	282	86.0%	159	88.8%	196	73.1%	90	74.4%	727	81.1%	
	無回答	16	4.9%	9	5.0%	13	4.9%	11	9.1%	49	5.5%	
YOKOHAMA Gay Community Paper Crewを知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	2	0.6%	0	0.0%	32	11.9%	1	0.8%	35	3.9%	<0.01
	知っているが読んだことはない	4	1.2%	2	1.1%	10	3.7%	2	1.7%	18	2.0%	
	知らない	310	94.5%	168	93.9%	212	79.1%	109	90.1%	799	89.2%	
	無回答	12	3.7%	9	5.0%	14	5.2%	9	7.4%	44	4.9%	
コミュニティペーパーh.a.n.a.を知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	2	0.6%	0	0.0%	2	0.7%	3	2.5%	7	0.8%	0.14
	知っているが読んだことはない	6	1.8%	0	0.0%	5	1.9%	2	1.7%	13	1.5%	
	知らない	306	93.3%	169	94.4%	244	91.0%	105	86.8%	824	92.0%	
	無回答	14	4.3%	10	5.6%	17	6.3%	11	9.1%	52	5.8%	
季刊誌 南界堂通信を知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	0	0.0%	5	2.8%	3	1.1%	2	1.7%	10	1.1%	0.13
	知っているが読んだことはない	5	1.5%	2	1.1%	2	0.7%	1	0.8%	10	1.1%	
	知らない	311	94.8%	164	91.6%	250	93.3%	108	89.3%	833	93.0%	
	無回答	12	3.7%	8	4.5%	13	4.9%	10	8.3%	43	4.8%	
いくナビを知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	2	0.6%	1	0.6%	1	0.4%	1	0.8%	5	0.6%	0.30
	知っているが読んだことはない	10	3.0%	0	0.0%	2	0.7%	3	2.5%	15	1.7%	
	知らない	297	90.5%	169	94.4%	250	93.3%	107	88.4%	823	91.9%	
	無回答	19	5.8%	9	5.0%	15	5.6%	10	8.3%	53	5.9%	
ゲイコミュニティペーパーFight!!を知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	78	23.8%	76	42.5%	3	1.1%	1	0.8%	158	17.6%	<0.01
	知っているが読んだことはない	22	6.7%	11	6.1%	2	0.7%	1	0.8%	36	4.0%	
	知らない	219	66.8%	86	48.0%	250	93.3%	109	90.1%	664	74.1%	
	無回答	9	2.7%	6	3.4%	13	4.9%	10	8.3%	38	4.2%	
コミュニティペーパーnankrを知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	3	0.9%	8	4.5%	4	1.5%	2	1.7%	17	1.9%	0.06
	知っているが読んだことはない	10	3.0%	1	0.6%	3	1.1%	1	0.8%	15	1.7%	
	知らない	300	91.5%	159	88.8%	245	91.4%	108	89.3%	812	90.6%	
	無回答	15	4.6%	11	6.1%	16	6.0%	10	8.3%	52	5.8%	
さくら新聞を知っていますか？また読んだことはありますか？												
	読んだことがある	2	0.6%	4	2.2%	1	0.4%	0	0.0%	7	0.8%	0.24
	知っているが読んだことはない	4	1.2%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.8%	6	0.7%	
	知らない	308	93.9%	167	93.3%	252	94.0%	111	91.7%	838	93.5%	
	無回答	14	4.3%	8	4.5%	14	5.2%	9	7.4%	45	5.0%	

表6 コミュニティアンケート 配布地域別 ソーシャル・キャピタル

Community2017		配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
		中国地域 n=328	四国地域 n=179	横浜 n=268	仙台 n=121							
過去6ヶ月間に、住んでいる地域のノッケの友人・知人何人に会いましたか？同じ人には何度会っても1人と数えることとします。												
	0人	49	14.9%	13	7.3%	55	20.5%	13	10.7%	130	14.5%	0.10
	1~2人	50	15.2%	27	15.1%	45	16.8%	16	13.2%	138	15.4%	
	3~5人	53	16.2%	33	18.4%	44	16.4%	25	20.7%	155	17.3%	
	6~9人	23	7.0%	11	6.1%	16	6.0%	7	5.8%	57	6.4%	
	10人以上	149	45.4%	94	52.5%	104	38.8%	58	47.9%	405	45.2%	
	無回答	4	1.2%	1	0.6%	4	1.5%	2	1.7%	11	1.2%	
住んでいる地域のノッケの友人・知人と会う頻度はどれくらいですか？												
	ほぼ毎日	85	25.9%	51	28.5%	34	12.7%	25	20.7%	195	21.8%	<0.01
	週2~3日	30	9.1%	17	9.5%	36	13.4%	15	12.4%	98	10.9%	
	週1回程度	36	11.0%	32	17.9%	33	12.3%	15	12.4%	116	12.9%	
	月1~2回	66	20.1%	28	15.6%	47	17.5%	33	27.3%	174	19.4%	
	年に数回	52	15.9%	26	14.5%	51	19.0%	14	11.6%	143	16.0%	
	ほとんど会っていない	55	16.8%	23	12.8%	62	23.1%	16	13.2%	156	17.4%	
	無回答	4	1.2%	2	1.1%	5	1.9%	3	2.5%	14	1.6%	
自分がゲイであることや男性とセックスすることについて、あなたは住んでいる地域のノッケの友人・知人何人にカミングアウトしましたか？												
	0人	233	71.0%	90	50.3%	171	63.8%	69	57.0%	563	62.8%	0.01
	1人	20	6.1%	19	10.6%	23	8.6%	8	6.6%	70	7.8%	
	2~5人	40	12.2%	37	20.7%	34	12.7%	21	17.4%	132	14.7%	
	6人以上	27	8.2%	28	15.6%	31	11.6%	20	16.5%	106	11.8%	
	無回答	8	2.4%	5	2.8%	9	3.4%	3	2.5%	25	2.8%	
過去6ヶ月間に、ゲイの友人・知人何人に会いましたか？同じ人には何度会っても1人と数えることとします。												
	0人	21	6.4%	2	1.1%	17	6.3%	3	2.5%	43	4.8%	0.08
	1~2人	54	16.5%	18	10.1%	36	13.4%	10	8.3%	118	13.2%	
	3~5人	63	19.2%	33	18.4%	44	16.4%	19	15.7%	159	17.7%	
	6~9人	26	7.9%	17	9.5%	20	7.5%	10	8.3%	73	8.1%	
	10人以上	161	49.1%	108	60.3%	147	54.9%	77	63.6%	493	55.0%	
	無回答	3	0.9%	1	0.6%	4	1.5%	2	1.7%	10	1.1%	
ゲイの友人・知人と会う頻度はどれくらいですか？												
	ほぼ毎日	26	7.9%	27	15.1%	35	13.1%	16	13.2%	104	11.6%	<0.01
	週2~3日	45	13.7%	44	24.6%	53	19.8%	26	21.5%	168	18.8%	
	週1回程度	99	30.2%	60	33.5%	85	31.7%	37	30.6%	281	31.4%	
	月1~2回	95	29.0%	38	21.2%	49	18.3%	32	26.4%	214	23.9%	
	年に数回	26	7.9%	7	3.9%	22	8.2%	5	4.1%	60	6.7%	
	ほとんど会っていない	34	10.4%	2	1.1%	20	7.5%	3	2.5%	59	6.6%	
	無回答	3	0.9%	1	0.6%	4	1.5%	2	1.7%	10	1.1%	

表7 コミュニティアンケート 配布地域別 HIV抗体検査行動

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
	中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121				
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか?_病院											
利用しやすい	64	19.5%	30	16.8%	55	20.5%	20	16.5%	169	18.9%	0.74
利用しにくい	154	47.0%	92	51.4%	130	48.5%	66	54.5%	442	49.3%	
わからない	102	31.1%	54	30.2%	78	29.1%	30	24.8%	264	29.5%	
無回答	8	2.4%	3	1.7%	5	1.9%	5	4.1%	21	2.3%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか?_診療所・クリニック・医院											
利用しやすい	66	20.1%	22	12.3%	61	22.8%	18	14.9%	167	18.6%	0.12
利用しにくい	145	44.2%	90	50.3%	114	42.5%	65	53.7%	414	46.2%	
わからない	107	32.6%	64	35.8%	85	31.7%	33	27.3%	289	32.3%	
無回答	10	3.0%	3	1.7%	8	3.0%	5	4.1%	26	2.9%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか?_保健所・保健センター											
利用しやすい	142	43.3%	78	43.6%	102	38.1%	58	47.9%	380	42.4%	0.66
利用しにくい	93	28.4%	43	24.0%	77	28.7%	30	24.8%	243	27.1%	
わからない	83	25.3%	55	30.7%	82	30.6%	30	24.8%	250	27.9%	
無回答	10	3.0%	3	1.7%	7	2.6%	3	2.5%	23	2.6%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか?_自宅/郵送検査											
利用しやすい	147	44.8%	84	46.9%	121	45.1%	55	45.5%	407	45.4%	0.84
利用しにくい	52	15.9%	25	14.0%	37	13.8%	23	19.0%	137	15.3%	
わからない	118	36.0%	67	37.4%	103	38.4%	38	31.4%	326	36.4%	
無回答	11	3.4%	3	1.7%	7	2.6%	5	4.1%	26	2.9%	
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?											
ある	176	53.7%	102	57.0%	150	56.0%	73	60.3%	501	55.9%	0.80
ない	147	44.8%	74	41.3%	115	42.9%	45	37.2%	381	42.5%	
無回答	5	1.5%	3	1.7%	3	1.1%	3	2.5%	14	1.6%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?											
ある	84	25.6%	45	25.1%	75	28.0%	50	41.3%	254	28.3%	0.02
ない	240	73.2%	134	74.9%	191	71.3%	71	58.7%	636	71.0%	
無回答	4	1.2%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	6	0.7%	
過去1年間に受検したHIV抗体検査(エイズ検査)は、これまでで初めての受検でしたか?											
はい(初めての受検だった)	17	5.2%	8	4.5%	14	5.2%	18	14.9%	57	6.4%	0.02
いいえ(これまでも何度か受検したことがある)	65	19.8%	36	20.1%	60	22.4%	31	25.6%	192	21.4%	
過去1年なし	88	26.8%	57	31.8%	73	27.2%	23	19.0%	241	26.9%	
生涯なし	152	46.3%	77	43.0%	118	44.0%	48	39.7%	395	44.1%	
無回答	6	1.8%	1	0.6%	3	1.1%	1	0.8%	11	1.2%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか?1)											
病院	20	23.8%	5	11.1%	21	28.0%	9	18.0%	55	21.7%	0.36
診療所・クリニック・医院	7	8.3%	5	11.1%	18	24.0%	5	10.0%	35	13.8%	
保健所・保健センター	48	57.1%	35	77.8%	33	44.0%	32	64.0%	148	58.3%	0.01
南新宿検査・相談室	0	0.0%	0	0.0%	2	2.7%	1	2.0%	3	1.2%	
chat CAST なんば	0	0.0%	3	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%	0.02
自宅/郵送検査(HIV検査キット)	1	1.2%	2	4.4%	2	2.7%	3	6.0%	8	3.1%	
クリニック検査キャンペーン(大阪・岡山)	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	0.50
NLGR+検査会(名古屋)	2	2.4%	1	2.2%	1	1.3%	0	0.0%	4	1.6%	
M検(名古屋・岐阜)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
distaでピタッとちえっくん(大阪)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
とうかさん・レッドリボンdeエイズ検査(広島)	7	8.3%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.1%	0.05
SHIP HIV性感染症検査(横浜)	0	0.0%	0	0.0%	2	2.7%	1	2.0%	3	1.2%	
その他	1	1.2%	0	0.0%	1	1.3%	3	6.0%	5	2.0%	0.32
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった理由は?2)											
結果を知るのが怖いから	27	17.8%	8	10.4%	16	13.6%	3	6.3%	54	13.7%	0.03
HIVに感染している可能性がないから	83	54.6%	26	33.8%	70	59.3%	20	41.7%	199	50.4%	
あいまいなままにしておきたいから	12	7.9%	4	5.2%	6	5.1%	1	2.1%	23	5.8%	0.08
どこで検査を受けたら良いか分からないから	19	12.5%	13	16.9%	19	16.1%	8	16.7%	59	14.9%	
機会(時間や場所など)がなかったから	34	22.4%	30	39.0%	30	25.4%	7	14.6%	101	25.6%	<0.01
お金がかかるから	19	12.5%	3	3.9%	8	6.8%	3	6.3%	33	8.4%	
HIVに感染しているのではないかと疑われるから	4	2.6%	0	0.0%	4	3.4%	1	2.1%	9	2.3%	0.10
ゲイ・バイであると説明するのが面倒だから	31	20.4%	6	7.8%	16	13.6%	5	10.4%	58	14.7%	
検査場所を知り合いに会う可能性があるから	10	6.6%	6	7.8%	14	11.9%	4	8.3%	34	8.6%	0.12
その他	6	3.9%	2	2.6%	6	5.1%	3	6.3%	17	4.3%	

1) 過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた254人を対象に分析した。  
 2) これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった395人を対象に分析した。

表8 コミュニティアンケート 配布地域別 対話経験及び性感染症既往

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
	中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121				
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？											
いる	64	19.5%	44	24.6%	90	33.6%	22	18.2%	220	24.6%	<0.01
いると思う	87	26.5%	42	23.5%	60	22.4%	41	33.9%	230	25.7%	
いないと思う	58	17.7%	26	14.5%	43	16.0%	12	9.9%	139	15.5%	
いない	24	7.3%	6	3.4%	14	5.2%	7	5.8%	51	5.7%	
わからない	91	27.7%	58	32.4%	57	21.3%	35	28.9%	241	26.9%	
無回答	4	1.2%	3	1.7%	4	1.5%	4	3.3%	15	1.7%	
過去6ヶ月間に彼氏や恋人などとHIVやエイズについて話したことがありますか？											
ある	68	20.7%	40	22.3%	56	20.9%	29	24.0%	193	21.5%	0.58
ない	190	57.9%	90	50.3%	154	57.5%	59	48.8%	493	55.0%	
彼氏や恋人はいなかった	66	20.1%	46	25.7%	54	20.1%	29	24.0%	195	21.8%	
無回答	4	1.2%	3	1.7%	4	1.5%	4	3.3%	15	1.7%	
過去6ヶ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？											
ある	112	34.1%	69	38.5%	88	32.8%	46	38.0%	315	35.2%	0.83
ない	198	60.4%	100	55.9%	162	60.4%	67	55.4%	527	58.8%	
友達はいなかった	12	3.7%	6	3.4%	14	5.2%	4	3.3%	36	4.0%	
無回答	6	1.8%	4	2.2%	4	1.5%	4	3.3%	18	2.0%	
過去6ヶ月間にゲイバーでお店の人やお客さんとHIVやエイズについて話したことがありますか？											
ある	111	33.8%	70	39.1%	88	32.8%	43	35.5%	312	34.8%	0.59
ない	213	64.9%	106	59.2%	176	65.7%	74	61.2%	569	63.5%	
無回答	4	1.2%	3	1.7%	4	1.5%	4	3.3%	15	1.7%	
過去6ヶ月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？											
ある	13	4.0%	8	4.5%	9	3.4%	5	4.1%	35	3.9%	0.74
ない	288	87.8%	161	89.9%	236	88.1%	103	85.1%	788	87.9%	
家族はいない	23	7.0%	7	3.9%	20	7.5%	9	7.4%	59	6.6%	
無回答	4	1.2%	3	1.7%	3	1.1%	4	3.3%	14	1.6%	
あなたはこれまでに性感染症にかかったことがありますか？											
ある	103	31.4%	50	27.9%	111	41.4%	39	32.2%	303	33.8%	0.01
ない	221	67.4%	128	71.5%	155	57.8%	78	64.5%	582	65.0%	
無回答	4	1.2%	1	0.6%	2	0.7%	4	3.3%	11	1.2%	
これまでにかかったことのある性感染症はどれですか？											
梅毒	23	7.0%	7	3.9%	26	9.7%	6	5.0%	62	6.9%	0.04
A型肝炎	1	0.3%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	3	0.3%	0.05
B型肝炎	17	5.2%	4	2.2%	13	4.9%	7	5.8%	41	4.6%	0.04
C型肝炎	3	0.9%	0	0.0%	2	0.7%	1	0.8%	6	0.7%	0.06
クラミジア	10	3.0%	7	3.9%	19	7.1%	4	3.3%	40	4.5%	0.03
尖圭コンジローマ	12	3.7%	3	1.7%	4	1.5%	2	1.7%	21	2.3%	0.01
淋病	15	4.6%	2	1.1%	15	5.6%	6	5.0%	38	4.2%	0.03
HIV感染症	9	2.7%	4	2.2%	9	3.4%	5	4.1%	27	3.0%	0.07
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	1	0.8%	3	0.3%	0.03
毛じらみ	52	15.9%	32	17.9%	72	26.9%	27	22.3%	183	20.4%	0.01
性器ヘルペス	2	0.6%	4	2.2%	7	2.6%	0	0.0%	13	1.5%	0.01
その他	5	1.5%	5	2.8%	1	0.4%	2	1.7%	13	1.5%	0.01
過去1年間にかかったことのある性感染症はありますか？											
梅毒	1	0.3%	1	0.6%	3	1.1%	1	0.8%	6	0.7%	0.07
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	0.03
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.1%	0.06
クラミジア	1	0.3%	1	0.6%	2	0.7%	1	0.8%	5	0.6%	0.08
尖圭コンジローマ	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	0.02
淋病	3	0.9%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.8%	5	0.6%	0.05
HIV感染症	1	0.3%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	3	0.3%	0.06
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	5	1.5%	1	0.6%	6	2.2%	3	2.5%	15	1.7%	0.06
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	3	0.9%	4	2.2%	1	0.4%	0	0.0%	8	0.9%	0.01
過去1年間にはなし	84	25.6%	41	22.9%	98	36.6%	31	25.6%	254	28.3%	-



表9 コミュニティアンケート 配布地域別 性感染症及び予防行動に関する知識、態度

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗		
	中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121					
抗HIV薬の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか？												
	知っている	129	39.3%	81	45.3%	99	36.9%	55	45.5%	364	40.6%	0.09
	知らない	195	59.5%	97	54.2%	162	60.4%	61	50.4%	515	57.5%	
	無回答	4	1.2%	1	0.6%	7	2.6%	5	4.1%	17	1.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP)」に関する上記のような情報について、知っていましたか？												
	とてもよく知っている	16	4.9%	11	6.1%	14	5.2%	9	7.4%	50	5.6%	0.45
	具体的には知らないが、聞いたことはある	89	27.1%	55	30.7%	70	26.1%	31	25.6%	245	27.3%	
	まったく知らなかった	219	66.8%	112	62.6%	179	66.8%	76	62.8%	586	65.4%	
	無回答	4	1.2%	1	0.6%	5	1.9%	5	4.1%	15	1.7%	
友達や知り合い、セックスの相手で、HIV陰性者の中に「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしている人はいると思いますか？												
	いる	15	4.6%	4	2.2%	14	5.2%	2	1.7%	35	3.9%	0.32
	いると思う	47	14.3%	26	14.5%	37	13.8%	22	18.2%	132	14.7%	
	いないと思う	81	24.7%	52	29.1%	58	21.6%	30	24.8%	221	24.7%	
	いない	20	6.1%	5	2.8%	16	6.0%	4	3.3%	45	5.0%	
	わからない	159	48.5%	91	50.8%	138	51.5%	58	47.9%	446	49.8%	
	無回答	6	1.8%	1	0.6%	5	1.9%	5	4.1%	17	1.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」を服薬したいと思いますか？												
	服薬したい	83	25.3%	56	31.3%	59	22.0%	27	22.3%	225	25.1%	0.45
	どちらかといえば、服薬したい	110	33.5%	69	38.5%	92	34.3%	44	36.4%	315	35.2%	
	どちらかといえば、服薬したくない	63	19.2%	30	16.8%	52	19.4%	25	20.7%	170	19.0%	
	服薬したくない	54	16.5%	18	10.1%	52	19.4%	17	14.0%	141	15.7%	
	治療で抗HIV薬の服薬治療を続けている	6	1.8%	2	1.1%	6	2.2%	2	1.7%	16	1.8%	
	無回答	12	3.7%	4	2.2%	7	2.6%	6	5.0%	29	3.2%	
過去6ヶ月間に、コンドームを買ったことがありますか？												
	ある	105	32.0%	51	28.5%	82	30.6%	49	40.5%	287	32.0%	0.09
	ない	220	67.1%	127	70.9%	181	67.5%	68	56.2%	596	66.5%	
	無回答	3	0.9%	1	0.6%	5	1.9%	4	3.3%	13	1.5%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるようにも身近に持っていましたか？												
	いつも持っていた	79	24.1%	46	25.7%	73	27.2%	33	27.3%	231	25.8%	0.29
	時々持っていた	97	29.6%	62	34.6%	70	26.1%	41	33.9%	270	30.1%	
	持っていなかった	148	45.1%	70	39.1%	119	44.4%	43	35.5%	380	42.4%	
	無回答	4	1.2%	1	0.6%	6	2.2%	4	3.3%	15	1.7%	
あなたはこれまでに男性とセックスをしたことがありますか？												
	ある	318	97.0%	174	97.2%	259	96.6%	115	95.0%	866	96.7%	0.79
	ない	10	3.0%	4	2.2%	8	3.0%	5	4.1%	27	3.0%	
	無回答	0	0.0%	1	0.6%	1	0.4%	1	0.8%	3	0.3%	
過去6ヶ月間に口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？												
	どちらもある	79	24.1%	51	28.5%	83	31.0%	43	35.5%	256	28.6%	0.10
	口内射精したことがある	76	23.2%	32	17.9%	57	21.3%	22	18.2%	187	20.9%	
	どちらもない	160	48.8%	83	46.4%	115	42.9%	48	39.7%	406	45.3%	
	無回答	3	0.9%	8	4.5%	4	1.5%	2	1.7%	17	1.9%	
	これまで男性セックスなし	10	3.0%	5	2.8%	9	3.4%	6	5.0%	30	3.3%	
過去6ヶ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？ <sup>1)</sup>												
	ある	8	2.5%	12	6.9%	11	4.2%	11	9.6%	42	4.8%	0.02
	ない	308	96.9%	158	90.8%	246	95.0%	103	89.6%	815	94.1%	
	無回答	2	0.6%	4	2.3%	2	0.8%	1	0.9%	9	1.0%	
過去6ヶ月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？ <sup>1)</sup>												
	ある	21	6.6%	8	4.6%	9	3.5%	7	6.1%	45	5.2%	0.24
	ない	296	93.1%	162	93.1%	248	95.8%	107	93.0%	813	93.9%	
	無回答	1	0.3%	4	2.3%	2	0.8%	1	0.9%	8	0.9%	

1) これまでに男性とセックスをした866人を対象に分析した。

表10 コミュニティアンケート 配布地域別 性行動

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗	
	中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121				
あなたはこれまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？											
ある	270	82.3%	160	89.4%	225	84.0%	106	87.6%	761	84.9%	0.27
ない	47	14.3%	13	7.3%	34	12.7%	9	7.4%	103	11.5%	
無回答	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	
これまで男性セックスなし	10	3.0%	5	2.8%	9	3.4%	6	5.0%	30	3.3%	
あなたはこれまでにコンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか？ <sup>1)</sup>											
ある	207	76.7%	125	78.1%	179	79.6%	82	77.4%	593	77.9%	0.96
ない	58	21.5%	32	20.0%	40	17.8%	22	20.8%	152	20.0%	
無回答	5	1.9%	3	1.9%	6	2.7%	2	1.9%	16	2.1%	
あなたが一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？ <sup>1)</sup>											
現在から過去6ヶ月の間	180	66.7%	102	63.8%	150	66.7%	86	81.1%	518	68.1%	<0.01
過去6ヶ月から過去1年の間	9	3.3%	9	5.6%	5	2.2%	7	6.6%	30	3.9%	
1年以上前	66	24.4%	35	21.9%	48	21.3%	11	10.4%	160	21.0%	
覚えていない	15	5.6%	14	8.8%	19	8.4%	2	1.9%	50	6.6%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	1.3%	0	0.0%	3	0.4%	
一番最近にアナルセックスをした(タチ・ウケどちらでも)相手はどれにあてはまりますか？ <sup>1)</sup>											
彼氏や恋人	100	37.0%	53	33.1%	79	35.1%	36	34.0%	268	35.2%	0.14
友達やセフレ	66	24.4%	46	28.8%	62	27.6%	40	37.7%	214	28.1%	
その場限りの相手	96	35.6%	55	34.4%	70	31.1%	24	22.6%	245	32.2%	
その他	4	1.5%	2	1.3%	6	2.7%	5	4.7%	17	2.2%	
無回答	4	1.5%	4	2.5%	8	3.6%	1	0.9%	17	2.2%	
一番最近にアナルセックスをしたときに、コンドームを使いましたか？ <sup>1)</sup>											
使った	137	50.7%	94	58.8%	109	48.4%	54	50.9%	394	51.8%	0.36
使わなかった	104	38.5%	49	30.6%	96	42.7%	45	42.5%	294	38.6%	
覚えていない	25	9.3%	13	8.1%	14	6.2%	6	5.7%	58	7.6%	
無回答	4	1.5%	4	2.5%	6	2.7%	1	0.9%	15	2.0%	
そのときの相手と、どこで知り合いましたか？ <sup>1)</sup>											
ゲイバー	91	33.7%	45	28.1%	65	28.9%	37	34.9%	238	31.3%	<0.01
ゲイナイト(クラブ)	5	1.9%	4	2.5%	2	0.9%	0	0.0%	11	1.4%	
出会い系サイト	39	14.4%	22	13.8%	25	11.1%	13	12.3%	99	13.0%	
ios系SNS	7	2.6%	3	1.9%	4	1.8%	3	2.8%	17	2.2%	
mixi	0	0.0%	1	0.6%	2	0.9%	0	0.0%	3	0.4%	
Facebook	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.1%	
twitter	9	3.3%	9	5.6%	4	1.8%	5	4.7%	27	3.5%	
tumblr	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
スマホのゲイ向けアプリ	48	17.8%	46	28.8%	33	14.7%	19	17.9%	146	19.2%	
ゲイサークル	4	1.5%	0	0.0%	5	2.2%	1	0.9%	10	1.3%	
ゲイの合コン	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.1%	
ゲイの乱パ	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	2	0.3%	
有料ハッテン場	36	13.3%	10	6.3%	40	17.8%	4	3.8%	90	11.8%	
野外ハッテン場	4	1.5%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	6	0.8%	
ハッテン場で有名な施設	2	0.7%	3	1.9%	9	4.0%	1	0.9%	15	2.0%	
ゲイ雑誌の文通欄	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.1%	
学校、習い事	2	0.7%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	4	0.5%	
職場、バイト先	2	0.7%	1	0.6%	0	0.0%	4	3.8%	7	0.9%	
その他	11	4.1%	6	3.8%	19	8.4%	9	8.5%	45	5.9%	
覚えていない	5	1.9%	4	2.5%	1	0.4%	7	6.6%	17	2.2%	
無回答	5	1.9%	6	3.8%	8	3.6%	2	1.9%	21	2.8%	

1) これまでに男性とアナルセックスをした761人を対象に分析した。

表11 コミュニティアンケート 配布地域別 過去6ヶ月間の性行動および予防行動

Community2017	配布地域								合計 n=896	Pearson のカイ2乗		
	中国地域 n=328		四国地域 n=179		横浜 n=268		仙台 n=121					
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしたことがありますか?												
ある	180	54.9%	101	56.4%	150	56.0%	84	69.4%	515	57.5%	0.07	
ない	90	27.4%	59	33.0%	74	27.6%	22	18.2%	245	27.3%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.1%		
これまで男性アナルなし	48	14.6%	14	7.8%	34	12.7%	9	7.4%	105	11.7%		
これまで男性セックスなし	10	3.0%	5	2.8%	9	3.4%	6	5.0%	30	3.3%		
過去6ヶ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか? <sup>1)</sup>												
1人	71	39.4%	35	34.7%	41	27.3%	30	35.7%	177	34.4%	0.75	
2人	20	11.1%	11	10.9%	27	18.0%	10	11.9%	68	13.2%		
3人	24	13.3%	15	14.9%	24	16.0%	12	14.3%	75	14.6%		
4人	6	3.3%	6	5.9%	7	4.7%	4	4.8%	23	4.5%		
5人	6	3.3%	4	4.0%	4	2.7%	2	2.4%	16	3.1%		
6人以上	33	18.3%	14	13.9%	32	21.3%	18	21.4%	97	18.8%		
無回答	20	11.1%	16	15.8%	15	10.0%	8	9.5%	59	11.5%		
過去6ヶ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか? <sup>1)</sup>												
月に1回程度以下	102	56.7%	50	49.5%	75	50.0%	45	53.6%	272	52.8%	0.10	
月に2~3回	40	22.2%	30	29.7%	34	22.7%	20	23.8%	124	24.1%		
週1回程度	16	8.9%	2	2.0%	18	12.0%	4	4.8%	40	7.8%		
週2~4回	3	1.7%	1	1.0%	5	3.3%	4	4.8%	13	2.5%		
週5以上	2	1.1%	0	0.0%	1	0.7%	2	2.4%	5	1.0%		
無回答	17	9.4%	18	17.8%	17	11.3%	9	10.7%	61	11.8%		
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>1)</sup>												
非常用	117	65.0%	63	62.4%	98	65.3%	57	67.9%	335	65.0%	0.65	
常用	60	33.3%	38	37.6%	49	32.7%	27	32.1%	174	33.8%		
無回答	3	1.7%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%	6	1.2%		
特定相手とのコンドーム使用状況 <sup>1)</sup>												
非常用	71	39.4%	39	38.6%	53	35.3%	40	47.6%	203	39.4%	0.32	
常用	37	20.6%	21	20.8%	25	16.7%	9	10.7%	92	17.9%		
過去6ヶ月間にこの相手とはなし	69	38.3%	41	40.6%	69	46.0%	35	41.7%	214	41.6%		
無回答	3	1.7%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%	6	1.2%		
友達・セフレとのコンドーム使用状況 <sup>1)</sup>												
非常用	72	40.0%	43	42.6%	71	47.3%	36	42.9%	222	43.1%	0.61	
常用	47	26.1%	29	28.7%	45	30.0%	23	27.4%	144	28.0%		
過去6ヶ月間にこの相手とはなし	60	33.3%	29	28.7%	34	22.7%	24	28.6%	147	28.5%		
無回答	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	2	0.4%		
不特定相手とのコンドーム使用状況 <sup>1)</sup>												
非常用	56	31.1%	28	27.7%	57	38.0%	32	38.1%	173	33.6%	0.66	
常用	46	25.6%	24	23.8%	40	26.7%	19	22.6%	129	25.0%		
過去6ヶ月間にこの相手とはなし	76	42.2%	48	47.5%	52	34.7%	33	39.3%	209	40.6%		
無回答	2	1.1%	1	1.0%	1	0.7%	0	0.0%	4	0.8%		
過去6ヶ月間に、セックスの時に使用したものはありますか? <sup>1)</sup>												
水溶性ローション	149	82.8%	85	84.2%	120	80.0%	67	79.8%	421	81.7%	0.64	
ぼっ起薬	28	15.6%	11	10.9%	22	14.7%	14	16.7%	75	14.6%		
ラッシュ	8	4.4%	0	0.0%	13	8.7%	1	1.2%	22	4.3%		
ゴメオ	2	1.1%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	3	0.6%		
スピードなど	1	0.6%	0	0.0%	2	1.3%	0	0.0%	3	0.6%		
その他の合ドラ	2	1.1%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%	5	1.0%		
静脈注射のドラッグ	1	0.6%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%		
違法ドラッグ	1	0.6%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	2	0.4%		
HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%		
HIVに感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP)	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%		
いずれも使用していない	24	13.3%	12	11.9%	22	14.7%	11	13.1%	69	13.4%		
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験(再掲) <sup>1)</sup>												
いずれもなし(無回答含む)	144	80.0%	87	86.1%	117	78.0%	66	78.6%	414	80.4%		0.04
バイアグラのみ使用	22	12.2%	10	9.9%	13	8.7%	13	15.5%	58	11.3%		
併用	12	6.7%	1	1.0%	14	9.3%	1	1.2%	28	5.4%		
無回答	2	1.1%	3	3.0%	6	4.0%	4	4.8%	15	2.9%		

1) 過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをした515人を対象に分析した。

表 1 2 GCQ アンケート 配布地域別 基本属性

	配布地域						合計 n=242	Pearson カイ 2 乗
	沖縄		大阪					
	n=100		n=142					
<b>年齢階級</b>								
29歳以下	46	46.0%	52	36.6%	98	40.5%	0.13	
30~39歳	31	31.0%	62	43.7%	93	38.4%		
40歳以上	23	23.0%	28	19.7%	51	21.1%		
<b>居住地</b>								
滋賀県	-	-	4	2.8%	-	-	-	
京都府	-	-	12	8.5%	-	-		
大阪府	-	-	94	66.2%	-	-		
兵庫県	-	-	24	16.9%	-	-		
奈良県	-	-	5	3.5%	-	-		
和歌山県	-	-	3	2.1%	-	-		
沖縄県	100	100.0%	-	-	-	-		
<b>あなたは、現在お住まいの地域にどれくらいの期間住んでいますか？</b>								
生まれてからずっと	49	49.0%	44	31.0%	93	38.4%	0.01	
1年未満	7	7.0%	11	7.7%	18	7.4%		
1~5年未満	11	11.0%	37	26.1%	48	19.8%		
5~10年未満	7	7.0%	21	14.8%	28	11.6%		
10~20年未満	13	13.0%	17	12.0%	30	12.4%		
20年以上	13	13.0%	12	8.5%	25	10.3%		
<b>あなたは現在だれかと一緒に暮らしていますか？</b>								
一人暮らし	40	40.0%	80	56.3%	120	49.6%	0.04	
家族と同居	40	40.0%	42	29.6%	82	33.9%		
家族以外と同居	20	20.0%	20	14.1%	40	16.5%		
<b>あなたは以下のどれにあてはまりますか？</b>								
ゲイ(同性愛者)	80	80.0%	112	78.9%	192	79.3%	0.69	
バイセクシュアル(両性愛者)	17	17.0%	20	14.1%	37	15.3%		
トランスジェンダー	1	1.0%	3	2.1%	4	1.7%		
わからない	1	1.0%	1	0.7%	2	0.8%		
決めたくはない	1	1.0%	5	3.5%	6	2.5%		
その他	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%		
<b>あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？</b>								
常勤(正規雇用)	67	67.0%	89	62.7%	156	64.5%	0.96	
常勤(非正規雇用)	14	14.0%	19	13.4%	33	13.6%		
パートタイマー	2	2.0%	2	1.4%	4	1.7%		
アルバイト	7	7.0%	12	8.5%	19	7.9%		
経営者	2	2.0%	5	3.5%	7	2.9%		
学生	4	4.0%	6	4.2%	10	4.1%		
その他	4	4.0%	9	6.3%	13	5.4%		

表13 GCQ アンケート 配布地域別 商業施設利用および啓発活動認知

	配布地域						Pearson カイ2乗
	沖縄		大阪		合計		
	n=100		n=142		n=242		
過去6ヶ月間にあなたが利用したことがあるのはどれですか？							
ゲイバー	76	76.0%	102	71.8%	178	73.6%	0.47
ゲイナイト	28	28.0%	57	40.1%	85	35.1%	0.05
ゲイショップ	4	4.0%	29	20.4%	33	13.6%	<0.01
ゲイ向けスポーツサークル	12	12.0%	9	6.3%	21	8.7%	0.12
ゲイ向け文化系サークル	1	1.0%	4	2.8%	5	2.1%	0.33
ゲイの飲み会	11	11.0%	24	16.9%	35	14.5%	0.20
PC出会い系	7	7.0%	13	9.2%	20	8.3%	0.55
携帯出会い系	29	29.0%	42	29.6%	71	29.3%	0.92
mixi,twitterなどのSNS	28	28.0%	60	42.3%	88	36.4%	0.02
tumblr	17	17.0%	30	21.1%	47	19.4%	0.42
エロ系SNS	4	4.0%	9	6.3%	13	5.4%	0.43
スマートフォンのアプリ	28	28.0%	84	59.2%	112	46.3%	<0.01
ゲイ向け合コン	0	0.0%	3	2.1%	3	1.2%	0.14
ゲイの乱パ	1	1.0%	4	2.8%	5	2.1%	0.33
有料ハッテン場	19	19.0%	58	40.8%	77	31.8%	<0.01
野外ハッテン場	13	13.0%	11	7.7%	24	9.9%	0.18
ハッテン場で有名な公共施設	12	12.0%	23	16.2%	35	14.5%	0.36
LGBTボランティア	1	1.0%	5	3.5%	6	2.5%	0.21
いずれもなし	5	5.0%	6	4.2%	11	4.5%	0.78
過去6ヶ月間に、SNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体の画像を投稿したことがありますか？							
過去6ヶ月間に投稿したことがある	59	59.0%	101	71.1%	160	66.1%	0.01
過去6ヶ月間にはないが、これまでに投稿した	12	12.0%	22	15.5%	34	14.0%	
全くない	29	29.0%	19	13.4%	48	19.8%	
あなたは、SNSや掲示板に、裏アカウントを持っていますか？							
持っている	35	35.0%	45	31.7%	80	33.1%	0.76
持っていない	61	61.0%	89	62.7%	150	62.0%	
裏アカウントがわからない	4	4.0%	8	5.6%	12	5.0%	
コミュニティセンターZELを知っていますか？							
ZEL	5	5.0%	4	2.8%	9	3.7%	0.38
akta	9	9.0%	16	11.3%	25	10.3%	0.57
rise	2	2.0%	6	4.2%	8	3.3%	0.34
dista	4	4.0%	80	56.3%	84	34.7%	<0.01
mabui	58	58.0%	9	6.3%	67	27.7%	<0.01
いずれも知らない	37	37.0%	61	43.0%	98	40.5%	0.35
コミュニティペーパーZELを知っていますか？							
コミュニティペーパーZEL	5	5.0%	3	2.1%	8	3.3%	0.22
フリーペーパーakta monthly paper	4	4.0%	9	6.3%	13	5.4%	0.43
YOKOHAMA Gay Community Paper Crew	2	2.0%	2	1.4%	4	1.7%	0.72
コミュニティペーパーh.a.n.a.	2	2.0%	4	2.8%	6	2.5%	0.69
季刊誌 南界堂通信	2	2.0%	16	11.3%	18	7.4%	0.01
いくナビ	2	2.0%	25	17.6%	27	11.2%	<0.01
ゲイコミュニティペーパーFight!!	3	3.0%	5	3.5%	8	3.3%	0.82
コミュニティペーパーseason	2	2.0%	4	2.8%	6	2.5%	0.69
コミュニティペーパーnankr	32	32.0%	6	4.2%	38	15.7%	<0.01
さくら新聞	4	4.0%	2	1.4%	6	2.5%	0.20
いずれも知らない	62	62.0%	103	72.5%	165	68.2%	0.08

表 1 4 GCQ アンケート 配布地域別 対話経験、性感染症既往性感染症及び予防行動に関する知識

	配布地域				合計 n=242	Pearson カイ 2 乗	
	沖縄 n=100		大阪 n=142				
あなたはコンドームやローションを配布している「やる!プロジェクト」を知っていますか?							
知っている	59	59.0%	98	69.0%	157	64.9%	0.11
知らない	41	41.0%	44	31.0%	85	35.1%	
これまでに「やる!プロジェクト」で配布されている資料を持ち帰ったことがありますか?							
過去6ヶ月間に持ち帰ったことがある	26	26.0%	33	23.2%	59	24.4%	0.80
過去6ヶ月間から1年以内に持ち帰ったことがある	7	7.0%	13	9.2%	20	8.3%	
過去1年より前に持ち帰ったことがある	13	13.0%	23	16.2%	36	14.9%	
持ち帰ったことはない	54	54.0%	73	51.4%	127	52.5%	
過去6ヶ月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか?							
ある	9	9.0%	15	10.6%	24	9.9%	0.92
ない	80	80.0%	111	78.2%	191	78.9%	
家族はいない	11	11.0%	16	11.3%	27	11.2%	
過去6ヶ月間に、彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか?							
ある	24	24.0%	36	25.4%	60	24.8%	0.26
ない	54	54.0%	63	44.4%	117	48.3%	
恋人はいなかった	22	22.0%	43	30.3%	65	26.9%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか?							
ある	35	35.0%	75	52.8%	110	45.5%	0.02
ない	59	59.0%	62	43.7%	121	50.0%	
友達はいなかった	6	6.0%	5	3.5%	11	4.5%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐ使えるようにいつも身近に持っていましたか?							
いつも持っていた	36	36.0%	44	31.0%	80	33.1%	0.50
時々持っていた	25	25.0%	45	31.7%	70	28.9%	
持っていなかった	39	39.0%	53	37.3%	92	38.0%	
これまでにかかったことのある性感染症はどれですか?							
梅毒	11	11.0%	22	15.5%	33	13.6%	0.32
A型肝炎	3	3.0%	0	0.0%	3	1.2%	0.04
B型肝炎	5	5.0%	14	9.9%	19	7.9%	0.17
C型肝炎	0	0.0%	3	2.1%	3	1.2%	0.14
クラミジア	11	11.0%	14	9.9%	25	10.3%	0.77
尖圭コンジローマ	3	3.0%	9	6.3%	12	5.0%	0.24
淋病	3	3.0%	11	7.7%	14	5.8%	0.12
HIV感染症	1	1.0%	13	9.2%	14	5.8%	0.01
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0.40
毛じらみ	24	24.0%	32	22.5%	56	23.1%	0.79
性器ヘルペス	1	1.0%	5	3.5%	6	2.5%	0.21
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	57	57.0%	76	53.5%	133	55.0%	0.59
HIV感染初期には、風邪の症状とよく似ていますが「発熱が2週間以上続く」「のどの痛みと咳が頻繁に出る」など違う部分もあります。このことを知っていますか?							
知っている	63	63.0%	93	65.5%	156	64.5%	0.69
知らない	37	37.0%	49	34.5%	86	35.5%	
抗HIV薬の服薬により体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか?							
知っている	62	62.0%	92	64.8%	154	63.6%	0.66
知らない	38	38.0%	50	35.2%	88	36.4%	
A型肝炎はケツ舐めや指マンだけでも感染することがあります。ただしワクチン接種をしていると予防できます。このことを知っていますか?							
知っている	-	-	73	51.4%	-	-	
知らない	-	-	69	48.6%	-	-	

表15 GCQ アンケート 配布地域別 HIV 抗体検査行動

	配布地域						Pearson カイ2乗
	沖縄		大阪		合計		
	n=100		n=142		n=242		
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？							
ある	62	62.0%	111	78.2%	173	71.5%	0.01
ない	38	38.0%	31	21.8%	69	28.5%	
HIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった理由はどれにあてはまりますか？ <sup>1)</sup>							
結果を知るのが怖い	10	26.3%	5	16.1%	15	21.7%	0.31
HIVに感染している可能性がない	9	23.7%	14	45.2%	23	33.3%	0.06
あいまいなままにしておきたい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
どこで検査を受けたら良いか分からない	10	26.3%	8	25.8%	18	26.1%	0.96
機会(時間や場所など)がなかった	16	42.1%	11	35.5%	27	39.1%	0.58
お金がかかるから	1	2.6%	1	3.2%	2	2.9%	0.88
HIVに感染しているのではないかと疑われる	2	5.3%	1	3.2%	3	4.3%	0.68
ゲイ・バイであると説明するのが面倒	3	7.9%	1	3.2%	4	5.8%	0.41
検査場所で知り合いに会う可能性がある	4	10.5%	1	3.2%	5	7.2%	0.24
その他	7	18.4%	1	3.2%	8	11.6%	0.05
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？							
1回だけ	15	15.0%	28	19.7%	43	17.8%	0.10
2回	11	11.0%	23	16.2%	34	14.0%	
3回	8	8.0%	14	9.9%	22	9.1%	
4回以上	28	28.0%	46	32.4%	74	30.6%	
生涯なし	38	38.0%	31	21.8%	69	28.5%	
一番最近にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？							
過去6か月の間	27	27.0%	45	31.7%	72	29.8%	0.07
過去6か月以上前～過去1年の間	13	13.0%	20	14.1%	33	13.6%	
過去1年以上前～過去3年の間	10	10.0%	26	18.3%	36	14.9%	
過去3年以上前	12	12.0%	20	14.1%	32	13.2%	
生涯なし	38	38.0%	31	21.8%	69	28.5%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？							
ある	40	40.0%	65	45.8%	105	43.4%	0.37
ない	60	60.0%	77	54.2%	137	56.6%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか？ <sup>2)</sup>							
病院	9	22.5%	23	35.4%	32	30.5%	0.16
診療所・クリニック・医院	6	15.0%	13	20.0%	19	18.1%	0.52
保健所・保健センター	25	62.5%	24	36.9%	49	46.7%	0.01
南新宿検査・相談室	1	2.5%	0	0.0%	1	1.0%	0.20
shot CAST なんば	0	0.0%	11	16.9%	11	10.5%	0.01
自宅/郵送検査(HIV検査キット)	0	0.0%	5	7.7%	5	4.8%	0.07
HIVcheck(東京/akta)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クリニック検査キャンペーン(大阪・岡山)	0	0.0%	1	1.5%	1	1.0%	0.43
NLGR+検査会(名古屋)	0	0.0%	1	1.5%	1	1.0%	0.43
M検(名古屋・岐阜)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
distaでピタッとちえっくん(大阪)	1	2.5%	3	4.6%	4	3.8%	0.58
とうかさん・レッドリボンdeエイズ検査(広島)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
SHIP HIV性感染症検査(横浜)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
mabuiで HIV&梅毒検査!!(沖縄)	2	5.0%	0	0.0%	2	1.9%	0.07
その他	2	5.0%	3	4.6%	5	4.8%	0.93

1) これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがない69人を対象に分析した。

2) 過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがある105人を対象に分析した。

表16 GCQ アンケート 配布地域別 性行動①

	配布地域				合計 n=242	Pearson カイ2乗	
	沖縄		大阪				
	n=100		n=142				
今後、あなたが男性とアナルセックスをするときにどのくらいコンドームを使おうと考えていますか？							
毎回使いたい	-	-	62	43.7%	-	-	
できるだけ使いたい	-	-	40	28.2%	-	-	
あまり使いたくない	-	-	5	3.5%	-	-	
使うつもりは全くない	-	-	1	0.7%	-	-	
相手によって変える	-	-	16	11.3%	-	-	
相手にまかせる	-	-	7	4.9%	-	-	
特に決めていない	-	-	11	7.7%	-	-	
これまでに男性とセックス(キスやフェラチオ、アナルセックス等)をしたことがありますか？							
ある	97	97.0%	140	98.6%	237	97.9%	0.39
ない	3	3.0%	2	1.4%	5	2.1%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？ <sup>1)</sup>							
ある	91	93.8%	127	90.7%	218	92.0%	0.39
ない	6	6.2%	13	9.3%	19	8.0%	
一番最近にアナルセックスしたのはいつですか？ <sup>2)</sup>							
現在から過去6か月間の間	62	68.1%	98	77.2%	160	73.4%	0.40
過去6か月間から過去1年間の間	10	11.0%	8	6.3%	18	8.3%	
1年以上前	16	17.6%	16	12.6%	32	14.7%	
覚えていない	3	3.3%	5	3.9%	8	3.7%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？ <sup>2)</sup>							
彼氏や恋人	34	37.4%	32	25.2%	66	30.3%	0.07
友達やセフレ	30	33.0%	39	30.7%	69	31.7%	
その場限りの相手	27	29.7%	53	41.7%	80	36.7%	
その他	0	0.0%	3	2.4%	3	1.4%	
一番最近にアナルセックスした相手と、どこで知り合いましたか？ <sup>2)</sup>							
ゲイバー	12	13.2%	8	6.3%	20	9.2%	<0.01
ゲイナイト	1	1.1%	6	4.7%	7	3.2%	
出会い系サイト	25	27.5%	14	11.0%	39	17.9%	
IT系SNS	1	1.1%	4	3.1%	5	2.3%	
mixi	0	0.0%	1	0.8%	1	0.5%	
twitter	6	6.6%	7	5.5%	13	6.0%	
スマートフォンのゲイ向けアプリ	19	20.9%	39	30.7%	58	26.6%	
ゲイ向けサークル	6	6.6%	0	0.0%	6	2.8%	
ゲイ向け合コン	2	2.2%	2	1.6%	4	1.8%	
ゲイの乱パ	0	0.0%	2	1.6%	2	0.9%	
有料ハッテン場	7	7.7%	28	22.0%	35	16.1%	
野外ハッテン場	5	5.5%	1	0.8%	6	2.8%	
学校、習い事	1	1.1%	0	0.0%	1	0.5%	
その他	1	1.1%	11	8.7%	12	5.5%	
覚えていない	5	5.5%	4	3.1%	9	4.1%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか？ <sup>2)</sup>							
使った	54	59.3%	74	58.3%	128	58.7%	0.09
使わなかった	26	28.6%	47	37.0%	73	33.5%	
覚えていない	11	12.1%	6	4.7%	17	7.8%	

1) これまでに男性とセックスした237人を対象に分析した。

2) これまでに男性とアナルセックスした218人を対象に分析した。



表 1 7 GCQ アンケート 配布地域別 性行動②

	配布地域				合計		Pearson カイ 2 乗
	沖縄		大阪		n=242		
	n=100		n=142				
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしたことがありますか？							
ある	-	-	98	69.0%	-	-	-
過去6ヶ月間がない	-	-	29	20.4%	-	-	-
これまでに男性とのアナルセックスはない	-	-	13	9.2%	-	-	-
これまでに男性とのセックスはない	-	-	2	1.4%	-	-	-
過去6ヶ月間にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？(複数回答) <sup>1)</sup>							
彼氏や恋人	-	-	24	24.5%	-	-	-
友達やセフレ	-	-	41	41.8%	-	-	-
その場限りの相手	-	-	49	50.0%	-	-	-
その他	-	-	0	0.0%	-	-	-
過去6ヶ月間にアナルセックスした時にコンドームをどのくらい使いましたか？ <sup>1)</sup>							
必ず使った	-	-	28	28.6%	-	-	-
使うことが多かった	-	-	29	29.6%	-	-	-
五分五分の割合で使った	-	-	16	16.3%	-	-	-
使わないことが多かった	-	-	17	17.3%	-	-	-
全く使わなかった	-	-	8	8.2%	-	-	-
過去6ヶ月間に、セックスの時に使用したものはありますか？							
ハンドクリーム	5	5.0%	1	0.7%	6	2.5%	0.03
水溶性ローション	66	66.0%	112	78.9%	178	73.6%	0.03
ぼっ起薬	3	3.0%	9	6.3%	12	5.0%	0.24
ラッシュ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0.40
ゴメオ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0.40
スピードなど	1	1.0%	1	0.7%	2	0.8%	0.80
その他の合ドラ	1	1.0%	0	0.0%	1	0.4%	0.23
脱法ハーブ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
静脈注射のドラッグ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0.40
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
PrEP	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0.40
PEP	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれも使用していない	29	29.0%	27	19.0%	56	23.1%	0.07
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験(再掲)							
いずれもなし	96	96.0%	132	93.0%	228	94.2%	0.49
バイアグラのみ使用	2	2.0%	7	4.9%	9	3.7%	
併用	2	2.0%	3	2.1%	5	2.1%	
過去6ヶ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？							
ある	6	6.0%	4	2.8%	10	4.1%	0.22
ない	94	94.0%	138	97.2%	232	95.9%	
過去6ヶ月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？							
ある	6	6.0%	8	5.6%	14	5.8%	0.90
ない	94	94.0%	134	94.4%	228	94.2%	

1) 大阪のみ。過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをした98人を対象に分析した。

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

著者	タイトル	雑誌名	巻号	ページ	出版年
塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理	都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性	厚生指標	65(5)	35-42	2018.5
金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一	地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因	日本エイズ学会誌	21(1)	34-44	2019.2

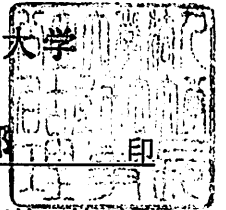
平成31年3月12日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人  
名古屋市立大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 郡 健二郎



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMに対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究  
(H29 - エイズ - 一般 - 001)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 看護学部・准教授  
(氏名・フリガナ) 金子典代・カネコノリヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月12日

厚生労働大臣 殿

機関名 特定非営利活動法人akta

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 岩橋 恒太



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMに対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究  
(H29 - エイズ - 一般 - 001)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 特定非営利活動法人 akta ・ 理事長  
(氏名・フリガナ) 岩橋恒太・イワハシコウタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 現在継続して検討中である )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 名古屋市立大学 )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

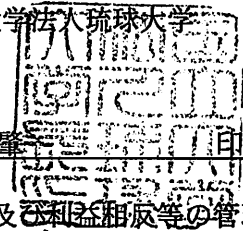
2019年3月20日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人琉球大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 大城 肇



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMに対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究  
(H29-エイズ-一般-001)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座 准教授  
(氏名・フリガナ) 健山 正男 タテヤマ マサオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	琉球大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

- (留意事項)
- ・該当する□にチェックを入れること。
  - ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 2月 26日

厚生労働大臣 殿

機関名 川崎医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 福永 仁夫



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
(氏名・フリガナ) 和田 秀穂 ・ ワダ ヒデホ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	川崎医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

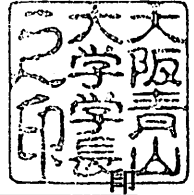
2019年5月13日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 大阪青山大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 久田 敏彦



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究 (H29-エイズ一般-001)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 健康科学部 看護学科 講師  
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史 (シオノ サトシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口チェックを入れること。・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。